

Master Modelers

マスターモデラーズ

Vol.36

三式戦

飛燕

州平シズル・ジオラマ!
ハセガワ1/48vsビックバード1/144
ワレ、コンソリヲ撃墜セリ!
超絶!チェコ・モデラーの飛燕

ハセガワ1/48
オトナモケイの飛燕

ビンテージ・キットの仲間入り!?
レベル1/32飛燕1型丙

リベットだらけのふる里キット!
マイクロエース1/48飛燕

ニューギニア戦線最高のエース
竹内正吾大尉

2006年上半期

注目のAFV新製品一気作り!

今年最大の陸物キット!

トランベッター1/35 ドイツ軍用機関車BR52

タミヤ1/35 III号突撃砲B型ジオラマ

トライスター1/35 IV号戦車C型

ドラゴンモデル1/35 IV号戦車D型

ドラゴンモデル1/35

IV号戦車E型 増加装甲板付き
“フォアパンツァー”

ドイツ計画車種 ニューコネクション1/35

IV号戦車
7.5cm無反動砲搭載型

1/48スクラッチ!
飛燕の前身、川崎キ-60重戦闘機

新版のA型でジオラマ野郎
ハセガワ1/32フォッケウルフFw190A-6

石井俊二の“気まぐれAFVモデリング”

トランベッター1/35 KV-2重戦車初期型

凄腕! スペイン人モデラーのお仕事

ドラゴンモデル&レジーキャスト1/35改造 シヤーマン・クラブ地雷除去車

魅惑のフィギュア・ワールド

フィギュアを自作しよう! 1/35 SSトーテンコープ師団兵

海外イベント・リポート

OSTROW WIELKOPOLSKI 2006

spaceARTIST

FRENCH BATTLE TANK B1 bis

MM-282



フランスの怪物、ドイツ戦車師団を阻止す

1/35ミリタリーシリーズで世界初登場

1/35フランス戦車 B1 bis 《新発売》5,040円(本体価格4,800円)

第二次大戦序盤、フランスに侵攻したドイツ軍を迎え撃ったB1 bis戦車が1/35MMシリーズに加わります。車体右前部に75mm榴弾砲、砲塔に47mm戦車砲という強火力と最大60mmの重装甲を備え、圧倒的な存在感でドイツ軍兵士に強烈な恐怖感を与えたその個性的な姿を実感たっぷりに再現しました。さらに車体上部は全面のリベット模様や上面ハッチのルーバーなど細部までこだわりながら立体化し、作る楽しさを高めました。加えてB1 bis戦車の勇戦を伝える読みごたえの戦闘記録もセット。1/35プラモデルでは世界初となるB1 bis戦車。一味違った組立ての醍醐味を味わって頂けるモデルの登場です。



独特なデザインのキャタピラは、はめ込みによる連結組立て式

フェンダーとマフラーはマーキングに合わせて2種類から選べます

大戦中のフランス軍戦車兵を1/35MMシリーズで初のモデル化

マーキング4種類付き

エスケープハッチや工具類は別パーツ



全長:192mm

車体本体はスライド金型により各所のボルト模様も立体感たっぷり

キャタピラ側面のディテールもリアルに再現

後部の牽引用チェーンは実物の高い金属製

フランス戦車特有の独特な迷彩塗装を載せたカラー塗装図が付属



TAMIYA SHOP ONLINE ネットでかんたんショッピング。充実したラインナップの中からお選びください。

tamiyashop.jp

●価格はメーカー希望小売価格です。●写真は実際の商品と仕様が異なる場合があります。

タミヤカスタマーサービス タミヤ製品についてのお問い合わせなどありましたらお気軽にご相談ください。また、お近くの模型取扱店もご案内しています。
TEL 03-3899-3765 [東京] 054-283-0003 [静岡] 営業時間: 平日・8:00~20:00 土、日、祝祭日・8:00~17:00

株式会社 タミヤ 〒422-8610 静岡県駿河区馬田原3-7 ●最新情報をタミヤのホームページで www.tamiya.com

1/35 Military Miniature Series

TAMIYA
scan: 月夜の火

Born as your Wishes!

Tristar

1/35 AFV Series

NEW German Panzer Kpfw.38(t) Ausf.E/F

ドイツ 38(t) 戦車 E/F 型

¥3360



35003 ドイツ I 号戦車 A 型 税込価格 ¥5040



35008 ドイツ I 号戦車 A 後期型 税込価格 ¥5040



35010 ドイツ 20mm 対空機関砲 FLAK 38 税込価格 ¥1890



35014 IV 号戦車系車両ホイールセット 税込価格 ¥1680



35015 ドイツ IV 号戦車 D 型 税込価格 ¥3990



35017 ドイツ IV 号戦車 C 型 税込価格 ¥4200



35019 ドイツ I 号対空戦車 A 型 税込価格 ¥3360



35021 ドイツ IV 号戦車 B 型 税込価格 ¥4200

1/35 FIGURE Series



35001 ドイツ 武装親衛隊戦車兵セット 税込価格 ¥1260



35002 ドイツ 自走砲兵セット 税込価格 ¥1365



35004 ドイツ 擲弾兵セット Vol.1 税込価格 ¥1365



35005 ドイツ 擲弾兵セット Vol.2 税込価格 ¥1365



35007 ドイツ 自走砲兵セット Vol.2 税込価格 ¥1890



35011 ドイツ アフリカ軍団 税込価格 ¥1890



35008 ドイツ 将校野戦会議セット 税込価格 ¥1365



35009 ドイツ トロピカルパンツァークルー 税込価格 ¥1365



35012 ロシア 戦車兵セット 税込価格 ¥1890



35018 ドイツ 歩兵セット 税込価格 ¥1365



35013 20mm 対空機関砲フィギュアセット 税込価格 ¥1470



35018 ドイツ "GD" 師団将校作戦会議セット 税込価格 ¥1050

トライスターモデル日本総代理店 有限会社トライスタージャパン

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1 TEL/FAX: 03-3233-0045

トライスター製品は全国の模型店、玩具店などでお買い求めください

"Choi" Mode New Kits Review!!

リリースされたハセガワの雪風、ミニアート初のAFVキット、AFVクラブNo.100、エデュアルドからは"キモかわ"飛行機、今月もお腹いっぱい"ちょい"モデ・キットレビュー!!



日本海軍艦艇ファン感涙! グッドサイズの日本駆逐艦モデル! 1/350 日本海軍甲型駆逐艦 雪風 昭和十五年 竣工時

必殺の酸素魚雷を抱き太平洋を疾駆、幾多の戦火をくぐり抜け終戦まで生き延びた日本海軍駆逐艦 雪風が1/350でハセガワから登場。最新の技術と考証が盛り込まれた日本駆逐艦の大型キットを手にとれるうれしさは格別!

■ハセガワ 1/350 日本海軍甲型駆逐艦 雪風 昭和十五年 竣工時 ■インジェクションキット 価格4410円 ○ハセガワ

WWII開戦当時、世界最強の艦隊決戦用駆逐艦であった陽炎型駆逐艦は1/200でニチモ、1/300でタミヤなどがキット化していたが、1/350では初めてハセガワがインジェクションキット化した。

キットは陽炎型8番艦の雪風の竣工時をモデル化。船体は左右2パーツ割りで内部の桁も用意され、変形やゆがみの心配はない。艦底はフルハル仕様のみ。艦橋、12.7cm連装砲塔、4連装61cm魚雷発射管などは一体成形ながらスライド金型で詳細なモールドを実現。組み立ても問題なく、折れやすいパーツの扱いに注意する程度。そのまま作っても十分な質感で、ディテールアップのベースとしてもOK。クリア成形の二式大艇もオマケと言うにはオシすぎる出来だ。インストの詳細な実艦解説と艦歴簿もうれしい配慮。同時に専用エッチングパーツ (価格2100円)、専用クリアークラス (通販限定商品、価格6510円) も発売、グッドサイズの日本駆逐艦を堪能しよう。



▼ちょいモデはテストショットを制作したもの。発売中のキットはスクリーンとベースの台座支持部が全メッキ部品となっている。



▲別売りの専用エッチングパーツ (価格2100円)



▲クリアー成形の二式大艇。これだけ単体販売しても負いほどの出来。



▼艦首部分。艦橋基部および主砲塔は一体成形だがシャープな仕上がり。また、主砲塔は金属製パーツが用意されている。



▼付属デカール。



▼艦尾部分。機雷投射器、防空具、艇い煙突などが臨場感を盛り上げる。



▲左舷より。舷側には消磁電路がモールドされている。

東欧メーカーのイメージを打破する、ナイスな戦車キット！ 1/35 ソ連T-70M軽戦車/ドイツT-70/743(r)戦車

独特の味を持つフィギュアセットなどで定評のあるミニアートが初の装甲車両キットT-70M軽戦車をリリース。ソ連軍バージョンとドイツ軍両バージョンの2種類を同時発売、それぞれ各国戦車兵フィギュア5体も付属。

■ミニアート 1/35 ソ連T-70M軽戦車/ドイツT-70/743(r)戦車 価格各4830円 ○バウマン

T-70Mは大戦中絶頂期の代表的なソ連軽戦車だがキットに恵まれず、ウクライナのミニアートが同社初の戦車キットとしてリリース。東欧ロシア製キットという組み立てが難しいイメージがあるが、各部の合はよくパテを使わずに1日で組み立てることができる。モールドや連結履帯もシャープで車体下部のスライド金型、ペリスコープやライトの透明パーツ、カラー説明書などの工夫もこれまでの東欧メーカーとは一線を画すところ。製作上の注意点としては、転輪がキチンと接地するようにサスアームを調整して接着することぐらい。なおソ連軍版とドイツ軍版の内容の違いは付属フィギュア（単体売りもあり、別項でレビュー）、インスト、デカールくらい。ミニアートといえばフィギュアや建物といった小物で評判だったが、戦車キットでもその力が十分に発揮されている。この調子でSU-76も出して欲しいなあ。



キモかわいい独特のフォルムをみごとに再現、"モスカ"の決定版！ 1/48 I-16 タイプ10

1/48 航空機を精力的にリリースするエデュアルドから、大戦前からWWIIにかけて活躍したソビエト空軍戦闘機I-16がリリースされた。スペイン内戦で"モスカ"（ハエ）"ラタ"（ネズミ）と呼ばれた独特のフォルムが楽しめる。

■エデュアルド 1/48 I-16 タイプ10 ■インジェクションキット 価格3412円 ○ビーバーコーポレーション

I-16は1930年代に登場した世界初の引き込み脚装備の単座戦闘機で、近代ソ連空軍の基礎を築いた。タイプ10はスペイン内戦で使われたタイプ56を改良し武装強化したもので、操縦性はやや悪かったものの上昇力にすぐれ、ノモンハン事件、フィンランド戦争などで活躍、独ソ戦開戦時も主力機として配備されていた。

キットはエデュアルドのスタンダードなもので、プラ部品に加えエッチング、マスキング、カラーのインストが付属。木、金属、羽布張りの3種類の素材で製作された実機のフォルムがうまく再現され、特に羽布張り部分のリップ表現はすばらしい。製作も細い主脚の取り付けに注意すれば特に問題ないだろう。コクピット乗降ドアは開閉選択式。デカールはソ連空軍の4機分。文句なくI-16の決定版的キットと言える。パーツの構成から判断して、今後タイプ17やタイプ24などのリリースもありそう。日本機ファンとしては、九七戦と戦ったノモンハン事件や電戦と戦った中国空軍などのバージョンも期待したい。

▼タイプ10は機首上面の機銃バルジが特長。



▼主翼裏面の羽布張り表現は本キットのキモ。



▼下面、複雑な油系統も的確に再現されている。

▼機首カウリングの正面グリルはエッチングのシャッターが付属。



バルバロッサ作戦主軸戦車の秀作キットがリリース! 1/35 ドイツ38(t)戦車 E/F型



チェコスロバキアが開発。WWII初期のドイツ軍快速進撃を支え、ヘツァー駆逐戦車にまで発展した傑作軽戦車38(t) E/F型がトライスターよりリリース。定評あるディテールに加え、組みやすさも十分に配慮された秀作。

■トライスター 1/35 ドイツ38(t)戦車 E/F型
■インジェクションキット 価格3380円 ○トライスター・ジャパン

バルバロッサ作戦に参加したドイツ38(t)戦車 E/F型がトライスターからリリースされた。前作のIV号戦車シリーズがディテールは良好ながら組立ては簡単とは言いがたかったが、今回の

38(t)はとても組みやすい好キットとなっている。

各装甲板を合わせる部分をキチンと処理することに気をつければサクサク工作が進む。基本的にはバテいらず。3.7cm砲身、7.92mm機関銃身、マフラー排気口と開口部分は全てスライド金型で抜いているので、各部のパーティングラインを消すだけでいい。エッチングパーツは必要最小限、金属パーツに慣れない人でも十分に組み立てられる。履帯は分割連結式で指でバチバチはめていくタイプだが、個体差があってバラバラになりやすいので、完成後は差し込み接着剤で固めておくといい。

今後のバリエーション展開が楽しみ。電撃戦の主役C/D型や装甲列車部隊のG型をぜひ!



AFVクラブのアイテムNo.100は、戦後イギリス傑作戦車をキット化! 1/35 センチュリオンMk5/1



ドイツ軍およびベトナム戦車両に傾注するAFVクラブNo.100のメモリアルな製品は、イギリスの現用傑作戦車センチュリオンMk5/1。同時にキットに含まれる可動サスペンション&ホイール(価格1680円)も別売。

■AFVクラブ 1/35 センチュリオンMk5/1
■インジェクションキット 価格3780円 ○GSIクレオス

キットの仕様はベトナム戦争のオーストラリア軍。エンジン付近を別パーツにするために車体上部は4つに分割され、他の型式のリリースも十分考えられる。キット内容は色々な素材が取り入れており、ホルストマン・サスペンションは実車と同様にバネ入りの可動式。履帯はベルト式だが同社の別売り可動式履帯(価格1995円)も使用可能。砲身は金属製でライフリングまで入り、カバーまで一体モールドのベリスコープやサーチライトは透明パーツで再現されている。AFVクラブの特徴として細いパーツにゲートが食い込み、製作時に切り出しと整形の時に破損しやすい。作例ではパーツB29をいくつか破損してしまい、0.4mmの真ちゅう線に置き換えている。また作例では付けていないが付属の金属ワイヤーは硬いので焼きなますとよい。組立説明書にもいくつか間違いがあるので注意しよう。

○工程17のH4はF6の間違い。
○工程21でD4を付ける指示があるが、これは工程16でドレイプスハッチを作っているのと同様にB28とD3を付けなくてはいけない。
○工程16でドレイプスハッチを作っているのと同様にB28とD3を付けなくてはいけない。

▼ちょいモデルでは砲塔のFRAG(金属パーツの方)を砲塔よりの穴につけているが、本当は説明書通り右の穴につくのが正しい。



キットにそのまま組み込める“東部戦線のタンクキラー”！ 1/32 ハンス・ウルリッヒ・ルーデル立像/坐像

好評の1/35ロンメル将軍、東郷元帥に続くサクセスモデルズの新作は、1/32ハンス・ウルリッヒ・ルーデルの立像/坐像。そして新シリーズWWIIエースパイロットの次なる展開は、ゼロ戦エースのあのパイロット？！

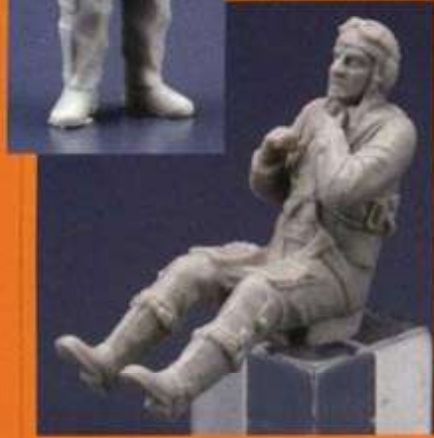
■サクセスモデルズ1/32ハンス・ウルリッヒ・ルーデル(立像) 価格1470円
■1/32ハンス・ウルリッヒ・ルーデル(坐像) 価格1785円 ■レジンキット○サクセスモデルズ

昨年1/35エルヴィン・ロンメル(価格1470円)、1/35連合艦隊司令長官 東郷平八郎(価格1575円)を発売したサクセスモデルズが、「WWIIエースパイロットシリーズ」の第1弾として、ドイツ全軍で唯一のダイヤモンド剣付き金柏葉騎士十字章受章者である急降下爆撃機パイロット、ルーデル大佐の1/32立像および坐像をリリース。

坐像はマイク調整する有名な写真をモチーフとし、ハセガワ1/32 Ju87Gのコクピットに組み込めるような姿勢を調整。立像の方は1944年夏の打ち合わせ中写真がベース。同社の山崎GMによれば「塗装して組み込むだけで、暖機運転中の発動機の爆音や出撃前の喧騒が聞こえてくるような、雰囲気を持ったフィギュア」とのこと。キットとフィギュアの相乗効果を意図し、次のアイテムにはタミヤ1/32零戦二型に適合する坂井三郎中尉(予価2100円)を準備中。日露戦争シリーズ、ドイツWWII将軍シリーズも新たな企画が進行中で、今後のリリース展開が非常に楽しみだ。

■NET-SHOP モデルズギャラリーサクセス URL: <http://www.saku-retsu.com/>

■問い合わせ E-mail: s-master@saku-retsu.com まで。



最後期型に燃える“アウグスブルクの鷲”！ 1/72 ドイツ空軍戦闘機メッサーシュミット Bf109G-10/K-4

ドイツの名戦闘機メッサーシュミット Bf109 シリーズを、地道にF型からリリースし続けてきたファインモールド。G型各タイプを経て、力強いカウリング形状などで人気の高い最後期型のG-10/K-4型がいよいよ登場。

■ファインモールド1/72 WWIIドイツ空軍戦闘機メッサーシュミット Bf109G-10 “レーゲンスブルク工場製初期型” / メッサーシュミット Bf109K-4 “バーデンプラッテ” ■インジェクションキット 価格各2310円 ○ファインモールド

これまでF-2、F-4、G-2、G-4、G-6と実機通りの進化を遂げてきたファインモールドの1/72 Bf109シリーズ。今回のG-10/K-4を持ち望んでいたファンも多いと聞く。その期待通り、本キットは現在の決定版といっても過言ではない内容となっている。

パーツ構成はこれまでの主翼関係の共通パーツに、G-10/K-4用の新規パーツを追加。大型尾翼方向舵は2種類を用意。G-10とK-4の相違点である胴体はエンジンも再現。カウリング以外は完全別パーツ。なおG-10のキットは主翼バルジの小さいレーゲンスブルク工場製を再現しているため、K-4キットに入っている大型バルジパーツは付かない。

作例は一般的なK-4として制作したが、パーツの合いはすばらしく何の問題もない。左右カウリングは接着不要など。なお塗装例の機体の方向舵の種類、脚座カバーの有無などはインストにきちんと指示されている。今後のバリエーション展開にも期待、万人にオススメできる飛行機キットだ。





アカデミーのアメリカ戦車新作は、男の大砲3段積み！ 1/35 M3リー中戦車

1/35キットではタミヤのものだけだったM3リー中戦車だが、M3スチュアート、M10/M36駆逐戦車などでアメリカ戦車についているアカデミーから発売。75mm砲、37mm砲、7.62mm機銃の3段積み、男らしいスタイルが魅力！

■アカデミー 1/35 M3リー中戦車
■インジェクションキット 価格3570円 © GSIクレオス

キットは内部まで再現された気合の入った内容で、砲塔、砲塔バスケット、エンジンを除く室内がモデル化されている。長短2種類を選択できる車体の75mm砲と砲塔の37mm砲は、それぞれスライド金型で開口済み。組み上げるとそれぞれの照準器が運動するようになっていて楽しい。製作は基本的に問題はないが、内部構造と車体上部が干渉しないように、調整しつつ組んでいくのがいいだろう。リベットを垂直に抜くために各面ごとにバラバラに分割された装甲板が、戦闘室後部付近で合いがよくないのでスキ間を埋めなくてはならない。「3砲」と呼ばれる車長キューボラもパーツの幅が足らず、貼り合わせた時に隙間が生ずるのでプラバンをはさんだ。またベルト式履帯はM10などと共通であるため若干長く、ちょいモデでは1コマ詰めている。



汎用性の高い独/ソ冬服戦車兵フィギュア、東欧風味添え！ 1/35 ドイツ/ソ連戦車兵冬服 1943-45

独特の味わいのあるフィギュアをリリースしているウクライナのミニアートから登場した新フィギュアセットは、独/ソ両国の冬服の戦車兵。いずれも素直なポーズで汎用性に富み、さまざまな状況のジオラマに対応できそう。

■ミニアート 1/35 ドイツ戦車兵冬服 1943-45 / ソ連戦車兵冬服 1943-45 ■インジェクションキット 価格各1575円 © バウマン



ミニアート社のフィギュア新製品は「ドイツ戦車兵冬服 1943-45」および「ソ連戦車兵冬服 1943-45」の2セット。同時リリースされたT-70M軽戦車のキットにも付属している。両セットのフィギュアは適度に静かなポーズで、小改造の元としてもグッド。特にシープスキンコートをもったソ連兵フィギュアが一気に増えた点は注目に値する。

ディテール再現度ではドラゴンのGen.2シリーズには敵わないが、全体の自然さにとじみ出る存在感がグッと来る。柔らかめの素材なので、袖口などのポイントを彫り込んでやればさらに良くなるだろう。ただしパーツの合いは今ひとつなので、サックスアートと中身の内容にも多少差異がある（勝手に描かれていても手袋を付けていたり、履帯がモールドされていないなど）に注意。何よりもソ連兵の傍らにちょこんとたたずむキュートな犬が入っていないのは残念～！

問い合わせ先（順不同）
ハセガワ 054-628-8241
GSIクレオス 03-5211-1844
サクセスモデルズ <http://www.saku-retsuo.com/>
s-master@saku-retsuo.com
バウマン 03-3795-2666
ビーバーコーポレーション 03-3655-5300
トライスタージャパン 03-3233-0045
ファインモールド 0532-23-6810

GERMAN TANK CREW, WINTER 1943-45



SOVIET TANK CREW, WINTER 1943-45



■特集 今年上半期間までの話題の新作AFVキット

- 今年最大の陸物キットはコレに決まり! ドイツ軍用機関車BR52
トランベッター1/35 ドイツ軍用機関車BR52/加藤則行 008
- III号突撃B型ジオラマ『1945年5月 プラハ アルト・フックス (古狐)』
タミヤ1/35 III号突撃砲B型/荒屋敷正和 014
- トライスター注目の第2弾!
トライスター1/35 IV号戦車C型/徳永達矢 020
- 傑作IV号が実車取材によりさらにグレードアップ!
ドラゴンモデル1/35 IV号戦車D型/七星 明 024
- 増加装甲付きIV号E型戦車
ドラゴンモデル1/35 IV号戦車E型"フォアパンツァー"/石井優二 029
- ドイツ軍試作・計画車輛 IV号戦車無反動砲型
ニューコネクション1/35 IV号戦車7.5cm Rf.K 43搭載型/上田昌夫 033

■特集 川崎 キ-61 飛燕

- 州平シズル・ジオラマ! ワレ、コンソリヲ撃墜セリ!
ハセガワ1/48 飛燕I型甲vs R1ai Systems 1/144 B-24リベレーター/松本州平 065
- ン10年ぶりの外国製 飛燕
ドラゴンモデル1/48 飛燕I型/松本州平 070
- ビンテージ・キットの仲間入り! ?
レベル1/32 飛燕I型丙/K 2 072
- オトナモケイの飛燕
ハセガワ1/48 飛燕I型丁/前島敏彦 077
- 超絶! チェコ・モデラーの飛燕
ハセガワ1/48 飛燕I型丁/ズデネク・セベスタ 080
- リベットだらけのふる里キット!
マイクロエース1/48 飛燕I型乙/大野周作 083
- ニューギニア戦線最高のエース
竹内正吾大尉/竹内規矩夫 086
- 1/48スクラッチ! 飛燕の前身、川崎キ-60 重戦闘機
スクラッチビルド1/48川崎キ-60/竹内規矩夫 087
- 三式戦闘機 飛燕イラスト解説 127
- 飛行開発実験団50周年記念塗装の富士T-1B
ハセガワ1/72 富士T-1Bジェット練習機/松永富夫 092
- 所沢航空発祥記念館のT-1B 856号機 095

- 素組み、無塗装で新製品を紹介
"ちょいモデ"ニューキットレビュー! 002
- アカデミー1/35 M3リー中戦車○AFVクラブ1/35 センチュリオン戦車 Mk.5/1
- ミニアート1/35 ソ連T-70M軽戦車/ドイツT-70/743軽戦車
- サクセスモデルズ1/35 フィギュアシリーズ4種
- ミニアート1/35 ドイツ戦車兵冬服1943-45/ソ連戦車兵冬服1943-45
- ハセガワ1/350 日本海軍 駆逐艦 雪風 昭和十五年 竣工時
- エデュアルド1/48 116タイプ10
- ファインモールド1/72 メッサーシュミット Bf109G-10/Bf109K-4
- トライスター1/35 ドイツ38(t) 戦車E/F型
- スペイン人モデラーのお仕事
シャーマン・クラブ地雷除去車
ドラゴンモデル1/35 M4A48
レジャーキャスト1/35 改造キット/AM.テロ 041
- 石井優二の気まぐれAFVモデリング!
トランベッター1/35 KV-2重戦車初期型/石井優二 037
- The Legend メヒコ生まれのセニョリータ
ベガソ1/48 チェスタースウィービー/樋口眞三郎 116
- ヒコーキモケイのススメ
アキュレイトミニチュア1/48 TBF 1Cアベンジャー/
前島敏彦 118
- 魅惑のフィギュア・ワールド
フィギュアを自作しよう!
インフィニティシャープ1/35 SSトールンコープ兵/
ヒュン・ジェー・ヒュック 120
- 海外イベント・リポート
OSTROW WIELKOPOLSKI 2006 113
- モデ吉のほのぼの模型日記 松本州平 097
- My Life as a Modeler! モデラー探訪
第3回 樋口眞三郎さん 050
- DUST ドイツ軍グンター量産型
ダスト・リミテッド1/35改造 重戦闘歩兵兵器グンター/
長谷川高朗 046
- 新版のA型でジオラマ野郎
ハセガワ1/32 フォッケウルフFw190A-6/佐藤太一 123
- おすすめ新刊・洋書 051
- 新製品情報 055
- モデラーが見た! 護衛艦隊集合訓練リポート 106
- 読者のページ 107
- プレゼント 108
- 定期購読のお知らせ 112



今年最大の陸物キットはコレに決まり!

トランベッターがまたまた大型キットをリリース。しかもアイテムはドイツの戦時型蒸気機関車 BR52 型という珍品! 列車砲やカルで大型キットに慣れていた AFV モデラーも、1/35 スケールの機関車には驚いたことであろう。キットは最近のトランベッター社のスタンダードともいえる素晴らしい出来。本誌でこれまで数々の“でかキット”を料理してきた加藤則行氏がまたもやこの“どでかキット”BR52 をジオラマにしちゃいました。



Kriegslokomotive BR52 WWII ドイツ軍用機関車 BR52



- トランベッター 1/35 ドイツ軍用機関車 BR52
- 製作・文: 加藤則行
- 協力: パウマン
- Trumpeter 1/35 Baureihe 52 mit Steifrahmentender
- Modeled & Text by NORIYUKI KATO





▲足回り、緩衝器などの汚し、金属の擦れなどリアルに再現する点がこのキットのキモ!

トランベッター社は、予想外のアイテムを次々とキット化し、私たちを楽しませてくれます。今回のBR52もなかなか面白いアイテムですね。BR52は、開戦により輸送需要が急激に高まったため、急遽現行のBR50型をベースに簡略化(部品点数を6000から5000)した戦時大量生産向けの車両です。6000両以上量産されたそうで、当初5年も持てばよいとされていたにもかかわらず、そこはマイスターのお国製、使い勝手が良く信頼性の高いBR52は、戦後40年を経た1980年代まで現役で稼働していました。BR52は細部の異なるバリエーションがあるようで、キットも炭水車は8t角形のタイプが付属しています。

■BR52の製作

大きな箱にぎっしりと詰まったパーツに思わず「うわっ」と声をあげてしまいました。ところが実際に組み始めると意外と組みやすくサク

サクと進みます。注意することは部品の破損と紛失です。小さく繊細なパーツが多いので、切り出しに注意し、パーツを飛ばし行方不明にならないよう気を付けましょう。モデラーの作業場って結構散らかっていますからね。私、やってしまいました。汽笛のパーツを異次元の彼方へ(泣)。仕方なくランナーをリユーターに挟み、簡易旋盤で切り出し自作し、ついでに真ちゅう線で汽笛のパイプなどを追加しました。完成後、全車輪がレールに乗るよう車輪の取り付けの歪みに注意しましょう。

部品が多く大きなサイズのキットということで、一見大変そうですが、パーツの成形状態やモールドは繊細で、さらにパーツの合いも非常に良いので、ストレスなく組み上がりました。

塗装は黒にしようか。迷彩にしようか、しばし迷いましたが、思い描いたジオラマが終戦直後ということなので、黒ベースで仕上げることにしました。

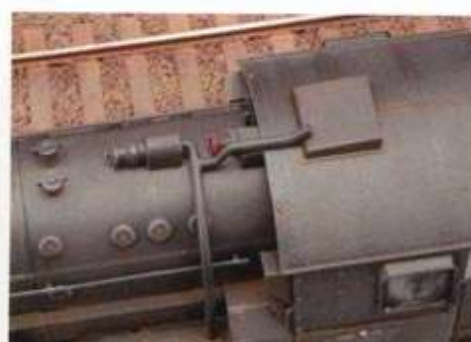
タミヤアクリルのセミグロスブラックで基本塗装し、基本色にジャーマングレーとフラットブラウンを加え、グラデーション塗装しました。足回りはレッドで塗装し、エナメルでスミ入れています。資料写真を見ると意外に汚いです。吹き上げる蒸気で埃が付着するのでしょうか。

アクリルのバフ+フラットアースで軽く吹き付け、汚しを入れました。油彩でサビ色を加えつや消しクリアーで整えてからタミヤエナメルのチタンシルバーで銀色部分を塗ります。

キャビンの釜焚き口と炭水車にこぼれ落ちた石炭を加え、ジャンクのスコップを角スコップ

▼AFVとは異なり、鉄道モノは身近な存在。いつも見慣れた列車や貨車の汚れ方も参考になるぞ。





に変えキットに加えました。

■ジープ& VW

ジオラマにするため他の車両も加えました。
鉄道が舞台なのでレールロードJEEPを作ってみ

ました。タミヤのウィリス・ジープの車輪ホイールに水道管用13mm銅パイプソケットを差し込み、レールガイドをプラ棒で作リ鉄道用車輪に変更、エッチングのジャンクの中からチョイアップしました。

道路にあるフォルクスワーゲンはいタレリのタイプ87です。タイヤが通常タイプ、民間タイプ、バルーン・タイプの3種類がセットされ、デカールもイギリス軍使用時のものまで付属する親切なキットです。今回はドイツ軍の事務所用車両を徴収したものという設定にしました。

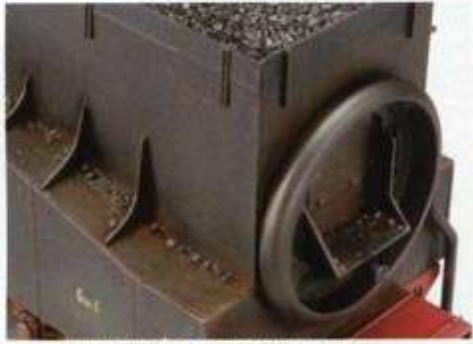


▲運転室も本キットの見所の一つ。塗装の色や汚れた感じは鉄道誌の写真などが参考になる。

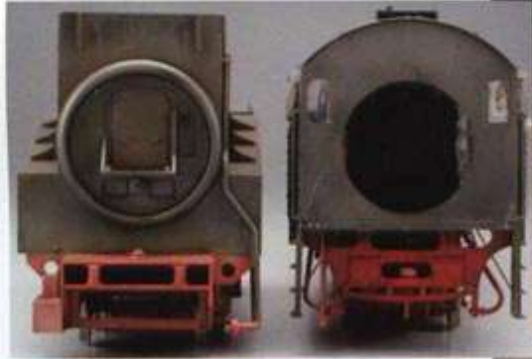


◀▲加藤氏は根っからのジープ好き。てなわけで、作例は軌道走行のジープにアレンジ。





▲▼機関車と炭水車の連結部分はこんな感じ。



▲石炭らしさを演出したリアルな塗装に注目。
周囲にはこぼれた落ちた石炭までも（甚細っ！）。



▲炭水車の後部はこんな感じ。





塗装はタミヤアクリルで行っています。

■フィギュア

機関車のフィギュアはミニアートの「独・戦車兵5体入り・砲身洗浄シーン (GERMAN TANK CREW AT WORK)」(品番MA35010 取り扱い：バウマン) から2体を改造して製作。ジープのフィギュアは、立ちポーズがタミヤ「イギリス歩兵 巡回セット」の1体を改造したもの。ドライバーはアーティザンモリのレジン製フィギュアです。

米軍将校と民間人女性にマスターボックスの新製品「V-days 米兵+民間女性4体

(Europe, 1945)」(品番MA3514 取り扱い：バウマン) から3体をチョイス。この手の出来の良いフィギュアは貴重です。ただ箱絵のようなスリムな女性だといいますが、中身は結構グラマーなでかいお姉さんですよ(笑)。

復員してきた空軍防空隊の女性隊員は自作フィギュアです。塗装はすべてタミヤエナメルで行いました。

■ジオラマベース

設定当初は、駅でのワンシーンであれやこれやと考えていたのですが、どうも期日に間に合いそうもないので、シンプルな線路と道路とい

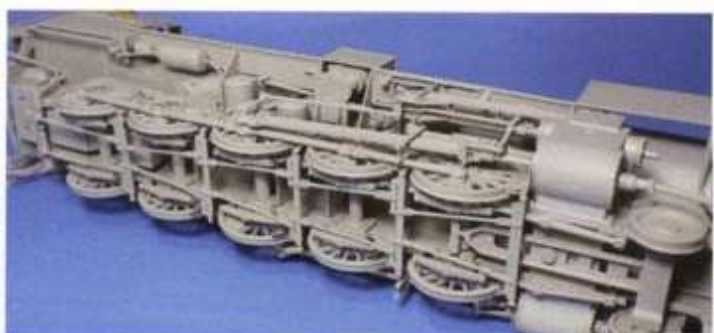
う芸のない場面になってしまいました。

追加線路はドラゴンモデルの「レールセット」です。鉄道模型用の敷石を置き、KATOのリアルグラスで草を作っています。電柱はアベールの「1/35電柱セット2本4磚子タイプ (Telegraph pillar set for 4 insulators)」(品番D-07 問い合わせ：バウマン) で、樹木はサツキの枝にドライフラワーを接ぎ木して葉っぱを付けています。塗装はタミヤアクリルで彩色しています。

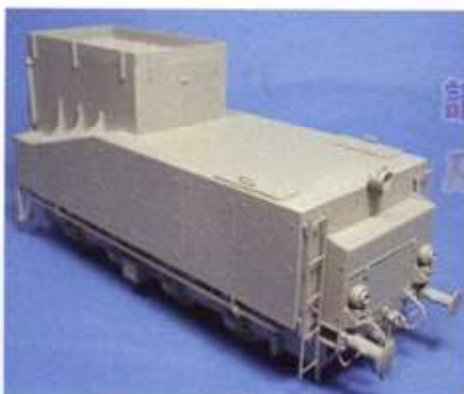
私は「鉄ちゃん」ではありませんが、機関車のキットも楽しいですね。色々と妄想が膨らみます。戦時モノに限らずロマンチックなドラマも作れそうです。



▲パーツ数は多いが、モールドの仕上がりやパーツの合いが良いので、組み立て上の問題はない。
▼運転室も多数のパーツでリアルに再現されている。



▼ジープはタミヤのキットを改造。車輪は自作。





▲立ちポーズの兵士は、タミヤの『イギリス歩兵 巡回セット』の1体を改造して使用。ドライバーはアーティザンモリのレジン製フィギュア。



▼フォルクスワーゲン・タイプ87は、イタレリのキットを使用。このキット、実は軍用。北アフリカ仕様。民間用を選べるスグレものなのだ。



▼マスターボックスの新製品『V-days 米兵×民間女性4体 (Europe, 1945)』の中の3体を使用。このフィギュアはモールド、雰囲気ともに良い感じ。しかも階級章、記事類のデカールも付属。

▼RAF防空隊の女性隊員は自作。



Alt Fuchs

III号突撃砲戦車B型 1945年5月プラハ

Sturmgeschütz III Ausf.B in Prague on May 1944

タミヤ久々の1/35 WWIIドイツ軍モノ新製品として登場したIII号突撃砲B型は、ドイツ戦車コレクションにはなくてはならない人気アイテム。ライフルリング付きアルミ砲身やエッチング製のライトカバーとエンジンメッシュ。さらにバネ内蔵の可動式サスペンションなど一段と凝った内容に仕上がっている。



■タミヤ1/35 ドイツIII号突撃砲B型
■製作・文：荒屋敷正和
■協力：パウマン、M.S.モデルズ
■Tamiya 1/35 Sturmgeschütz III Ausf.B (Sd.Kfz.142)
■Modeled & Text by MASAKAZU ARAYASHIKI



タミヤ1/35MMシリーズのWWIIドイツもの新作、『III号突撃砲B型』を遅ればせながら作ってみました。既に各模型誌でレビューされているので、もう多くのAFVモデラーの方が手にしていることでしょう。今回は少し変わったジオラマ設定はないかといういろいろ考えた末、以前より気になっていた、1枚の記録写真をモチーフにヴィネットにしてみました。大戦末期まで生き延びたIII突B型、1945年5月のプラハ蜂起時の“古狐”です。

■製作

手元にある資料は、チェコ市民に捕獲されたB型を捉えたショット1枚のみという（必死に探せば存在するんでしょうけど……）、手掛かりとしては非常に心細い状況なんですが、逆にこれを良いことに自分なりにプラハ蜂起でのIII突をイメージして製作しました。

組み立ては、説明書に従って作業を進めつつ、併行してアベールのエッチングパーツ『Sturmgeschütz III, Ausf.B,C,D』（品番35021 取り扱い：パウマン）でディテールアップしました。このパーツはドラゴンモデルのキット対応ですが、タミヤのキットにも十分使用できます。ただし、OVM類のクランプがどうもオーバースケールなので、エデュアルドのパーツに交換。なお、末期らしさの脚色とともに手を加えたポイントには以下の通りです。

○フロント、リアのマッドフラップのリブ部分に細く切ったブラペーパーを接着。

○リア・マッドフラップ受け（左側）をブラバンで複製。

○車体と機関室の一部省略されている溶接ラインをブラペーパーで再現。

○車体後部、車体上下の接合部分にボルトを追加。

○各ライトにソフトワイヤーで配線コードを追加。

○車体前部のヘッドライト/牽引ホルドをパッションモデルズ（取り扱い：M.S.モデルズ）のレジン製パーツ『Towing holds, Headlight Cover for Stug.III (Early) Ausf.A~E』（品番P35-005）に交換。このパーツは、クリアレジンによるライトレンズや装甲カバー用の螺ネジまで再現された非常に出来の良いディテールアップセットになっています。さらにパーツは装甲カバーが別パーツになっているので、片方は破損した状態に。

○車体前部にブラバンでラックを追加し、予備履帯を装備。

○機関室側面の装甲板にパッションモデルズの『Screwheads Set (100 pcs)』（品番P35-001）を使って、省略されているマイナス・ネジを追加。この100個入りネジ・セットには、専用の0.6mm径ドリル刃もセットされています。

○砲隊機基部固定用の2個のリベットを追加。

○機関室上面の牽引ロープの固定具はモデルカステンの『III突G型用小パーツセット』を使用。

○記録写真を見ると、荷物積載用のフレームがあるような、ないような……。あると信じて、ロイヤルモデルのIII突F型用積荷セット『Stowage Stug.III F』（品番134）のエッチングパーツを調整して使用。

○履帯はモデルカステンの『III突用中期型タイプA/起動輪付き』に同社の『IIIIV号戦車用 後期型タイプA 予備履帯セット』を組み合わせて、変化を出してみました。

■塗装

基本色はダークイエロー・ベースと判断して、まずはタミヤの缶スプレーのジャーマングレーで下塗り。地色を残しながら、Mr.カラーのダークイエローを明度を変えて、数回エアブラシで吹き付けました。単色っぴい気もするんですが、模型映えと個人的な好みで、グリーンとブラウンの3色迷彩としています。タミヤアクリルのジャーマングレーでドライブラシ後、ウォッシング。ガンダムマーカーのリアルタッチグレー2でキズなどを描き込みました。

足回りの汚しには、MGプロダクション、MPM社の各ビグメントをブレンドしたものを使用。

マーキングにも触れておきます。写真で明らかなのは、国籍マークのみ。ただし、白フチの有無が曖昧で、実際にはどうなのか何とも言え





◀ フロントマッドガード上には、III 突C/D型以降から使用された新型誘導輪を載せた。
 ▶ 左側のライトカバーを外した状態とし、使い古した車体演出。
 ▼ 塗装は、ダークイエロー、ダークグリーン、レッドブラウンの迷彩。所々、下地のジャーマングレーの旧塗装が見えている感じを出してみた。





ません。第1印象を優先させて白フチなしにしました。適当なモノをタミヤのデカールセットの中からチョイスし使用しています。

■ピネット

噴水はジャガーモデルの「European Fountain w/Modular Ctr.Column」(品番63527)です。水面はクリアレジンで再現。底面部にタミヤアクリルのカーキドラブ+デザートイエローの混色、

水面パーツの裏面にスモークを塗って接着後、表面をクリア塗装で仕上げました。

石畳は、タミヤの情景シート「石畳A」を使用。瓦礫はカスタムディオラミクスのセットの各種素材。櫓、門扉、有刺鉄線などはヴァーリンデン社のもの。木箱、砲弾、ドラム缶はタミヤ製です。今回は、これらすべてをベースに接着してから塗装しました。

散乱する新聞はタミヤの「ドイツ歩兵野戦会

議セット」に付属しているもの。噴水の前に立て掛けてあるサインは、ヴァーリンデンのセットを組み合わせて作りました。木馬のおモチャはプラスモデルのキット「TOYS 1」(品番214)です。フィギュアは、GSIクレオスのフィギュアマスター・シリーズ「民間人セット2」の2体を使用しました。散えて兵士を外して、大戦末期まで生き延びたB型と老婆をリンクさせてみました。



▲車体前部にブラバンでラックを追加。また車体前部のヘッドライト/牽引ホルドはバッションモデルズのレジン製パーツに交換した。



▲戦室側面の省略されているマイナス・ネジはバッションモデルズの金属製スクリュー・セットを使って再現。
▼機関室上面の牽引ロープ止めはモデルカステンのブラバンを使用。



▲細部の小パーツは、アベールやエデュアルドのエッチングパーツでディテールアップした。
▼ラックの板と左リアのマッドガード受け具をブラバンで作製した。





▼履帯、起動輪はモデルカステンに交換。サスペンションは可動式だ。



▲ハッチを開状態とする際は、戦闘室内は接着前に塗装しておこう。



▲GSIクレオスのフィギュアマスター・シリーズ「民間人セット2」の2体を使用。

▼噴水はジャガーモデルの『European Fountain w/Modular Ctr.Column』。水面はクリアレジンを再現した。



▲木馬のオモチャはプラスモデルのキット「TOYS 1」。こうした小物はジオラマのアクセントとして重宝する。

▼瓦礫はカスタムディオラミクス。樫、門扉、有刺鉄線、木箱、砲弾、ドラム缶などはヴァーリンデンとタミヤのパーツ。





トライスター注目のIV号シリーズ第2弾！ Panzerkampfwagen IV Ausf.C

IV号戦車C型

■トライスター1/35 ドイツIV号戦車C型

■製作・文：徳永達矢

■協力：バウマン

■Tristar 1/35 German Panzerkampfwagen IV Ausf.C

■Modeled & Text by TATSUYA TOKUNAGA



1936年12月9日に制式採用となったIV号戦車は翌1937年11月に最初の量産型、A型が完成した。翌1938年5月からは装甲強化、機関系統を改良したB型の生産が始まる。35両という少数生産のA型に続きB型もわずか42両の生産に留まり、同年10月以降、生産はC型に移行した。C型は外見上、ほとんどB型と変わらず、主な変更点は防盾の開口部の大きさ変更、同軸機銃の装甲スリーブ追加、改良型エンジンへの換装などわずかである。C型は1939年8月までに134両生産されたが、A/B型同様、C型もIV号戦車を早期戦列化するための先行量産型的な性格が強い車体だった。トライスターのIV号C型は前作D型同様、細かなパーツ分割により、細部まで精密に再現されている。

今回はトライスター社のC型の製作に取組んでみました。実車についての詳細な解説は、各専門誌に譲るとして、興味深いのは、このC型が大戦初期のみならず、1944年のノルマンディー戦や同時期の東部戦線ゴメリ付近等でも後方部隊所属の車両として実戦参加している点です。今回の作例は、オーソドックスにジャーマングレーの大戦初期の車両として製作しましたが、いずれはMP44やMG42を持ったレギンス履きで略奪スタイルの擲弾兵を車体後部に満載した3色迷彩のC型も作ってみたいと思っています。

使用するのは本体キットに加え、アペールのエッチング製ディテールアップ・セット「GERMAN MEDIUM TANK Pz.Kpfw. IV, Ausf.Dvol.1-basic update for Tristar model (トライスター用)」(品番35185 取り扱い/バウマン) と同社のエッチング製フェンダー・セット「GERMAN MEDIUM TANK Pz.Kpfw. IV,

Ausf.C vol.2-Additional set Fenders for Tristar model (トライスター用)」(品番35189) を使用しています。

■製作

まず車体下部から組み立てました。このキットは箱組みでシャシーを組立てるようになっており、製作にあたっては、組み立て前の各パーツのすり合わせを行うことをおすすめします。前作D型のものに若干の改良を加えて、機分組み易くなっています。全般的に「抜きテーパー」の付き方が強く、各接着面の面出しを怠ると最終的には全体の歪み、あるいはヘンな隙間が生じる原因となります。堅めの木片やアクリル片などに耐水ペーパーを貼り付けて接着面の手入れをマメに行いながら作業を進めましょう。

組み立ての順番としては、車体後部の合わせから

始めて行く方が無難だと思います。逆に前方の合わせから組み上げていくと、最後に車体後部の組み合わせがうまく揃わなくなりますので、要注意です。なお、作例においては車体左右の上部フェンダーをアペールのエッチング・パーツに取り替えるために仮組みの段階で車体下部パーツ側面部分の上にある台形部分(車体上部スポンソン部の下カバー部)はきれいに切り取って、アペールのフェンダーパーツにあるガイドに沿って真ちゅう線の通し穴をピンバイスで開けています。

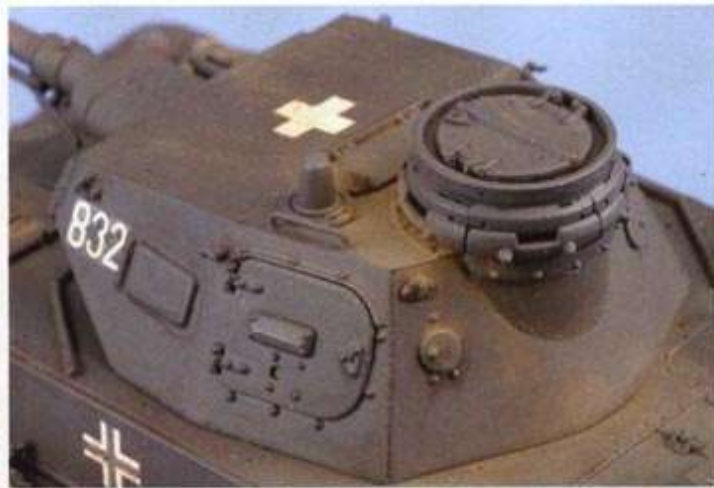
サスペンション、転輪等の足回りは、パーツ分割が細かいため最初は閉口してしまいましたが、一度組上げのゴツを極めれば問題ありません。出来上がってキコキコ動かしただけでは結構感動モノです。転輪は、ホイール部とゴム部が別部品、しかもゴム部にはメーカー名の刻印まで再現されています。ゴム部

▼車体上部前面右側の無線手側にはクラブとビストルポートを設置。





▼B型とC型との相違点は防盾の開口部の上下幅が狭くなったことと同軸機銃に装甲スリーブが付いていること。



▲キューボラ、ハッチ、主砲基部、ピストルポート、クラッペなど初の量産型A型と比べBC型では細部がかなり変更されている。

▼1941年以降まで残存していた車両は、砲塔後部にケベックカستنが装着されたものもある。



のパーティングラインは実車も結構残っているようで、それほど神経質に削り落とす必要はないでしょう。スナップキットの様にパチンパチン嵌め込むように組んでいくことができますが、後々ウェザリング等で、エナメルや油彩のシンナーでブラが侵されて割れる恐れもあることを踏まえて、ホイルとゴム部に必ず接着剤を流し込むようにしました。

転輪の組み立ては面倒ですが、逆にこうしたパーツ分割のおかげでゴムが外れていたり、割れて取れかかっているところ、あるいはクラッシュ後換えてゴム部が灰となり、ホイル部だけになった状態などを再現できるので、とくにジオラマ・ビルダーの方にとっては、ありがたいかもしれません。

起動輪はギアボックスもかなりこだわって部品分割しているの、出来上がりの見栄えも実感あるものに仕上がります。誘導輪も車輪やテンション調節器が分割してモールドされています。上部転輪は、初期タイプと後期タイプの2種が選べます。作例では初期タイプを選択。左右2箇所ずつ付くダンパーもゴム部が別となっています。下部正面には、増加装甲が上部装甲板とのジョイント部分も含めて付くように説明書に図示されていますが、初期の写真

では付いていないものも多く見られます。選択の悩みどころですね。また、ここに付く牽引用のシャックル部分は両サイドのパーツが内側に向くように取付けましょう。

履帯は、今回から気持ちバチ組み出来るように一部リニューアルされていて、若干強度的に心配はありますが、作業は進めやすくなりました。実車の場合、D型で使われたのと比較してセンターガイドの高さが低いタイプのものが装備されていたとのことで、より正確を期する向きはモデルカستنの「IV号戦車初期型38cm履帯」(品番SK-57)に置き替えることをお勧めします。

車体上部は、前述の通りフェンダーをアペールのエッチングに交換したので、キットのA-1のパーツにモールドしてあるフェンダーは丁寧に切り取りま

す。この時、必ず車体下部との噛み合せ具合を見ながら隙間が生じないように進めてください。

エッチング製フェンダー上のリベットモールドは、ピンバイスに裁縫用の針のお尻の部分を用いて取付け、グルッ、ギュッと裏側からカッティングマットの上でプレスして再現していきます。長モノですから、縁の折込みに際しては至むことのないよう要注意。専用のベンディングツールがあると便利です。仕上がりも良くなります。滑り止めモールドは前作D型の時に物議を醸した部分ですが、アペールではちゃんとT字模様になっています。周囲にモールドされた留め用の六角ボルトも丁寧に貼り付けます。ガイド用のモールドが滑り止めの表面に施されていますが、見え難いので、赤ペンなどで印を付けておくことで作業が効率的です。フェンダーの前端、後端は可動にすることができますが、スプリングを付けたり、留め金具を付けたりする必要もあり、作例では固定しました。

ここで、車体上部とエッチング製フェンダー、車体下部を合わせて固定します。特にフェンダーは前項で開けた穴にガイド用の真ちゅう線を





通し、取り付け用エッチング板を貼り付け、曲げてしっかりと固定します。バイザーのある上部正面装甲板、車体上部側面装甲板もテーパ処理をヤスリで行ってから貼り付けます。

バイザーの上部にある雨トイは構造的な精密感（曲げ返しがあります）を出す意味でもアペールのパーツに替えたほうが良いでしょう。バイザーそのものはインストには閉状態を組み立てるよう指示がありますが、開ける場合は、裏側から透明ブラバンでガラス部分を再現することを忘れずに。ちなみにその隣にあるクラッペのガラスパーツはキットにセットされています。

上面に付く操縦手、無線手用ハッチの外鍵用の金具はアペールのパーツを使用。車体後部のエアインテーク・ルーバーはパーティングラインがかなりくっきりと残っているので、丁寧に削り取りましょう。

後部排気管は、排気管本体の取り付けベルト部分を削りアペールのエッチングに交換。補助排気管はD

型では車体との接合部分のバイブが寸足らずだったので、C型では新規パーツになり問題ありません。この部分の取り付けベルトはモールドが甘いので、ブラペーパーを2巻きほどしてメリハリを出しました。

次に砲塔の組み立てです。砲尾はキットのままではハリコの状態になってしまいます。外からは見えなくなる部分ですが、気になる方は、エポバテで鉛子を入れて削り直すか、ブラブロックから自作するとよいでしょう。砲身はアンテナ避けのないタイプとあるタイプが選べます。作例は後者を選択。防盾との接合に際しては、エッジや接触部分の若干の擦り合わせが必要です。

防盾は、特徴ある両サイドの跳弾用のモールドが再現されていません。0.3mm ブラバンにPカッターでスジ彫りを入れて溶接跡の内側に合わせて貼り付

けました。キューボラはバイザーパーツが5分割となっていて密度感があります。ただし内部のバイザーブロックのモールドはありません。

砲塔本体と砲本体、砲塔底板を合わせて、砲塔前方の両サイド下部にある三角形のパーツを貼り付ける際は、必ず車体との接触部分に隙間が開かないようじっくり擦り合わせてください。作例では三角パーツの下部に比較的目立つ隙間が生じたので、0.3mm ブラバンをスパーサーに入れて修正しています。

このキットの売りは、先代のD型同様、クランプなどの取付け具までもブラ製品で再現している点です。昨今はエッチングパーツが豊富に出回っていて、使うのが一般的になっていましたが、果たしてその効果のほどは？ という点で、今回の作例では左フェンダー上のOVMのクランプ類はキットのブラパーツを使用し、右フェンダー上のそれらはアペールのエッチングを使ってみました。線ネジはいずれもキットのものを使っています。キットのままでも十分な再現度だと感じました。

レイアウト上、スコープとアンテナ受けとの間が



▲キットのOVM類はクランプを別パーツにするなど良くできている。



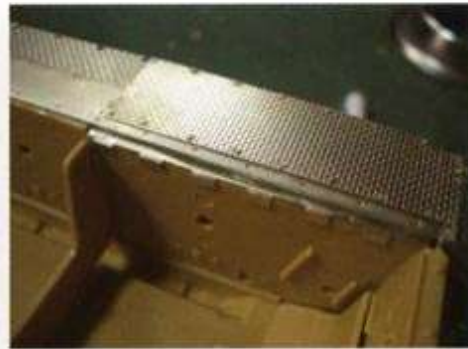
請勿轉載至貪婪大陸



▲アペールのフェンダー取り付け用エッチング板にガイド用の穴を開ける。
▼エッチング・フェンダーはこのようにしっかり固定。



▲フェンダー取り付け板に真ちゅう線を通してしっかりと固定。
▼防盾両側の鉄弾用のモールドを0.3mm プラパンにPカッターでスジ彫りを入れて再現。



▼バイザーの上部にある両トイもアペールのパーツに交換。



▼左側のOVMは、キット付属のクランプ使用。プラの厚みも薄くリアルにできている。



▼右側のOVMはキットパーツと比較のため、アペールのエッチングに換えてみた。



少々干渉しており、調整が必要です。スモークディスタージャーは精密感の高い個所なので、アペールのエッチングを使っています。

■塗装

金属パーツをかなり使用しているので、まずは全体にプライマーを塗ります。その上から、サーフェーサーをスプレーしました。次に、影となる部分を中心にタミヤアクリルのハルレッドをエアブラッシング。

ここから、いよいよパンツァーグラウですが、今回は前回のIII突に続いて、ハナントの塗料を

使用しました。タミヤを使い慣れていると、思わずツヤがあまり消えないことに少々戸惑いますが、金属感という点では、効果的な発色かもしれません。

OVMの類は金属部分と木製部分で塗り分けを行いました。最近、ワイヤーカッターの柄の部分は純粋木製ではなく、オガクズを混ぜたベークライト（プラスチックの一種）でできているとのこと、ここ

に木目を描く必要はないということを学びました。

ここから先は、いつものように油彩のバートアンバーとブラックの混色でのウォッシング、その上から、ハンプロールのレザーを下部を中心に薄めてウォッシング、足回りの汚しとして、ピグメントをアクリル溶剤で溶いて、さらにその上に塗布しています。エッジには2Bの鉛筆で、金属地肌のハゲを再現し、履帯も接地部分に銀ブラシを施して完成です。

IV号C型としては、初のインジェクションキットですが、出来は非常に良くパーツ同士の擦り合わせをしっかりと行いながら製作すれば、十分なパフォーマンスを見せてくれます。後発のドラゴンモデルのキットと作り比べてみると面白いかもしれませんね。



傑作IV号戦車シリーズが実車取材により、さらにグレードアップ! Panzerkampfwagen IV Ausf.D

IV号戦車D型

■ドラゴンモデル1/35 ドイツIV号戦車D型 (コンバーチブル)

■製作・文: 七星 明

■Dragon Models 1/35 Pz.Kpfw.IV Ausf.D

■Modeled & Text by MEI NANAHOSE



A、B、C型に続き1939年10月から生産が始まったIV号戦車D型は、フランス戦より実戦に参加し、1940年10月までに計232両が生産された。前型B/C型との目立った相違点は車体上部前面装甲板の右無線手帳がA型のように後方にずれていることや防盾を外装式に改めたこと、クラッペ形状が変更したことなどである。さらに側面/後面の装甲板は15mmから20mmに増厚(後に車体前面に追加装甲板を装着)、エンジンも出力をアップしたマイバッハ120TRMに換装されている。ドラゴンモデルのD型は設計に際して、アバディーン戦車博物館にある実車を計測したそうで、同社の前作E型よりさらに内容のグレードアップが図られている。

ドラゴンモデルのD型は、同社のIV号短砲身シリーズの3作目であり、通常型、増加装甲装着型、北アフリカ戦型の3タイプを選べるようになっています。転輪のハブキャップは2種類用意されており、さらにハブキャップを外した状態を再現可能。D型用として新たに作られた起動輪は、外周の歯の部分に別パーツ化されたものも入っているうえに細かな取り付けボルトもパーツとして用意されています。

またキットには、インジェクション・パーツの他に最近のドラゴン製品ではスタンダードとなっているエッチングパーツやワイヤー、金属製砲身、真ちゅう製砲弾などもセットされており、超絶なディテール表現の意欲作となっています。

ます。

細かくできていて、製作には結構手間が掛かります。選択パーツも多いので、製作前に作りたいタイプを選択し、説明書を念頭にチェックしておくことが製作上のコツといえるかもしれません。

■製作

今回、キットのパーツ以外にボイジャーモデルのエッチングパーツ「IV号戦車E型本体用ドラゴンモデル対応」(品番PE35079)と同「IV号戦車E型フェンダー ドラゴンモデル対応」(品番PE35080)を使いました。このエッチングはE型対応なので、パーツはD型に使用可能な

もののみ使っています。

作例は、北アフリカ戦に最初に投入された第5軽師団(後の第21装甲師団)所属の車両としました。同部隊の多くのD型は、車体後部の予備転輪ラック、ゲベックカステンの装備、車体の小さな車番プレートが特徴です。さらに増加装甲の装着や新型のハブキャップと起動輪などの車両も見られます。

さて、製作は最初は足周りから始めます。パーツ数が多いので、根気よく説明書に従って組んでいきます。なお、作例では予備履帯をたくさん取り付けることもあり、予備履帯および履帯はモデルカステンのIV号戦車用可動式履帯SK-57を使用していますが、キットのパーツも

▼車体前面の予備履帯の間に荷物を積んでいるのは、当時の写真ではよく見られる。





非常によい出来なので、そのまま使用してもしな
んら問題はありません。

フェンダーは前述のボイジャーモデルのエッ
チングパーツに交換。ただし、吸気グリルの蓋
がキット側と大きさが合わないため、この蓋は
キット付属のエッチングパーツを使用しました。
このパーツ装着の際は、蓋の基部となるコの字
のモールドはフェンダー表面に出ないようにし
ます。

マッドフラップは実車より角度が強くなって
しまうので、フェンダー本体の接着位置を若干
前寄りにするか、マッドフラップ側面パーツ
D20、D21の折り曲げ角度を緩くした方が良いでしょう。

車番が書かれた小プレートはプラバンで作製
。なお、このプレートは車両ごとに取り付け位置
が微妙に異なります。キット付属のジャッキは
少々大きいので、フェンダー部に上手く収ま



▲B型からD型への生産移行にあたって
グラーブの形が変更されている。





▲キットにはエッチングのOVM固定具が付属している。作例は、さらにボイジャーモデルやアペールのエッチングも使用。
▼D型で初めて防盾は外装式となった。



りません。そこで、タミヤの『IV号戦車車外装備品セット』のジャッキを流用しました。また、同様にOVMの一部はタミヤのパーツに変更。OVMの取り付け器具はキット付属のエッチングパーツやボイジャーモデルのエッチングパーツ、アペールの『German clasps & clamps』（品番35A93）を併用しています。

車体後部には、第5軽師団所属車によく見られるラックをボイジャーモデルのエッチングを利用して作製しました。牽引フックなどに付くチェーンはピットロードの0.2mm極細チェーンに変更しています。

砲塔は、内部も再現できるようになっています。各フラップも開閉選択式で、側面ハッチは可動式にもできます。内部パーツ、外部パーツともに組み立てには問題ありません。ただし、説明書に間違いがあり、側面クラップの番号表





▲完成後、よく見えるキューボラ内部も、この仕上がり。



▲側面のハッチは可動式。キットでは内側もちゃんと再現。



▲砲塔内部も多数のパーツでリアルに再現されている。
▼IV号戦車製作時のおすすめパーツ、ブレイブモデルの「極小スプリング」。サイズの異なる4種が発売されている。



※D49とD50は逆で、イラスト通り右側のクラッペがスリット入りです。

■塗装

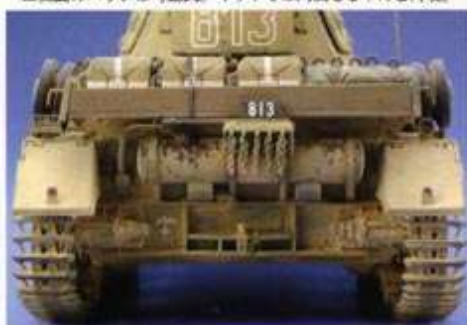
北アフリカ戦共通の砂漠塗装ですが、第5軽師団に最初から配備されていた車両は、本国のドゥンケルグラウのまま、北アフリカに陸揚げされ、現地において急速サンドカラーを上塗りされています。そこで、作例ではサンドカラーから下地のドゥンケルグラウが所々見えている状態を再現しました。

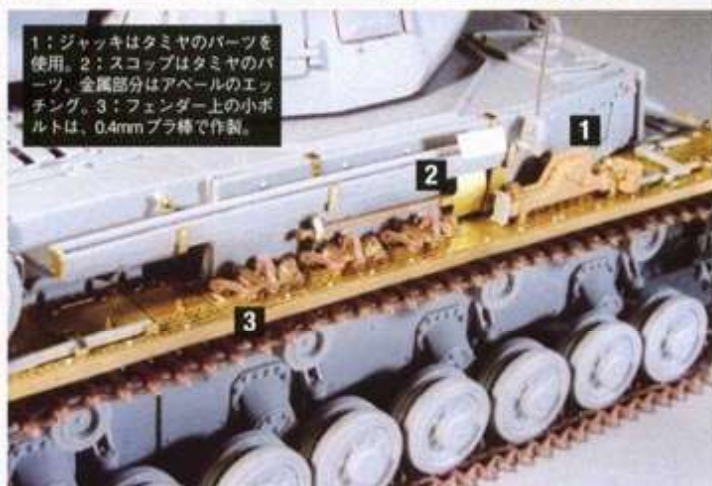
まず、全体にMr.カラーのジャーマングレーを塗りました。この際、後の作業で剥がれてこないように少し厚めに塗っておきます。完全に乾いたら、タミヤアクリルで作ったサンドカラー（フラットホワイトとダークイエロー、デザートイエローを2：2：1で混色）を薄く吹き付け、アクリル溶剤で所々このサンドカラーを剥がしていきましました。アクリル塗料は、時間が経つと剥がれにくくなってしまいますので、その時はラッカー溶剤をほんの少しだけ含ませた筆で行います。もし剥がし過ぎたら、再塗装して再び上塗膜を剥がします。

基本塗装が終わった後、エナメル塗料で軽くウォッシングとスミ入れを行い、基本塗装の表現の関係でドライブラシは行わず、細部塗装、チッピングなどを施します。

キットにはカルトグラフ製の良質なデカールが付いています。ただし、砲塔側面の大きな車番を張り付けるのは、クラッペなどの突起物の関係でかなり厄介です。デカールの余白部分をできるだけ切り取り、貼る場所によっては番号の内側の余白もカットしました。

デカールを貼った後に数字が歪まないように注意しながら、デカール軟化剤を塗って密着させ、軽く乾いたら、クラッペの境の部分のカッターで切り込み、その箇所を再度、軟化剤を塗りました。この方法はデカールの伸びが良い場合に限られます。通常のデカールはモールドに合わせて、事前にカットしておいた方が良いでしょう。





初のインジェクションキット化、増加装甲付き“フォアパンツァー” Panzerkampfwagen IV Ausf.E "VORPANZER" IV号戦車E型 増加装甲装着仕様“フォアパンツァー”

■ドラゴンモデル1/35 ドイツIV号戦車E型 増加装甲板付き

■製作・文：石井優二

■Dragon Models 1/35 Pz.Kpfw.IV Ausf.E "Vorpanzer"

■Modeled & Text by YUJI ISHII



IV号戦車D型に続く改良型として1939年10月より生産が始まったのがE型である。E型の特徴は装甲強化と新型の砲塔を採用したことである。E型は1941年4月までに206両作られており、そのうち4両が架橋戦車、2両が新型サスペンションのテスト車両であった。戦車型200両の中には、北アフリカ仕様や潜水戦車、さらに砲塔前部に増加装甲を追加装備した“フォアパンツァー”と呼ばれる改造車体が少数作られている。ドラゴンモデルIV号短砲身シリーズの第2弾はその増加装甲型“フォアパンツァー”をモデル化。これまでにニューコネクションからレジン製改造パーツが発売されていたが、インジェクションキットとしては初のものである。通常型との相違は、砲塔前部の増加装甲のみだが、短砲身IV号コレクションの中ではもっとも異彩を放つアイテムではないだろうか。

次々と新製品を発売し、着実にバリエーション展開が図られているドラゴンモデルのIV号短砲身シリーズですが、今回製作したE型“フォアパンツァー”はシリーズ第2弾として登場したものです。前作のE型（通常型）に単に増加装甲の新規パーツを追加したものと思いきや、

前E型でいろいろ指摘されていた問題箇所が、このフォアパンツァーでは改修されています。モデラーたちの要望や意見をすぐさま商品に反映させているドラゴンモデルの製品開発姿勢には驚かされます。

このキットも、最近のドラゴンモデル製品の

例に漏れず、多数の選択パーツやエッチングパーツ、金属砲身など多種の材料が“ぎゅうぎゅう詰め”にセットされた、アフターパーツ不要のキットになっています。キットの出来は申し分なく、細部の再現、モールドの仕上がり共に素晴らしいものです。ただし、あまりに

▼E型の車体上部前面装甲板はD型の20mmから30mmへ増厚し、さらに20mm厚の増加装甲板を装着している。



▼本キットの目玉ともいえる、砲塔前面の増加装甲板。鋳造をまとったようなスタイルが何ともカッコ良い。





▲砲塔は前作E型から改修され、形状はより正確になっている。
▼砲塔側面のハッチは可動式。細かく再現された内部を見ることができる。



▼キューボラ内側も細かく再現。ペリスコープは透明パーツが用意されている。

▼実車では、1941年3月からゲベックカステン（Gepäckkasten）の装備が始まった。



もパーツ数が多過ぎて、説明書を細かく見てい
ると作る気力が……。

■製作

組み立てはとくに問題はありません。初めに

足回りと車体の箱組みから行いました。足回りは可動式となっていますが、作例は固定しています。固定する際は、すべての転輪が綺麗に接地するように注意しましょう。また、転輪ゴム内側のパーティングラインもきちんと処理して

おかないとホイールにはめ込む際に破損する恐れがあるので要注意です。

履帯はキットのものをそのまま使用。キットの履帯はガイドホーンの軽め穴も開いているスグレモノです。連結も簡単に1時間ほどで組む





ことができました。

説明書では車体上下の接合が一番最後になっていますが、足回り、履帯の接着後に行いました。装備品などの細かなパーツは車体上下を組んだ後に装着した方が、パーツの破損などが少なく作業しやすいからです。

砲塔は、内部まできちんと再現されています。ハッチを開けてしまうのがもったいないほどです。キューボラの装甲シャッターも開閉選択式で、ペリスコープもクリアパーツで再現されています。

作例では、キット付属パーツの他にディテールアップのため、ボイジャーモデルのエッチン

グパーツ「IV号戦車E型本体用 ドラゴンモデル対応」(品番PE35079)を使っていますが、キットのパーツのままでも十分なのはいうまでもありません。アフターパーツの紹介だと思ってください。

■塗装

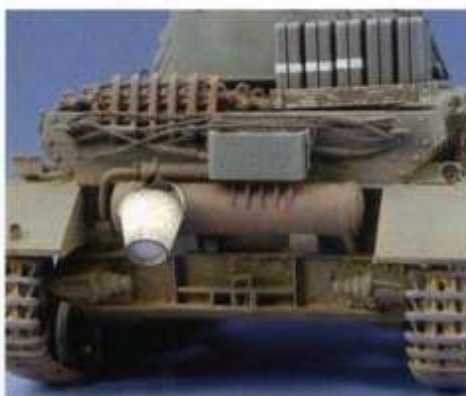
塗装は、ドゥンケルグラウの単色としました。基本色はタミヤアクリルのXF24ダークグレイ+XF63ジャーマングレイの混色です。ハイライトにはこの基本色にX2ホワイト+X24クリアイエローを加えています。

エイジングは2回行いました。1回目は油彩の

モノクロームティント+ハンプロールのマットブラックで使用感を表現し、2回目は油彩のイエローグレー+顔料のローアンバーで埃を被った感じを出しています。

チッピングはほとんど入れずに、代わりに退色して下地のサビ止めプライマーがわずかに露出した感じを表現するためにファレホカラーのマホガニーをドライブラシの要領で擦り込みました。

最後にMIGパウダーのヨーロッパアンダストとガルフオーサンドを混ぜたものを車体に擦り込み、ハンプロールのマットコートを吹き付けて埃っぽくしています。



▲▼キットでは、細部パーツをエッチングで再現できるように配慮されている。 ▲▼IV号戦車らしく、車体後部には積載物をいろいろ積んだ状態とした。





▲駆動輪はE型から導入された新型タイプを再現。



▲車体下部側面の20mm増加装甲板も再現されている。



▲キットのサスペンションは可動式。連結式の履帯も良くできている。



▲▼キット付属のパーツだけで十分な仕上がりとなるが、作例は、新製品パーツ紹介の意味で、一部にボイジャーモデルのエッチングを使用してみた。



無反動砲を搭載したIV号戦車計画プラン Panzerkampfwagen IV mit 7.5cm Rf.K 43 IV号戦車 7.5cm Rf.K43 無反動砲搭載型

■ニューコネクション1/35 IV号戦車 7.5cm Rf.K 43 無反動砲搭載型 (コンバージョンキット)

■ドラゴンモデル1/35 ドイツIV号戦車E型 増加装甲板付き “フォアパンザー”

■制作・文：上田昌夫

■協力：M.S.モデルズ

■New Connection Models 1/35 Pz.IV mit rückstossfreier Bewaffnung 7.5cm Rf.K 43

■Dragon Models 1/35 Pz.Kpfw.IV Ausf.E “Vorpanzer”

■Modeled & Text by AKIO UEDA



大戦末期のドイツでは、IV号戦車をベースとした様々な改造プランが考えられていた。1944年に提案された、IV号戦車に無反動砲を搭載するプランもそれらの中の一つである。主武装として砲塔の左右側面に軽量かつ単純な構造を有する7.5cm Rf.K 43 (7.5cm 43式無反動式加藤砲)を配し、前面中央に測距用スポッティング・ガンを兼用した副武装の3cm MK103機関砲を装備していた。砲塔はIV号戦車のものをそのまま使用していたが、左右側面前部には7.5cm Rf.K43用の砲架と防弾板で囲ったカバーを新設。また、砲弾装填のため側面ハッチは後開き式に改められている。原寸大の木製モックアップが造られたが、試作車が製作される前に終戦となった。

今回制作するのは、ニューコネクションモデルズのコンバージョンキット「Pz.IV mit rückstossfreier Bewaffnung 7.5cm Rf.K43」(品番NC35221)です。このキットは、レジン製の砲塔と防盾などともにアルミ製砲身もセットされています。

車体は当然、市販のキットを使用しなくてはなりません。開発プランの時期を考えれば、車体はH型かJ型ということになるのでしょうか。作例は、IV号戦車の旧型車体を再生して造られたという仮定で、ドラゴンの新製品「IV号戦車E型 “Vorpanzer”」を使用しました。このドラゴンのキットは、IV号戦車の決定版と評されており、ぜひ造ってみたかったというのもキット選択のひとつの理由です。

製作時には、大日本絵画刊「ジャーマンタンクス」とOVM類の取り付け位置の参考にモデルアート社刊「IV号戦車D長砲身改修型スーパーディテールフォトブックVol.1」およびTrojica刊「Pz.Kpfw.IV Ausf.A-F at WAR」掲載のVorpanzerの実車写真を参考資料としています。

■製作

足回りはパーツ数も多いので、丁寧に組み立てましょう。誘導輪基部パーツD31は、先端を誘導輪と擦り合わせましょう。起動輪は改修車と想定したミヤのIV号H型より流用しました。キットの転輪のゴムリムには実車通りにパーティンラインがモールドされています。予備転輪の溝のモールドを残し、車体の転輪は走行中磨耗するため軽くサンディングしました。

履帯は、フリウルのメタル製連結式可動履帯「PANZER IV OSTKETTEN」(品番ATL-83)を使用。車体前上部、右側面の予備履帯はモデルカステンの「IV号戦車中期型予備履帯(A)」(品番SK-20)です。前面の予備履帯止め具も同セットのパーツを使用しています。

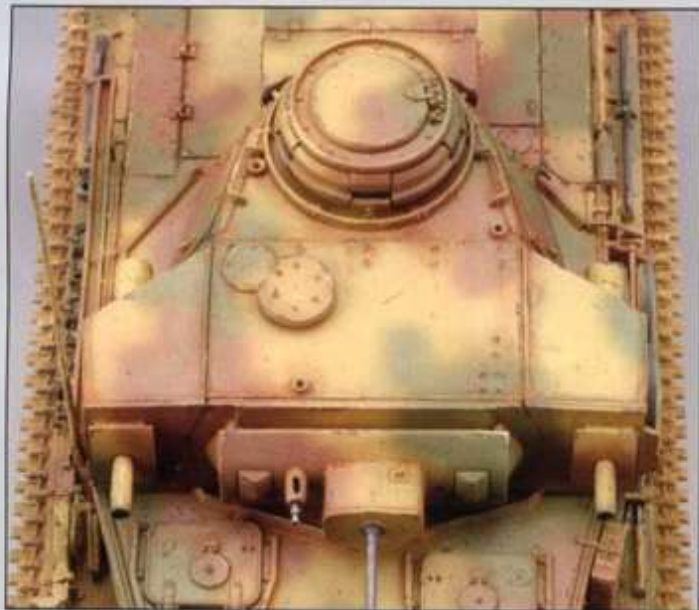
後部の発煙筒は、実車写真でも取り付けしていないようなので基部のみ残しオミットしました。上部の組み立てで注意するところは、操縦手側の増加装甲パーツT1の取り付けです。説明書では、そのまま前面装甲板パーツG3に接着するように指示されていますが、後のページの図や箱

絵および実車写真を参考に不要パーツB23、24、32をG3に接着した後、T1を取り付けましょう。

前上部B31をシャシーXに接着し、フェンダーS1とS2(OVMの位置変更のため、D2とD46は使用せず)をXに組み付け、箱組みした上部を接着しました。上下の接合後に後部のジョイントプレートE23を位置決め接着して(作例では、エッチングパーツに変更しています)。

OVM類は、出来のよいキットのパーツをそのまま使用。予備転輪ラックはタミヤのH型から流用。それに伴いテンショナーと短いバールはD改修型を参考に移植しました。ライトはモデルリングアーティザンモリの「ドイツ・ボッシュライトセット」(品番MGP17)に交換しています。

一部キットのエッチングパーツを使用し、ディテールアップはボイジャーモデルのエッチングパーツ「PANZER IV AUSF E」(品番PE35079DRA)を用いました。前後フェンダーのスプリングは、ブレイブモデルの「極小スプリングA-1&A-2」(BRS001&BRS002)に交換。今まで細いリード線を巻き作っていたので、こ



▲砲塔前面中央にMK103 3cm機関砲、左右に7.5cm FlK 43無反動砲を各1門搭載。
▼砲塔前部の左右両側に防弾板で覆ったカバーを新設し、そこに7.5cm無反動砲を固定している。





▲ニューコネクションのキットは、レジン製の砲塔本体と防盾、無反動砲の装甲カバー、MK103のフラッシュハイダー、そして金属製のMK103砲身、無反動砲で構成されている。



▼予備履帯はモデルカステン、ボッシュライトはモデリング・アーティザンモリのパーツに交換。

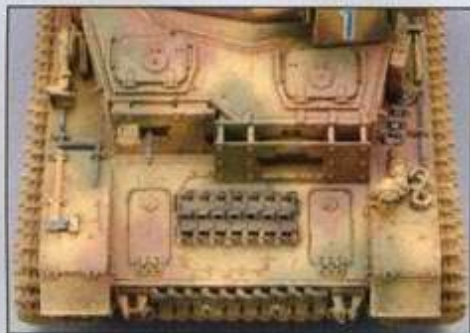


▲キューボラ、ゲベックカステンなどはタミヤのIV号H型のパーツを使用。



▲▼OVMの留め具はボイジャーモデルのエッチングパーツを使っている。▼履帯はフリウルモデルのメタル製連結式。左側は、雪上・泥地などに対応した履帯のオストゲッテン。





▲車体は増加装甲板付きのE型後期仕様とした。
▼ドラゴンモデルのキットは細部まで良く再現されている。



▼予備転輪ラックはタミヤのH型からパーツを流用。



のセットにより楽になりました。後部の牽引用ケーブルは、カラヤの「Pz.IV tanks&SPGs」(品番TCR08)を用い、タグアイはキットのパーツです。左右ケーブルの連結にキット付属のエッチングチェーンを利用しました。

砲塔は、ニューコネクションの説明書に従い組み立てます。キューボラと周囲の防弾リング、ゲベックガステンはタミヤのH型より流用。ディテールアップには前述のボイジャーのエッチングパーツと、上面のボルトにバッシュモデルズの「0.9mm Screwheads」(品番P35-003)を、また機関砲はパーフェクトメタルバレルSRの「German 3cm Flak MK.103」(品番35006)を使用しました。ただし、キットはこうしたアフター

パーツを使用しなくても十分で出来です。

■塗装

タミヤのスーパーサーフェイサーで下地処理を行います。大戦後期を想定し、ダークイエローベースの3色迷彩としました。まずGSIクレオスのマホガニーとウッドブラウンの混色で陰付けし、ダークイエローとカーキドラブで調色した基本色で影を残しながらエアブラシで吹きま

す。ハイライトとして基本色にクリヤーイエローとホワイトを混ぜ、明暗の強調をしてみました。

た。その後、ダークグリーンとレッドブラウンの迷彩を施しています。

仕上げは、いつもと同じですが、ホルベインの油彩(バーントアンバー、カドミウムオレンジ)も少し使用。また、MIG ビグメントのライトラスト(取り扱い:シェブロン)とタミヤエナメルフラットブラウンを混合しエナメル溶剤で溶きサビを描き込んでいます。

さらに、今回エクストラアクリリックスのフラットバーニッシュXA1F(取り扱い:シェブロン)を専用溶剤で薄め、エアブラシで吹き付け、全体の色調を統一するとともにデカール部のシルバリング対策および足回り、履帯のビグメントの定義を行いました。





■トランペッター 1/35
ソ連KV-2重戦車 先行量産型
■製作・文：石井優二
■協力：M.S.モデルズ
■Trumpeter 1/35
Russia KV-2 "Big Turret"
■Modeled & Text by YUJI ISHII

人気のトランペッターKVシリーズの中でも一押しアイテム! KV-2 early production model KV-2初期型

前号からスタートした石井優二氏のAFVコーナー。さて今月のお題はトランペッターのKV-2初期型。同社のKVシリーズはいずれも大変良い出来でおすすめ品ばかりなのだが、同氏はKV-2初期型がとくにお気に入りとか。



今月は、前号に続きWWIIソ連戦車。毎月、編集部からほとんどドイツ戦車ばかり制作依頼が来るので、息抜きにまたもやソ連アイテムを選んでみました。トランペッター1/35のKV-2初期型は非常によい出来です。

同社のKVシリーズは、リアルな細部のモールドや装甲板の接合表現、インジェクションキットの限界といえるほど薄く成形されたフェンダー&ステー、転輪、ハッチなど考証も正確で申し分なしの内容。市販のアフターパーツを使用せずとも、キットの箱の中のパーツだけで十分な仕上がりとなります。おまけに価格はリーズナブル、まるで1/35 AFVのお手本のようなキットです。

そんなKVシリーズの中で個人的にもっとも気に入っているのがKV“ビッグ・ターレット”つまりKV-2初期型です。インジェクションキットとしては初のキット化アイテムであり、アンバランスなほどの大型砲塔を搭載した姿はなかなか迫力があります。

製作

このキット、本当に手間要らずです。組むだけなら1日で完成します。組み立てはキットの説明書に従って進めました。多少バリエーションでこれといった問題はありません。あまりにも楽すぎるので、あえてちょっとだけディテールアップしました。

ディテールアップには、バート社のエッチング「KV-2」(品番P35-122 取り扱い:M.S.モデルズ)を使用。同セットからエンジンのメッシュと工具箱を1個使っています。このエッチング製メッシュはKV-2後期型に見られるタイプですが、初期型も20両くらい生産されているので、間違いではないと思いつけました。工具箱も同様、タイプが違うのは蓋だけなので、破損した状態としています。

履帯はポリ製ベルト式とブラ製連結式の2種が入っています。連結式は一部繋がったものと1枚1枚コマ切れになったものを繋いでいく方式なので、簡単に組むことができ、さらに強みも

▼KV初期生産の車体なので車体前部の増加装甲板は装着されていない。



▼各別式・年式で異なる履帯手ハッチもトランペッター1/35キットでほぼ正確に再現されている。



▲▶ 初期型砲塔は、多面構成のためか後期型砲塔に比べ幾分スマートな印象を受ける。



請勿轉載至貪婪大陸



再現されているので、作例では迷わずにこのプラ製連結履帯の方を使っています。

■塗装

塗装は、割と明るめのロシアングリーン単色としました。初めに足回りと影になる部分にタミヤアクリルを混色して作ったダークブラウンを塗ります。ダークブラウンはXF1フラットブラック+XF10フラットブラウン+XF51カーキドラブを1:1:1程度に混ぜたものです。

基本色のグリーンは、XF4イエローグリーン+XF5フラットグリーン+XF61ダークグリーン

ンを混色し、それを下地のダークブラウンを活かしながら全体に吹き付けていきました。ただし、その際、履帯と車体底面のダークブラウンはそのまま残します。

ハイライト部分はこの基本色にX2ホワイトとX24クリアイエローを加えたものを使用しました。その後、クリアイエローを全体に吹き付けて基本塗装は完了です。

エイジングは油彩のバートアンバー+ハンプロールのマットブラック+顔料のローアンバーで行いました。履帯の泥はMIGパウダーのロシアンアースをハンプロールのマットダークア

ースに混ぜたものを筆塗りし、接地面にMr.メタルカラーのアイアンを塗り、ステンシル画用の硬めの筆で擦って表現しました。

デカールにあるスローガンは手元の写真集では確認できませんでしたが、模型としての見栄えを優先して使っています。

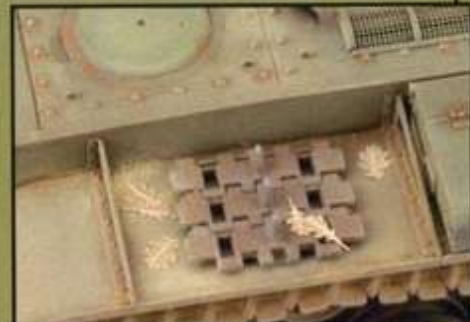
KV戦車はあまりにもシンプルな造りなので、アクセントとしてフェンダー上にプラス・モデルのエッチング製の落ち葉「Leaves-Oak」(品番35-225 取り扱い:M.S.モデルズ)を載せてみました。



▲キットのフェンダー&ステーは、かなり薄く仕上げられており、エッチングパーツを使わずとも十分にリアルである。



▼これまた各形式・年式で異なる転輪をこのキットでは正確に再現。こうした丁寧な考証を見ていると、トランペットのこだわりが伝わってくる。



▲フェンダー上に落ち葉を散らしてみた。汚し塗装やチップリングだけでなく、こうした手法でも車両の使用感を演出できる。





◀キットはほとんど手を加える部分はないが、強いて上げれば、エンジンメッシュはエッチングパーツに交換するとよりリアルになる。



◀エッチングパーツを使って、機関箱の蓋が外れた状態を再現してみた。

おすすめ資料 Tankograd-Soviet Special No.2001 KV-2

ドイツのタンコグラット社から発売されている『KV-2 Soviet Heavy Breakthrough Tank of WWII』はKV-2の写真資料として文句なくおすすめしたい1冊。総80ページで、KV-2の開発から生産、実戦。さらにドイツ軍捕獲車両などを詳細に解説されており、さらに試作車、初期型、後期型、ドイツ仕様などの実車写真や図面が多数収録されている。ちなみに初期型の実車写真は20点、図面は試作1〜3号車が1/72で、初期生産車は1/35で掲載。本書の問い合わせは西山洋書（tel 03-3981-6301）まで。



シャーマンVクラブIIフレイル地雷除去車

第79機甲師団第1ロティアンズ・ボーダー騎馬ヨーマンリー連隊 1944年 フランス

パート2: 塗装編

- ドラゴンモデル1/35 M4A4 シャーマン
- レジーキャスト1/35 シャーマン・クラブMkIコンバージョンキット
- 製作・文: アントニオ・マーチン・テロ
- Dragon Models 1/35 M4A4 with 60 lb rockets
- Resicast 1/35 Sherman Crab MkI conversion kit
- Modeled & Text by Antonio Martin Tello



凄腕！ スペイン人モデラーのお仕事 part 2

Sherman V Crab II Flail Tank

1st Lothian and Border Horse Yeomanry, 79 Armoured Division, France 1944

先月に続き、アントニオ・マーチン・テロ氏の力作、シャーマン・クラブ地雷除去車のハウ・トゥー・モデリングを紹介。今月はいよいよ塗装編。基本塗装はもちろん、ウェザリング、フィルタリング、ウォッシングなど同氏のテクニックが映える。

■クラブのペインティング

シャーマン・クラブの塗装バリエーションはほとんどありません。オリーブ・カーキドラブの単色のみです。まず、全体に缶スプレーのプライマーを吹きかけます。これはプラスチックやレジンをエッチングなど様々な素材を使用しているため、塗料の食い付きを良くするためです。

私はエアブラシをする際は、塗料と溶剤を約1:3になるようにイソプロピル・アルコールで希釈したタミヤアクリルを使っています。最初はXF61ダークグリーンで全体を塗ります。そして、次に「シェイド（影）」の効果を出すため色調が余り暗くならないように気を付けながら、車体・砲塔のラインやエッジ部分にXF27ブラックグリーンを吹いていきます。逆に明るくしたいパネルの中央などはXF51カーキドラブ、さらにカーキドラブ+XF60ダークイエローを混ぜた塗料を吹き付けます。これでウェザリング前の基本塗装は完了です。

さて、この段階でデカールを貼ります。作例では、バイソン・デカール社製の「WW2 British Sherman, part 1」（品番35010）を使用。このデカールには2種のシャーマン・クラブがセットされています。私はその中の「Goose Giblets」を選びました。この車体は第79機甲師団第30機甲旅団第1ロティアンズ・ボーダー騎馬ヨーマンリー連隊所属車で1944～1945年のヨーロッパで使用されました。ちなみに戦時中に撮影された実車の映像はイギリスのウェブサイト（www.britishtank.com）で見ることができます。

このデカールは発色、薄さ共に良く素晴らしい内容です。前もって、デカールを貼る部分の表面に綿棒を使ってアクリルのクリアーバーニッシュを塗りました。デカールの余白部分はカットします。カットの際、ナイフの刃は新しい良く切れるモノで、また直線は金属定規を使用すると良いでしょう。

デカールを水に1分くらい浸けた後、張り付けました。デカールに付いた水滴はティッシュで取り除きます。デカールを貼る場所に前もってマイクロスケールの定着剤「マイクロ・セット」を塗り、デカールをしっかりと定着させました。溶剤を付け過ぎたら、ティッシュを使って吸い取りましょう。

数分たって、マイクロ・セットが乾いた後、デカールの上から同じくマイクロスケールの定着剤（硬化剤）「マイクロ・ソル」を塗り、しっかりと模型の表面化に密着させます。マイクロ・ソルは多少の凹凸がある部分でも密着させることができます。マイクロ・ソルを塗った後はデカールは破れやすくなっているため、完全に乾くまでデカールには触れないように注意してください。デカールが完全に乾いたら、デカールのテカリ（ツヤ）を抑えるためにアクリルのマット・バーニッシュをエアブラシでデカールに吹き付けます。

その後、エアブラシでブラックとレッドブラウンを混ぜ、かなり薄めた塗料を模型の輪郭を描くように吹き付けていきました。さらに車体と砲塔の側面にホコリ汚れの筋を上下方向に描き込みました。エアブラシを使った作業はこれで終わりです。

ここからはブラッシング作業に入ります。まず、ハンプロール・エナメル系のグリーン系塗料をかなり薄め、数パターンのフィルタリングを行います。フィルタリングはデカール部分を他の部分と違和感なく上手く溶け込ませるのに非常に有効な手段で、異なったコートによるフィルタリングの組み合わせと、エアブラシを併用すればかなり効果的です。私にとって、こうしたフィルタリング作業は、金属感を表現するためにはなくてはならないものです。

次にブラウン、グリーン・オーカー、そしてホワイトを使ってオイル・ウォッシュ（油汚れ）を行っていきま。まず表面をMGプロダクションのシンナーで濡らします。そしてオイルのスポット（染

み）を表面に置いていき、さらにシンナーで溶いていきます。オイル・ウォッシュは、使い込まれた感じを出すのに効果的で、さらに色調に変化を付けるのにも最適です。

その後、ファレホ・アクリル塗料でチッピングとスクラッチ（塗料の剥がれや擦りキズ）を表現していきま。車体の角の部分や木枝や建物によって擦りキズが付く箇所など、私はいつもそれらを再現する場所が不自然にならないように心掛けています。

今回の作品に施したチッピングは2種類があります。まず一つは「小さな擦りキズ」の再現で、明る目のベースカラー（この場合はダークグリーンを明るくした色）で行いました。これは塗料の下に金属肌を再現するわけではありません。2つ目は、最初より「深いキズ」の再現で、チャコールブラウン（ファレホNo.872）とブラック（No.950）を混ぜた色で行っています。大抵の場合、「深いキズ」は、最初の「小さな擦りキズ」を塗った上に描き込んでいます。つまり「小さな擦りキズ」の中にそれより「深いキズ」があるように表現します。そうすれば、「キズ」がより深い感じに仕上がります。

次にシンナーでかなり薄めたハンプロール・エナメル塗料のブラックを使って、微妙に表現を調整しながら、ディテール部分や凹パネルラインなどをウォッシュ（色付け）していきま。そして綺麗なシンナーを筆に浸けて、境目をホカします。

ブラックでのウォッシングが完全に乾いたら、ファレホのリフレクティブ・グリーン（No.890）でドライブラシを掛けていきます。各ディテールが少しばかり浮き出てくるように、慎重に作業しましょう。OVM類の木製部分はファレホ・モデルカラーのゴールドブラウン（No.877）で塗っています。そして油彩のローアンバーで木目を表現。OVMの金属部分はブラックで塗り、表面に鉛筆を擦り付けて、金属の質感を付けました。取り付けベルトはミドルブラ



▲車体前方に装着された地雷除去装置“フレイル”。
▼フレイルのアームは左右で構造が異なる。回転ドラムへの動力伝達は右アームで行われる。



ウンで塗装。最後にビグメントでOVMを仕上げます。転輪のゴムタイヤはこの段階では、マットブラックで塗っておきましょう。

ここからは、泥やホコリなどの汚れの再現です。MGプロダクションのビグメントを使ってホコリ汚れを表現していきます。まずは車体下部や足回りの泥汚れから。ビグメントは主にヨーロッパ・ダスト (PS028) とブリック・ダスト (PS029)、ライト・ダスト (PS027) を使用。これらを水で固めて使っていますが、時にはピンから直接取り、乾いたままの状態でも使えます。逆にもっと固い状態。例えば土の固まりなどを再現したい時は、マット・バーニッシュを使ってビグメントをペースト状にしています。こうして固さや付着具合に変化を付けるのは、足回りの泥汚れが単調になるのを避けるためです。

サスペンションも同様に汚しを施した後、転輪のゴムタイヤはビグメントのブラック (PS023) を付けました。ゴムタイヤと履帯との接地面は、摩擦で土が付着していないからです。上部転輪と誘導輪の外側表面は、シルバーとグレーを混ぜた色で塗り、ビグメントのガンメタル (PS231) を塗りつけ、ティッシュで磨いています。履帯はまず、マット・ブラックでコートしました。それからMGビグメントの、ヨーロッパ・ダストとスタンダード・ルスト (PS025) を混ぜ、水で溶いたものでウォッシングします。最後にハンプロール・エナメルシルバーとブラックを混ぜた色でドライブラシを行っています。最終的な汚し作業の前に機関室上のいくつかの装

備品を接合しました。車体と備品を分け、個別に汚しを行うのではなく、車体に取り付けてから行うのは、車体と装備品の汚し方を統一するためです。戦時中の写真を見ると、M4は大抵、まるでジブシーのモーターバンのように箱や缶、防水布など多くの荷物を載せています。そこで、私もたくさんの荷物を載せ、それらはロープで固定した状態としました。ほとんどは乾いたビグメントを使っていますが、とくに砂ホコリなどが多く付着する箇所はシンナーで固めて付着させています。例えば車長用ハッチ周辺のように砂ホコリが堆積しやすい場所はビグメントを多く置いた後、ビグメントが浸って流れるくらいシンナー (きれいなもの) を加えます。完全に乾いたら、ビグメントは表面に付着します。さらに私は、乗員が絶えず触れたり、操作動によ



▲砲塔はタミヤのM4を使用。砲身はジョルディ・ルビオのメタル製、防護カバーはレジーキャストのキット付属パーツ。



▲ハッチはドラゴンモデルのパーツ、M2機銃はカスタムディオラミックスのキット。砲身はアペールのエッチングを使用。



▼戦中写真に見られるように機関室上にたくさんの荷物を載せてみた。



▲車体後部側面の箱は、地雷除去後の安全道路を表示するためのチョークが入ったマーカー・ボックス。
▼フィギュアは作者の友人、Fernando Sanz氏による製作。ホーネット社の製品を使用し、ファレホ・アクリルで塗装。



ってホコリや汚れが付きづらい箇所、ハッチやエッチ部分などの“塗料の擦れ”をファレホのリフレクティブ・グリーンを使って再現しました。また汚れの付いていない“きれいな箇所”にはあらかじめ「マスコール」のようなものでマスキングしておく

という方法もあります。ただし、前述のように汚し工程の後でリフレクティブ・グリーンを使って色付けた方がより効果的です。

地雷除去の“フレイル”装置のチェーンには、スタンダード・ルストやガンメタルのビグメントを使

用しました。また、“フレイル”の回転ドラムなどはより使い古した状態を再現しています。

最後にグリースや燃料、油のシミをクリア・エナメル・バーニッシュとビチューメン・オイルを混ぜ、適度に薄めたもので再現しました。

■ベース、フィギュアなど

ポリエステル製のベース台に粉状チョークや石膏、小石などを混ぜて作ったベースト状の砂を使い捨ての古い筆を使用し盛り付けました。それらが乾いた後、アクリルとビグメントで着色し、雑草や芝生を作製し、取り付けしています。

フィギュアは、Fernando Sanz氏による製作。ホーネット社の製品を使用し、ファレホ・アクリルで塗装しています。

■参考文献

「British tanks in Normandy」 Ludovic Fortin 著、Histoire and Collections 刊 2005年発行
「Allied Axis issue 1 Sherman Flail」 Joe Morgan 著、Amperland Publishing Company 刊 2006年発行
「Modeler's guide to the Sherman」 Pete Hawley 著、Amperland Publishing Company 刊 1999年発行
「Armor walk around series No. 1 Sherman walk around」 Jim Moxo 著、Squadron Signal 刊 2000年発行
「M4A4 kit FAQs」 Mike Carlsby 著、http://m4a4kitpod.com/Shermans/Model_FAQs/Modeling_the_M4A4_Finally.htmlより



工程1 基本塗装

工程2 デカール貼り

工程3 ブラッシング



▲最初にプライマーを全体に吹く。その後エアブラシでタミヤアクリルXF61ダークグリーンを塗る。



▲車体・砲塔のラインやエッジ部分にXF27ブラックグリーンを吹く。



▲塗に明るくしたいパネルの中央などはXF51カーキドラブを吹く。



▲さらにカーキドラブ+XF60ダークグレイを混色した塗料を同様に吹き付けていく。



▲デカールの余白部分は良く切れるナイフでカット。直線部分は金属定規を使用すると良い。



▲デカールを貼る場所には、マイクロスケールの定着剤「マイクロ・セット」を塗り定着。



▲デカールの上からマイクロスケール軟化剤「マイクロ・ソル」を塗り、表面に密着。



▲デカールが乾燥後、デカールのツヤを抑えるためにアクリルのマット・バーニッシュをエアブラシ。



▲MGプロダクションのシンナーで薄らせた後、ブラウン・グリーン・オーカー、ホワイトを使ってオイル・ウォッシュ。



▲ファレホ・アクリル塗料の明るめのダークグリーンで「小さなすりキズ」を描き込む。



▲より「深いキズ」をチャコールブラウンとブラックを混ぜた色で再現する。



▲2通りの表現方法でチッピング（塗料の剥がれ）とスクラッチ（すりキズ）を表現。

基本塗装以後の変化

フィルタリングを行う



チッピングを施す





▲シンナーで希釈したハンプロール・エナメル塗料のブラックでディテールや凹パネルラインなどをウォッシング。



▲履帯は、まずマット・ブラックでコートする。



▲ハッチ周辺のように砂ホコリが堆積しやすい場所はビッグメントを多めに置いていく。



▲ディテールや凹パネルラインに入れたブラックをなどをシンナーを筆に塗って機目をボカしていく。



▲MGビッグメントの、ヨーロッパ・ダストとスタンダード・ルストを混ぜ、水で溶きウォッシング。



▲その後、ビッグメントを定置させるため、たっぷりシンナーを加える。



▲MGプロダクションのビッグメント。ヨーロッパ・ダスト、ブリック・ダスト、ライト・ダストで車体下部や足回りの泥汚れを再現。



▲後にハンプロール・エナメルのシルバーとブラックを混ぜた色でドライブラシを行う。



▲ハッチやエッジ部分などの“塗料の擦れ”をファレホのリフレクティブ・グリーンで再現。

ドライブラシ&細部を塗装



じゃーん、完成！





1947年夏、歩行戦闘兵器グンターは、試作型の試験を終え、部隊配備が始まった。同時期、ドイツ軍はコーカサス、カスピ海周辺の豊富な石油、天然ガスなどを求めて軍事作戦を進めていた。ジクリットの特務部隊にも命令が下り、グンター部隊とともにコーカサスでの作戦に参加する。

Sch.Kpfl.グンター量産型実戦投入



■原作・イラスト：パオロ・パレンテ
■ストーリー：佐野信二
■Original Works by PAOLO PARENTE
■Text by SHINJI SANO

連兵隊との間で交戦が始まる



ジクリットたちはグンターを従え前進を続ける。



■1947年8月9日 ノイライヒスベルク (旧スターリングラード)の作戦司令部

東方面軍第IX軍管区の司令官、フォン・ハルター准将は、各部隊の指揮官の前で明朝に開始される軍事作戦について説明を行っていた。

「……我が軍は相変わらず、燃料が不足しがちである。VK兵器はまだ数が少なく、陸軍のマウスII、E100、空軍のJu130長距離爆撃機、そして海軍のH級戦艦など、どれもこれも燃料を大食らいする兵器ばかりだ……」

現在、ルーマニアのプロエスチ油田、ルールの人工石油精製所だけではもはや強大になる一方の我が軍を支えることはできない。そこで、コーカサス、カスピ海沿岸の油田・天然ガス地帯を完全に我が軍の手中に収める必要がある……」

熱く語るハルター准将とは対照的に、頹然と付き添うように話を聞いていたジクリットがつぶやいた。

「やれやれ、5年前の悪夢の再来にならないかいいのだけれど……」

そんな横柄な彼女の態度などまったく気にしないかの如く、ハルター准将は話を続ける。

「明日10:00AMにカスピ海北部最大の都市、アストラハンに向け装甲師団が進軍を開始する。ターラー大尉、君の部隊は敵前偵察のため明朝、日の出前にポイントQ近くに降下してもらう」

■同日午後 ノイライヒスベルクの航空基地

ジクリットが航空基地のハンガーに着いた時には、彼女の部下たちは、深夜の出撃に向け準備を整えていた。

ジクリットたちを目的地上空まで運ぶことになっているBv388ジェット輸送機の側では、重戦車歩行兵器グンターをワイヤーでパレットに固定する作業が行われている。ジクリットは、その場の責任者らしい1人に声を掛けた。

「曹長、コイツはどうやって降ろすの？」

「大尉殿、コイツをパレットに載せ、目標上空でパラシュートを使って抽出投下します」

グンターの量産モデル、A型は試作1号機V1（本誌Vol.35参照）での不具合を改修し、さらに対戦車戦力を強化していた。同兵器は元々、歩兵部隊の直援支援や威力偵察を主眼に置いていたが、今やソ連軍戦車部隊は数年前とは比べものにならないほど強力でJS-3、JS-4重戦車やT-44中戦車を装備し、その数量はドイツ軍の戦車保有数を遙かに上回っている。V1では左右両アームに2連装式3.7cm対空機関砲Flak43 Zellingを搭載していたが、A型では左の兵装を対戦車用の12.8cm砲KwK44/46（マウスの主武装となったKwK44の低圧/低リコイル型）に換装していた。

■1947年8月10日 3:30AM アストラハンから北西約10kmの地点

ロケット・バックを使ってジクリットたちは全員無事に目標地点に降りた。パラシュート降下のグンター2基は風に流され、彼女たちからは少し離れた地点に降下したようだ。ただし、これは最初から想定していたことであり、ポイントQで合流することになっていた。

周囲は未だ濃霧の間に包まれている。ジクリットたちは、素早く武器コンテナから赤外線暗視ゴーグルを取り出し着用する。AEGテレフンゲン社とライツ社が協同開発した兵士用暗視ゴーグルは、約200mの有効視界を得ることができた。ただし、モノクロ映像に明るいグリーン色のフィルターを掛けたような視界は、距離感を掴むのに多少時間を要した。

ポイントQの近くにある墓地まで来た時に、野営中のソ連軍兵士の姿を捉えた。どうやら、斥候部隊のようだ。本来なら交戦は避けるべきなのだが、迂回している時間はな

ジクリットの合同とともに部下のバーテルス、アイグナー、オッファーマンたちは、近くの墓標に身を屈め、SIG44に装着したZG1229バンパイア暗視照準器で狙いを定める。無縁手を手始めに次々とソ連兵を打ち倒していく。最初は暗闇からの正確な狙撃に驚いていたソ連兵もマズルフラッシュにより敵兵の位置を知るやSKSシモノフ自動小銃を使って反撃してきた。

ドイツ兵が盾にした石標にSKSの7.62mm×39弾が着弾し、石片が飛び散る。ジクリットは敵のマズルフラッシュをたよりに愛用のマウザーM712の狙いを定め、ワンショットでソ連兵士を仕留めていく。

ソ連兵の反撃が収まりかけたちょうどその時、2基のグンターが現れた。

「ターラー大尉、手を貸しましょうか？」

グンター1号車のビルクナー大尉が無線で呼びかけてきた。

「ちょっと遅かったようね。もう片づいたわ」最後の兵士を仕留めたジクリットが返答した。

合流したグンターを従え、ジクリットたちがポイントΩに到着した頃には、夜はすっかり明けていた。

1時間ほど待機していると、ようやく陸軍第513重戦車大隊のE100Bが耳障りな履帯音を軋ませながらやって来た。

■同日 9:20AM

第513大隊の兵士たちとブリーフィングを手短に済ませ、司令部に報告を入れた後、ジクリットたちは再び行動を開始する。「ゼロ・アワー」はもうすぐだ。

幹線道路に出てアストラハンに向かっていった時、突然、耳を劈く飛行音が聞こえたかと思うと、目の前のE100Bの機関室から火が上がった。

「チッ、敵のヤーボのお出ましね」

ジクリットは吐き捨てるように言った。

頭上には、複数のソ連の新型地上攻撃機イリュージンIL-12SKシュトルムビクIIが獲物を探して飛び交っている。ジクリットの部下バーテルスをはじめ、第513大隊に随伴していた装甲擲弾兵たちも素早くフリーガー・ファースト（携行式対空ロケットランチャー）を肩に担いで応戦する。

集束した2cmロケット弾が敵機に向かって飛んでいき、瞬く間に2機のIL-12が飛散した。

「グリレ・ツバイ！ うるさいハエをさっさと追っ払って！」

ジクリットは、スロートマイクを通じて10時の方向にいるグンター2号機に命じた。「グリレ・ツバイ」は2号機のコールサインだ（「グリレ」は独語でコオロギの意味する）。

「ヤヴォール、ハウプトマン・ターラー」

グンター2号機の車長、ルデル少尉は返答するや操縦手のレムケー等兵に命じた。

「コイツを止めろ、ヤーボを叩き落とすぞ」

ルデルは兵器管制パネルにあるFlak43/47のセレクターレバーを「E」（単射モード）から「F」（連射モード）、さらに「SF」（高速射撃モード）に切り替えた。Flak43/47は旧Flak43の改良型でデュアルフィード給弾システムにより左右両方向からの給弾が可能である。セレクター操作により上弾倉の通常弾から下弾倉のテレスコピック式HE弾に給弾が変更された。テレスコピック弾は完全燃焼式薬筒の中に弾頭が埋め込まれているので全長が短い。そのため機関部のボルト作動ストロークが短くなり、発射速度を速くすることが可能だった。

連続して射出された磁気近接信管付き3.7cm弾は、IL-12SKの間近で次々と炸裂していく。多数の弾片を受けたIL-12SKが1機また1機と墜落していった。

第513重戦車大隊のE100Bの戦列に合流する。





重戦闘歩行兵器 グンターA型 Schwere Kampf Laufer "GUNTER" Ausf.A



▲主人公ジグリット・フォン・ターラーは、使用のマウザーM712で狙撃ポーズに。
▼兵士が持つRPzB44対戦車ロケットランチャーは、ダスト・オリジナルの歩兵携行兵器のひとつ。

▲兵士2体にはZG1229パンバイア暗視照準器を装着したSIG44を持たせた。
▼乗員はドラゴンモデルの「GERMAN TANK CREW 1944-45」のフィギュアを使用。



■ダスト・リミテッド1/35
ドイツ軍重戦車歩兵第「グンター」
■製作・文：長谷川高朗
■協力：バウマン
■Dust Limited 1/35
Schwere Kampf Laufer "Gunter"
■Modeled & Text by
TAKAO HASEGAWA



▶キットでは、砲塔武装として機銃パーツが用意されているが、出来が良くないので、タミヤの2cm Flakの砲身に交換。



▶右側の武装はキット付属の12.8cm自動砲を装備。



▶砲塔ハッチにペリスコープを追加。



▶車体前面にMG機銃を追加。



▼歩兵2体はドラゴンモデルの「NACHT JÄGER BERLIN 1945」を使用。付属の暗視装置付きMP44がGood。

▼主人公ジクリット・フォン・ターラーは、以前も紹介したダスト・リミテッドの「GERMAN RAKETENTRUPPEN」のもの。

▼壊れた壁はJMモデルの石膏製ストラクチャー「PARK FENCE ELEMENTS」。



▲墓石はカスタムディオラミクスのレジン製「Tomb stones & Markers」を使用。



▼こちらはドラゴンモデル「PANZER GRENADIERS ARNHEM 1944」のフィギュアを改造。背中のVG1-5は同社の武器セット「WWII GERMAN INFANTRY WEAPONS Part1」のパーツを使用。



■グンター改造

今回の作品は、先月号で紹介したグンターをベースに改造したものです。キットそのものについては前号の宮田氏の製作記事を見て頂くこととして、今回変更した部分のみ説明します。

まず右腕をキット付属の12.8cm砲に交換。弾倉パーツは別パーツで再現されています。砲塔の武装は、キットの機銃がイマイチの出来なので、2cm Flak（実はVol.34で石井氏がヴィルヘルム・フォン・リッペに会った際、リッペが「2cm Flak」を製作した際に余ったパーツ）としました。ハッチにはファインモールドのペリスコープのパーツを追加。原作者バレンテ氏の原画に従って車体前面にMGマウントを取り付けました。

こういった架空物キットを製作する時は、ストックパーツを使ってディテールアップしたり、武装・装備品を変更したり、自分なりにリアルさを追求していくと面白いですよ。

塗装は、オリーブグリーンをベースとしドゥンケルゲルプの帯状迷彩にロートブラウンで円を描き込んだ迷彩です。この迷彩は、洋書などでE100や計画車両の塗装例としてよく掲載されています。1945年以降の車両には似合っているのではないのでしょうか。

■フィギュア

主人公ジクリットは、以前にも紹介した「GERMAN RAKETENTRUPPEN（独ロケット降下兵1944-1945アルデンヌ）」を使用。歩兵はドラゴンモデルの「NACHT JÄGER BERLIN 1945」と「PANZER GRENADIERS ARNHEM 1944」から、またグンターの乗員は「GERMAN TANK CREW 1944-45」のフィギュアを使っています。いずれも頭部やポーズは多少変更しました。

歩兵2体が手にしている暗視装置付きMP44は「NACHT JÄGER BERLIN 1945」付属のパーツ、またジクリットのマウザーともう1体の歩兵が背負ってい

るVG1-5はドラゴンの武器セット「WWII GERMAN INFANTRY WEAPONS Part1」のパーツです。ダストには、ピッタリなアイテムですが、残念ながら現在絶版のようです。

■情景ベース

石畳はタミヤの「情景シート路面ブロックA」です。仕上がりも抜群、価格もリーズナブルなジオラマ製作にはおすすり品です。壊れた壁はJMモデルの石膏製「PARK FENCE ELEMENTS」。墓石はカスタムディオラミクスのレジン製「Tomb stones & Markers」です。日本人の私には、外国の墓標や道標の区別がはっきりしません。

My Life as a Modeler!

モデラー探訪：第3回
樋口眞三郎さん

モデラー探訪、第3回は本誌 Legend コーナーでおなじみの樋口眞三郎さん。4箇所もの製作ブースと塗装専用スペースを持ち、大阪のモデラーサークル「ききょうや」会員でもある樋口さんですが、模型だけでなくいろんな趣味を持つ、顔の広いおっちゃんです。

■お年は？

56歳。プラモ暦は50年です。

■お住まいは？

大阪の真ん中のチョイ外れ、遠くにあの通天閣が見えます。通天閣の向こうに夕日が沈む頃、私の仕事が始まります。

■お仕事は？

知的産業の一角。少年少女たちを日々鍛えておるのじゃ。

■クラブ、サークルなどは？

15年も前からあの松永氏（Vol.34参照）の家来です。一匹狼の私といたしましては、生まれて初めての団体行動です。

■どんなジャンルがお好きですか？

一応モケイなら、なんでも喰います。最近は南北戦争の気球（Vol.34参照）まで喰べちゃいました。あれは模型の原点です。今井のおっちゃんも「サイコ〜！」とおっしゃっていました。

■その他の趣味は？

釣りですね。一応これも何でもやります。シンナー臭い部屋でのモケイ作りで体力低下をきたした体には、光合成が絶対必要です。年間最低20回は行きます。モケイとは何の関係もない友人を持つのはとても良いコトです。最近は72歳のオジサンと友達になりました。収集癖もあります。ジッポーライター、空軍、海軍関係で500個。切手、2万5千種。世界で最初、日本で最初の切手も持っています。これはこれでリッパなコレクションです。仕事柄、読書もよくします。

■今後メーカーに望むキットは？

何でもリリースしてください。何でも作り倒します。

■よく行く模型店は？

アッチャコッチャにいっぱいあるジョーシンのキッズランドです。仕事に行く途中に店があるのが助かってます。

■キットのストックは？

昔1万、今は800個くらいでしょうか。いい意味で大人になりました（ホンマかいな？）。

「スターファイター」という、ビンテージモデル専門の模型店をオープンし、1年ぐらいは持ちこたえたものの、あえなく閉店した楽しい思い出もあります。オープン前からウワサを聞きつけたコレクターが日本全国から押し寄せ、バカバカ売れたのを思い出します。モデラーって一度はモケイ店の店主にあこがれるものなのですが、その夢を1度はかなえた私は幸せ者です。

■いつ頃からモケイを作り始めましたか？ またそのきっかけ、お気に入りの作品などはあれば。

小学1年生の頃、学校の前にあった文具屋さんで、メーカーは忘れましたが、1/72の戦車を何気なく買ったのが最初です。インストはあまり理解できず、イラストだけで組み上げたのを覚えています。接着剤は、薬のガラスのアンブルに入っていました。ハート型のヤスリも同封されていて、アンブルに傷をつけて、上部を自分でへし折り、つまようじの先に接着剤をつけて組んだのを思い出します。今思えばシュールな話です。

お気に入りのキットは、あのモノグラム1/32のガルフホークです。プロペラと運動して足が引っ込む、すごいキットでした。バージョン違い、箱違いを含め5つもストックしています。1ドル360円の時代でしたので、モノグラムはガキだった頃の私のあこがれでした。

■モケイ趣味について。

切手などのコレクションの趣味は、はっきり言って金持ちの勝ちです。オークションなどに参加していると金のない人は手も足も出ません。その点モケイは作ってなんぼの世界ですから、フェアな趣味と言えるでしょう。

■モケイ趣味の良いところは。

- (1) 原則としてお金はそんなにかかりません。
- (2) 完成させるというプロセスを楽しめます。
- (3) ゴルフなどとは違い、楽しみの後に完成品が残ります。「できた」とひとり言を言いつつタバコをふかす瞬間が、私はとても好きです。
- (4) サークルなどに入ると年1回「大人の文化祭」（展示会ともいう）が楽しめるみたいです。
- (5) 私もそろそろそのゾーンの入口の人間なのですが、人間手先を動かしているとボケません。先日友人の介護ケアマネージャーから、老人向けの認知症予防のためのモケイ教室を開きませんか、とおそそいがありました。
- (6) いろんな人と知り合えます。ただし女性は皆無に近いです。

■ありがとうございました。



▲第1作業所。通称「ボール牧」。"いつでもどこでもモケイ"が私の信条。作業所は4ヶ所ある。ということは、道具も全部4つずつあるのか？▼第2作業所。うしろはキットの山。写真のグンゼレベル1/32スピットは今井編集長がガメた。



▼第3作業所。右上にグンゼレベル1/32が。



▲アメリカ海軍、厚木基地VF-154ブラックナイツの飛行隊長と握手！1/48のF-14を持っていくと「サンキュー」と3度言ってくれた。ナイスガイ。
▲「ボール牧」でモケイを作る謎のフランス人。ちなみに彼はエールフランスのパイロット。



▲光合成中の私。釣りは本当にグッド。



▲第4作業所。イスは壊れるのでたまには床に座ってモケイ。▼塗装コーナー。



▼キットの山！異常な風景。はたまた快樂の空間？



▶私の楽しい思い出。スターファイター。電話番号を見よ！ちゃんと104になっている。



My Favorites!

▼お気に入り(1)。1/32ガルフホーク。オッチャンがガキの頃のあこがれのキット。



▼お気に入り(2)。書利区の友人からもらったプロ仕様の金箔ペラ。塗装用なのでなんと1本5000円もする。



NEW BOOK FINDER

おすすめ新刊・洋書ご紹介

今月は、WWIIドイツ戦車の資料本がどっさり。伊-400のハードカバー本もおすすめよん。

HISTORY FILE No.1 PANTHER

■ Auriga Publishing International 刊 ■ 英語 65ページ
■ 2415円(税込み) ■ 問い合わせ：アルキミー

AFV模型誌の作例でもおなじみのドイツ戦車研究家トーマス・アンダーソン氏が監修したパンター戦車の写真集。サブタイトル「パンターは、革命戦車だったのか?」のとおり、実車写真による歴史的検証をコンセプトに、試作型からF型までパンター全シリーズを掲載。細部まで見られる鮮明な写真が多く、しかも大半が未公開写真。さらに6面のカラー塗装図も掲載。文句なく、おすすめのパンター写真集である。



Panzerwrecks 2

■ Panzerwrecks 刊 ■ 英語 96ページ
■ 3990円(税込み) ■ 問い合わせ：アルキミー

パート1がドイツAFVファンの間で好評となったWW2ドイツ軍投降車両の写真集第2弾。ウィーン、ズノイモ、ユーゴスラビア、敗戦後ベルリンで残骸と化したドイツAFVを118枚の初公開写真で見せる。輸送列車に並んだ独軍車両、Sd.Kfz.10、251/17、251/11、パンターG、III突Gなどの最後期型、47mm砲を備えたM41やM42のイタリア軍車両など、50種以上の車両を掲載。モデラーに優れたジオラマ・ソースを提供してくれる貴重な一冊。



Pz.Kpfw.IV Ausf.A-F at WAR

■ Trojca 刊 ■ 英語 208ページ
■ 8925円(税込み) ■ 問い合わせ：アルキミー

未発表写真が満載の戦車写真集。トロイカ社「at WAR」シリーズの新刊。最新刊IV号戦車も期待通りの内容に仕上がっている。掲載写真のほとんどがなんと未発表写真。大半はモノクロ写真だが、一部はカラー写真。さらにカラー塗装図も収録。注目は、10ページにわたるフォアパンツァーの写真。どれも1ページにつき1〜2枚と大判で鮮明なもの。さらに架橋戦車の写真なども多数掲載されている。今、最もホットなIV号資料写真集といえよう。



PANZER TRACTS No.5-4 Panzerkampfwagen Panther II and Panther Ausf.F No.7-3 Panzerjaeger development & employment from 1939 to 1945

■ Panzer Tracts 刊 ■ 英語 ■ 問い合わせ：西山洋書
■ No.5-4 54ページ/3350円 No.7-3 78ページ/4526円(税込み)

ドイツAFVファン注目の「パンツァー・トラクト」の最新刊は、No.5-4はパンターIIとパンターF型。No.7-3はRSO車台Pak40対戦車自走砲やナースホルン、8.8cm Pak43搭載のヴァッフェントレーガー、12.8cmシュタール・エミールを多数の写真(初公開写真あり)。図面を用いて詳細に解説。いずれも資料の少ない車両ばかり。さらに同車両の資料本の中では本書は断トツの内容である。



TANKS ARMOUR PanzerKampfswagen I & II PanzerKampfswagen 38(t)

■ Ian Allan 刊 ■ 英語 96ページ
■ 5355円(税込み) ■ 問い合わせ：西山洋書

タンクス・アーマー・シリーズの新刊は、I号II号戦車と38(t)戦車の2冊。前書はI号、II号戦車の各型はもちろんのこと、I号4.7cm自走砲、II号ウェスベ、マードーIIなどI号II号の派生車両が、また後書もマードーIII対戦車自走砲、グリレ自走砲、ヘッツァー駆逐戦車など38(t)ベースの派生車が全数収録されている。写真は多数掲載されており、模型製作に参考になりそうな車内や細部が映ったものも多い。



TRACKSTORY No.4 RENAULT R35/R40 No.5 JUNE 1940, THE IMPOSSIBLE REVIVAL

■ Ed. Du Barbotin 刊 ■ フランス語 82ページ
■ 3350円(税込み) ■ 問い合わせ：西山洋書

WWIIフランスAFVのシリーズ本。No.5はルノーR35/R40軽戦車。オリジナルのフランス軍仕様はもちろん、捕獲後のドイツ軍仕様や4.7cm自走砲、ルーマニア軍R35長砲身45mm砲型、パリ解放後のフランス軍仕様などを掲載。またNo.6は1940年のフランス戦時のフランスAFVの様子を解説。両書とも多数の実車写真とともにカラー塗装図も16点以上(No.6にはサビ止め塗装のみのH39も1枚収録されている)。どちらもWWIIフランスAFVの資料としては文句なくおすすめ。



New Vanguard No.95 Armored Units of the Russian Civil War No.122 HMMWV Humvee 1980-2005

■ Osprey 刊 ■ 英語 48ページ
■ 2835円(税込み) ■ 問い合わせ: 西山洋書

Armored Units of the Russian Civil War

Real Action



No.95は、1917年のロシア革命直後のソ連軍装甲部隊を解説。FT-17、マークV、ホイバット、ケブレス半装軌式トラック、装甲列車などの写真が多数掲載されている。人気ソ連軍AFVでも、この時代に関する資料は少ないので、本書はお勧め。No.122はハンビー誕生から、現在使用されている各派生車を解説。試作車XM966やTOW搭載M1045、アベンジャーなどアメリカ軍仕様のみならず、スイスのイーグル、トルコのコブラなども収録されている。

HMMWV Humvee 1980-2005

UK Army official website



I-400 Japan's Secret Aircraft Carrying Strike Submarine

■ Hikoki Publications 刊 ■ 英語 144ページ
■ 8390円(税込み) ■ 問い合わせ: 西山洋書

WWII世界最大の潜水艦。伊400の決定版的な資料。伊400の構造・性能・乗員・「光と嵐作戦」の全容などを当時の写真とカラー図などを用いて詳細に解説。とくに模型製作者が気になる艦の写真を艦橋付近、船体各部。さらに艦内に収めたカットが多数収録されている。当然、艦載機の「隼」についても戦時中とスミソニアン館の復元機の写真などを交えて解説している。また巻末の日本海軍艦級解説の項では、カラーで同軍兵士の軍装も掲載。本書は文句なくおすすめできる1冊だ。



AIR FORCE LEGENDS No.213 VOUGHT / HILLER / RYAN XC-142A TILTWING VTOL TRANSPORT

■ Steve Ginter 刊 ■ 英語 144ページ
■ 5534円(税込み) ■ 問い合わせ: 西山洋書

ヴォート/ヒラ-ライアンXC-142A垂直離着陸輸送機を1冊にまとめた貴重な本。XC-142Aは、試作機にもかかわらずSFメカっぽいスタイルで意外と人気が高い機体である。本書はXC-142Aの開発からテスト風景、機体構造など多岐に渡り、多数の実機写真と図版で詳細に解説。巻末では同機以後に開発・計画された類似デザインのVTOL機も取り上げている。とにかく充実した内容に誰もが満足できるはず。これでキットが出れば言うことなしなのだが……。



Elite series No.138 The Yugoslav Wars (1) Slovenia & Croatia 1991-95

■ Osprey 刊 ■ 英語 64ページ
■ 3465円(税込み) ■ 問い合わせ: 西山洋書

まだ記憶に新しいユーゴスラビア紛争時の独立国側ともいえるスロベニア軍とクロアチア軍の部隊と兵士の軍装を多数の写真とカラーイラストを交えて解説。紛争当初から紛争後を時を遡って見ていくと、軍装がソ連式から東西混合(というより寄せ集め)。そして西側(米軍色が濃い)スタイルに変化していく様子がよく分かる。両国とも紛争の早い時期にNATO諸国の後ろ盾を受け、独立を成し遂げたので、血なまぐさい写真がないのが幸い。



The Yugoslav Wars (1)

Slovenia & Croatia 1991-95



Focke Wulf Fw190 & Ta152

■ Action 刊 ■ 英語 136ページ
■ 8663円(税込み) ■ 問い合わせ: 西山洋書

WWIIの傑作ドイツ戦闘機フッケルFw190とTa152の塗装とマーキングを解説したカラーイラスト集。なんと注目カラー塗装&マーキング図は100機以上も収録。大半は側面イラストのみだが、上下面が描かれた機体もあり、さらにRLMカラーの解説とカラーチャート(シールではなく印刷)も掲載されている。本書の優れているところは、カラーチャートが実際のモノクロ写真からどの色かを判定しやすいように光が当たった状態から影となった際の色調がわかるように配慮されているところ。飛行機モデラー必見の1冊である。



RED STAR Vol.26 Russia's Military Aircraft in the 21st Century Vol.27 Lisunov Li-2 The Soviet DC-3

■ Midland 刊 ■ 英語 128ページ
■ 6206円(税込み) ■ 問い合わせ: 西山洋書

Vol.26は現在配備が進んでいたり、開発が進行しているロシア製の最新鋭機を紹介。Su-27やMIG-29シリーズの最新型はもとより、Su-24M、Yak-130、Tu-95MS、Tu-160、IL-38SD (ELINT機)、Mi-24PN、Mi-28N、Mi-8MTKOなどを収録。財政難で自軍の装備更新はあまり進んでいないが、ロシア航空業界そのものはアメリカ以上に活発なことが分かる。また、Vol.27はDC-3のソ連生産版、リスノフLi-2。生産、運用、機体構造などにわたって同機を詳細に解説している。



Uncovering the ROCKWELL B-1B LANCER

■DAGO Publications刊 ■英語 84ページ
■4568円(税込み) ■問い合わせ：西山洋書



B-1Bは、ステルス爆撃機B-2やイラク戦など未だ現役で使用されているB-52の陰にその存在が隠れがちだが、アメリカ空軍の主力爆撃機であることには変わりない。本書はB-1Bのディテール写真集である。機体各部はもとより、コックピットやウェポンベイなどの機体内部、さらに搭載兵器まで文字通り隅から隅まで多くのカラー写真を掲載。おまけにウェポン運用ドロー(の細部)まで紹介されている。



Uncovering the GRUMMAN F-14A/B/D TOMCAT

■DAGO Publications刊 ■英語 168ページ
■8033円(税込み) ■問い合わせ：西山洋書

F-14は、実機の退役が始まっているが、この飛行機ファンの間ではその人気はいまだ絶大である。本書はF-14トムキャットの最新のディテール写真集で、168ページにわたって各部を捉えた写真がぎっしりと詰め込まれている。F-14の同様の機体は数多いが、実機が退役中ということは、最も新しい本書に収められた写真がF-14の最終的な機体のディテールを示していることになるわけだ。1/48 & 1/72の折り込み図面付き。



ARMES MILITAIRES HORES No.60

■Histoire & Collections刊 ■フランス語 81ページ
■2730円(税込み) ■問い合わせ：アルキミー



WW2を中心にベトナム戦争までのオペレーション、人物、陸、空兵器など広範囲に渡り特集するARMES MILITAIRES別冊。No.60では「ドイツ軍の最期」と題し、1944年アメリカ軍のアーヘン占領を特集。戦時下の破壊された街、兵士達の様子など多数の記録写真、米、独軍の陸空兵器。そして現在の町並みと兵士達の墓まで、戦いの歴史をつづる。

STEEL MASTERS HORES-SERIE No.28 OPERATION BARBAROSSA (1)

■Histoire & Collections刊 ■フランス語 82ページ
■2877円(税込み) ■問い合わせ：西山洋書

AFV模型専門誌 スチールマスター28号は、バルバロッサ作戦に参加した独ソAFVを製作。製作アイテムはCMK 1/35 35(t)軽戦車、ドラゴン1/35 III号戦車G型& III号戦車H型軽水戦車、ドラゴン1/35 T-34/76 1940年型、ミラージュ1/35 T-50軽戦車、トランベッター1/35 KV-II初期型、ソル1/35 シュトゥーガーType40、イタレリ1/35 Sd.Kfz.10/5、ICM 1/35 IT-28突撃戦車。各記事には実車写真と解説が付属。また、バルバロッサ作戦の戦記、クビンカ博物館の展示車紹介なども収録。



Wing Masters No.52

■Histoire & Collections刊 ■フランス語 82ページ
■1418円(税込み) ■問い合わせ：アルキミー

飛行機模型誌の老練的なウィングマスター。最新刊例は、ユンカースJu87D、アプロ・マンチエスター、ヘルダイバー、A-7E コルセアII、アルバトロスD.Vなど。歴史コーナーではノルマンディー・ノーマン特集。記録写真と塗装図を掲載。落ち着いた老練の真実を感じる真面目な誌面構成で、ときとしてハッとさせる作品が掲載され目が離せない。巻末の豊富なキットレビューも売り。



REPLIC No.176

■D.T.U.Stari刊 ■フランス語/日本語付き 50ページ
■1365円(税込み) ■問い合わせ：三色書房



フランスの飛行機ブーム専門誌。No.176の製作記事は、エアフィックス1/48 BAe ホーク練習機、Ardpol 1/72 PZL-130TC オルリーク、アカデミー1/48 CH-46E シーナイト。いつも通り製作記事はカラー写真で各工程をわかりやすく解説。また各記事には、製作の際に必要な実機のディテール写真が併載されている。さらに新製品、新刊情報なども充実。最新の飛行機模型の情報をいち早く知りたい方は、本書を見るべし。

AFV modeller No.28

■AFV modeller刊 ■英語 64ページ
■2310円(税込み) ■問い合わせ：アルキミー

世界的なAFVモデラーのハイレベルなスーパーテクニックを、美しい誌面構成で見せるビジュアル系専門誌の失敬AFV模型専門誌。表紙は「最も最新の現用モデル」と題したメルカバ3。製作過程を11ページにわたり紹介。さらに実車カラー写真でディテールも収録。巻頭特集ハンビーは作例とアフガニスタンで活動する様々なタイプの実車を紹介。またWW2のハンガリー軍用車両の記録写真、インシグニアも特集。巻末のピックアップSherman作例まで、ハイレベル作品のオンパレードで見ごたえ充分の内容。



グランドパワー5月号別冊 世界の戦車車両 2006~2007

■176ページ ■2600円(税込み)
■問い合わせ：ガリレオ出版

最近の世界のAFV市場は、局地戦に対応した重装甲車両と緊急展開部隊用の機動性が高く汎用性に優れた輪式戦車車両などの開発が相次いでいる。とくに兵器が外貨獲得の目玉商品となっているロシアや新型車両への更新時期と外地展開部隊用車両の開発が重なったドイツなどでは、絶えず新型車両が登場しており、そうした車両を知るのに本書は最適である。



(問い合わせ先) ※当コーナーで紹介した書物の問い合わせの際は、「マスターモデラーズ第36号を見て～」と先方にお話しください。

■西山洋書 ※通販は池袋店

銀座店 〒104-0061
東京都中央区銀座3-7-13 成田屋ビル3F
池袋店 〒171-0021
東京都豊島区西池袋1-2-2 ウエストワン1F
神戸店 〒650-0021 兵庫県神戸市中央区三宮町
2-11-1 センタープラザ西館3F アクセルワーク内

Tel 03-3562-0820

Tel 03-3981-6301

Tel 078-332-3596

■三色書房

〒177-0041 東京都練馬区石神井町3-18-5-202
■ホビーデポットG
〒983-0047 宮城県仙台市宮城野区銀吉町12-21
■ガリレオ出版
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-2-13
■アルキミー
〒165-0032 東京都中野区鎌倉3-47-10-404

Tel 03-5910-7624

Tel 022-791-4020

Tel 03-3556-3699

Tel 03-3310-5174

Pick up the pieces!

新製品紹介のページ

静岡ホビーショー発表新製品の余韻いまださめやらず! ハセガワ 1/350 駆逐艦雪風、1/48 F-104DJ、タミヤ 1/32 零戦二一型、トランペッター 1/35 KV-1 重戦車改、1/144 ガトー級駆逐艦、ファインモールド 1/48 九五式戦闘機……。

■ハセガワ ○ハセガワ



▲1/48 フォッケウルフ Fw190A-4 ■1 ■価格2520円 ■A-3に続いてA-4が登場。新規パーツのエルロンはもろもろA-4の特徴をしっかりと再現。
▼1/48 P-400 エアコブラ ■1 ■価格2520円 ■コクピット後部にエンジンをつんだアメリカ戦闘機P-30の連合国輸出型。7月予定。



▲1/48 T-3 Jet Set ■1 ■価格1575円 ■航空型で活躍する航空自衛隊T-3パイロット。マーキングはデカールシール選択式。
▼1/72 ユンカース Ju88A-4 ■1 ■価格3360円 ■急降下爆撃も可能なドイツ空軍爆撃機。まず爆撃機タイプのA-4が登場。7月予定。



▲1/48 ブルーインガルズ Jet Set ■1 ■価格1575円 ■地上アフロを披露するパイロットを再現。風防パーツもオマケに付属。7月発売。
▼1/48 65周年企画 零戦全形式開発計画 ■1 ■価格未定 ■12試飛機、5464型、練習機なども含む全15形式の開発を発表。コンプリートしたい!



▲1/48 F-104DJ スターファイター “航空自衛隊” ■1 ■価格2730円 ■F-104機体タイプリリース。胴体、コクピット、風防、前翼などが新装型。
▼1/350 南極観測船 宗谷 “第一次南極観測隊” ■1 ■価格未定 ■次の1/350は戦前に建造。戦後は南極観測に貢献した歴史ある名艦。11月予定。



▲1/72 60cm 自走540mm カール 量産型 w 連発式車 ■1 ■価格2940円 ■鉄道輸送状態を再現。収納状態サスや再検証した装填台支柱も追加。線路も付属。
▼1/72 三菱キ-46 百式司令部偵察機機型 “独立飛行第17中隊” ■1 ■価格2730円 ■20mm 上向き砲を装備したB型防空戦闘機型を再現。塗装は独立17中隊。



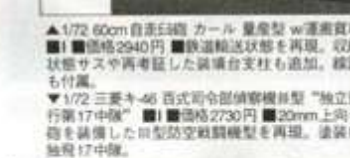
▲1/48 三菱 T-2 “CCV” ■1 ■価格3570円 ■カナード翼、尾翼フラップヒンジのフェアリングを追加したCCV研究機を再現。
▼1/72 川崎キ-45改 二式陸軍戦闘機 陸軍 甲型 “飛行第13戦隊” ■1 ■価格2520円 ■南方に派遣された陸軍部隊。13戦隊の灰緑色機とまだら迷彩機の2種類を再現。



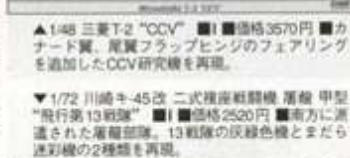
▲1/72 富士 T-1B “ファイナルフライト” (2機セット) ■1 ■価格2730円 ■今年全機が退役したT-1。3月3日の小笠原基地消松基地ラストフライト機を再現。
▼1/72 F-14D トムキャット “VF-213 ブラックライオンズ ラストクルーズ” ■1 ■価格3150円 ■部隊番号にちなみA1213号機に施された最終飛行スペシャルマーキングを再現。



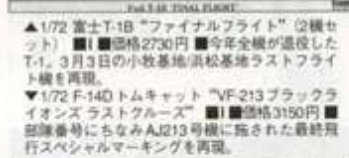
▲1/72 F-15J イグル “2015 20周年記念塗装” ■1 ■価格3150円 ■第201飛行隊20周年記念塗装機を再現。主翼には赤いクサビ。尾翼にはヒゲマダ。
▼1/32 フォッケウルフ Fw190D-9 “ザクセンベルクシュヴァルム” ■1 ■価格4410円 ■防弾防止のため胴体下を赤と白のストライプで塗装したJW44の機体を再現。



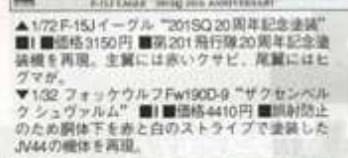
▲1/48 F-104S スターファイター “ASA” ■1 ■価格2940円 ■イタリア空軍の戦闘能力向上型ASAを再現。レジンの機銃口カバーが付属。
▼1/24 ランチアストラトス HF “1977 サファリラリー” ■1 ■価格2940円 ■アニマルガード、グラベル用サス、タイヤなどを追加したサファリバージョンを再現。



▲1/48 RF-4E ファントムII “AG51 インメルマンズペシャル” ■1 ■価格3780円 ■WWII エースの名をとった部隊の25周年記念特別塗装機。左右でカラーリングが異なる。
▼1/32 三菱 海軍電式艦上戦闘機二一型 ■1 ■価格8400円 ■一人乗。電戦二一型がついにリリース。そのディテール、クオリティは五二型以上。



▲1/48 F-14B トムキャット “VF-143 ビューキンズ ラストクルーズ” ■1 ■価格5040円 ■「帰化する犬」マーキングのVF-143の記念塗装機。ハイビジとロービジの2種を用意。
▼1/16 WWII 日本海軍搭乗員 ■1 ■価格1365円 ■零戦パイロットの大型フィギュア。腕組みと短刀を持ったポーズを選択可。7月予定。



▲1/24 ニッサン フェアレディ Z432R 1970 ■1 ■価格2520円 ■フロントグリルなど新規パーツを追加。30数台のみ製作の幻の名車Z432Rを再現。



▲1/48 F-104S スターファイター “ASA” ■1 ■価格2940円 ■イタリア空軍の戦闘能力向上型ASAを再現。レジンの機銃口カバーが付属。
▼1/24 ランチアストラトス HF “1977 サファリラリー” ■1 ■価格2940円 ■アニマルガード、グラベル用サス、タイヤなどを追加したサファリバージョンを再現。



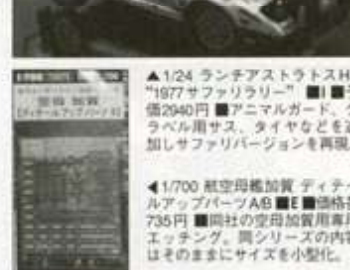
▲1/48 RF-4E ファントムII “AG51 インメルマンズペシャル” ■1 ■価格3780円 ■WWII エースの名をとった部隊の25周年記念特別塗装機。左右でカラーリングが異なる。
▼1/32 三菱 海軍電式艦上戦闘機二一型 ■1 ■価格8400円 ■一人乗。電戦二一型がついにリリース。そのディテール、クオリティは五二型以上。



▲1/48 F-14B トムキャット “VF-143 ビューキンズ ラストクルーズ” ■1 ■価格5040円 ■「帰化する犬」マーキングのVF-143の記念塗装機。ハイビジとロービジの2種を用意。
▼1/16 WWII 日本海軍搭乗員 ■1 ■価格1365円 ■零戦パイロットの大型フィギュア。腕組みと短刀を持ったポーズを選択可。7月予定。



▲1/24 ニッサン フェアレディ Z432R 1970 ■1 ■価格2520円 ■フロントグリルなど新規パーツを追加。30数台のみ製作の幻の名車Z432Rを再現。



▲1/700 航空母艦加賀 ディテールアップパーツAB ■1 ■価格735円 ■同社の空母加賀専用エッチング。同シリーズの内容はそのままにサイズを小型化。



▲1/32 三菱 海軍電式艦上戦闘機二一型 ■1 ■価格8400円 ■一人乗。電戦二一型がついにリリース。そのディテール、クオリティは五二型以上。



▲1/16 WWII 日本海軍搭乗員 ■1 ■価格1365円 ■零戦パイロットの大型フィギュア。腕組みと短刀を持ったポーズを選択可。7月予定。



▲1/35 フランス戦車B1 bis ■1 ■価格5040円 ■存在感あるフランス戦車。一体成形の車体、はめ込み履帯などで組みやすさもバツグン!

■I: インジェクションキット ■R: レジンキット ■M: 金属製 ■D: ダイキャスト
■P: 塗装済 ■C: 完成品 ■Dc: デカール ■E: エッチングパーツ ■T: ツール



▲1/48 エアモデルズブレイ AS-29 反緑色 ■塗料 ■価格525円 (右) アクリル塗料ミニ XF-76 反緑色 ■塗料 ■価格125円 ■電装にあわせて新考証の塗色がスプレーとピン入りで仲間入り。
▼1/48 イギリス戦車 シャーマンICファイアフライ ■■価格1680円 ■M4にイギリスの17ポンド砲を乗せたファイアフライが1/48で登場。



▲1/35 ドイツ88ミリ砲 Flak36 “北アフリカ戦線” ■■価格3360円 ■従来キットの北アフリカバージョン。新たに熱帯部隊兵8体が付属する。7月発売。
▼1/48 WWII ドイツ歩兵行軍セット ■■価格945円 ■アクションシーンのフィギュアセットに続き、行軍中などのリラックスポーズが登場。



▲1/48 ドイツ重戦車 タイガーI 極初期生産型 (アフリカ仕様) ■■価格1995円 ■48ディーガーに新規パーツを追加し、北アフリカの極初期型バージョンとしてリリース。
▼1/48 ドイツ航空機用電源車 ケッテンクワート車1セット ■■価格1260円 ■ドイツ空軍機用の外部電源車。1/48飛行機モデル用。



▲1/48 イギリス巡航戦車 クロムウェルMk.IV ■■価格1785円 ■1/48初の英戦車クロムウェルが登場。戦域別にメルマンディーカウルもセット。
▼1/48 クルップズ600ポンド6輪軽トラック ■■価格1765円 ■48ソフスキにWWII初期の6輪トラックが仲間入り。フィギュア8体も付属。7月発売。



▲1/48 ソビエト KV-1 重戦車 ■■価格1890円 ■WWII 連戦重戦車の代名詞。独逸戦初期に活躍したKV-1戦車は148MMに見事。7月発売。
▼1/12 ヤマハYZR-M1 50ccアンバーサーライ-USインターカラーエディション ■■価格2940円 ■昨年チャンピオンマシンのアメリカGP仕様記念カラー。デカールはカルトグラフ。



▲1/48 フォルクスワーゲン タイプ82C スタッフカー ■■価格1050円 ■オフロードタイプのフォルクスワーゲン軍用型。フィギュア1体付き。7月下旬発売。
▼1/12 ヤマハYZR-M1 フロントフォークセット ■■価格1260円 ■同社キットのグレードアップパーツ。フロントフォーク、リヤスプリングなどをセット。



▲1/48 ドイツ重戦車 キングタイガー (ハンシェール砲塔) ■■価格1890円 ■本命のタイガーIIが満を持して1/48で登場! 7月下旬発売。
▼1/700 ドイツ海軍駆逐艦Z級 (Z37-38) バルバラ改修 2艦セット ■■価格840円 ■WWII ドイツ海軍駆逐艦。対空兵器強化のバルバラ改修仕様と36A砲塔型の前期タイプを選択できる。



▲1/48 ハインケルHe162A-2 “サラマンダー” ■■価格2520円 ■大戦末期のドイツジェット戦闘機。エンジン、台車などアクセサリも豊富。
▼1/24 トヨタ トムス84C ■■価格2415円 ■先進的なボディデザインで80年代前半のグループC耐久レースで活躍。エンジンも付属。



■ドラゴンモデル ○ハセガワ



▲1/35 IV号戦車 Ausf.C ■■価格4148円 ■IV号戦車リソースラッシュ。今回はC型。砲塔、車体上面、砲身基部などが新設計。
▼1/35 Sd.Kfz.251/16 Ausf.D 火筒放射銃車 ■■価格3990円 ■251後期型シリーズ。今回は火筒放射銃を装備したタイプを再現したキット。



▲1/35 キングタイガー 砲塔シールド (プレミアムエディション) ■■価格3990円 ■既存製品にスライド金型キューボラやマズルブレイキ、變形済み履帯などを追加セット。
▼1/35 ドイツ7.5cm対戦車自走砲マードラー ■■価格3990円 ■完全新規開発として期待の新製品。スライド成型アーマーやマズルブレイキ3種など。



▼1/35 M1A1 AIM ■■価格4148円 ■米現用戦車。リコイル可能メタル製砲身などドラゴン基準のゴージャスキットが登場。



▼1/35 ドイツ 1st Cavalry Division ロシア1941 ■■価格未定 ■Gen2シリーズに軍馬が登場。2種類の頭部。既録までリアル再現されたキットになる。



▲1/12 スズキRG500 グランプリレーサー ■■価格1680円 ■スズキに5年連続チャンピオンをもたらした歴史的マシン。デカールはカルトグラフ。



▲1/12 スズキRG500 チームラグーナ ■■価格1680円 ■1980年にルックネリとロッキンが乗ったマシンを再現。デカールはカルトグラフ。



▼1/35 2cm Flak38 auf Pz.Kpfw.I auf A1号対空戦車 ■■価格3495円 ■既存製品2種の組み合わせにとどまらず、新規パーツでさらなるグレードアップ。



▼1/35 M4A2 タラワ ■■価格未定 ■静岡海軍博物館で展示。太平洋戦争でアメリカ海兵隊が使用したシャーマンを再現。



▼1/72 Sd.Kfz.251/7 Ausf.C 装甲工兵車 ■■価格1365円 ■1/72の251シリーズは工兵車が登場。新規パーツなどが新規に追加されている。



▼1/72 M4A3(76)W VVSS シャーマン ■■価格1365円 ■76mm砲塔搭載。長年WWSSサスペンションのシャーマンを再現。

■アカデミー ○GSIクレオス



▲1/48 CH-53E スーパーセースタリオン (米海兵隊仕様) ■I ■価格9030円 ■イラクやアフガニスタンで活動した最新型をモデル化。ローターなどは開閉選択式。

■AFVクラブ ○GSIクレオス



▲1/35 M548 ガントラック ■I ■価格3570円 ■M548輸送車にM54C 4連装機銃を搭載したバージョン。通常型、ベトナム型も製作可能。



▲1/35 米軍90mm砲実装セット ■M ■価格1000円 ■M26バッシング、M36ジャクソンなどに使用可能な真ちゅう抜き実装。20個入り。
▲1/35 タイガーI初期型キャタピラ (ベルト式) ■I ■価格945円 ■昨今の組立て難を全滅断には迫りにあり、タイガーIのベルト履帯が登場。



■アオシマ ○アオシマ



▲1/700 伊400号潜水艦 フルバル ■I ■価格1890円 ■瑞鳳を模範、パナマ運河攻撃を計画した潜水空母の大型潜水艦。伊401も同時に発売。
▼1/700 戦艦山本1944 / 戦艦扶桑1944 ■I ■価格未定 ■レイテ沖海戦で悲劇の最期を遂げた2戦艦がついにリニューアル。年末予定。



▲1/32 ホーカーハンターF-6 ■I ■価格1450円 ■戦後の英国傑作戦闘機。従来キットに部品追加しF-6型を再現。7月予定。
▼1/144 アントノフAn-124 ■I ■価格7560円 ■150tの積載量を誇る、世界最大級の輸送機An-124。1/144でも嬉しい！



■レベル ○ハセガワ



▲1/72 UボートTypeVII C41 (大西洋) ■I ■価格1万8000円 ■防空火器を強化した後期型のUボートVII型が登場。通常VII型で出来の良さは証明済み。
▼1/48 ユーロファイタータイフーン (単座) ■I ■価格5880円 ■イギリス、ドイツ、イタリア、スペインで採用の最新ジェット戦闘機を発売。



▲1/72 X-15 (復刻再版) ■I ■価格2730円 ■アメリカレベルより名作キットが復刻。7月予定。



▲1/72 T-72M1 ■I ■価格2100円 ■人気の現用戦車が1/72で登場。マーキングは東ドイツ、フィンランド、イラクの3種。

■フジミ ○フジミ



▲1/350 NSSN-774 ヴージニア ■C ■価格1万8000円 ■アメリカ海軍最新鋭の攻撃型潜水艦ヴァージニア級の塗装済み完成品モデル。数量限定。
▶1/72 68 インドパルス 天龍組 ゴールド ■I ■価格2310円 ■ブルーインパルス結成当時の天龍組マーキングを再現。デカールはカルトグラフ。



■イタレリ ○タミヤ



▲1/35 イタリア カモキッタAS42サハラアノ ■I ■価格未定 ■フィアットが砂漠偵察活動のために開発。北アフリカで活動したイタリア車両。



▲1/35 イタリアアウトブリンダAB43装甲車 ■I ■価格未定 ■AB41のシャーシを利用し砲塔と車体を再設計。47mm砲を搭載したバージョン。
▲1/72 CR42ファルコ ■I ■価格未定 ■イタリア最高の複座戦闘機が1/48に引き継ぎ1/72でもリリース。



■東京マルイ ○東京マルイ

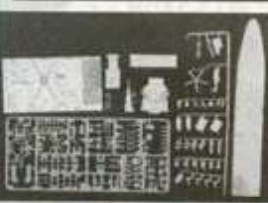


▲1/24 M1A2 エイブラムス イラク戦仕様 ■C ■価格1万9950円 ■M1A2のイラク戦仕様。デザートカラーの車体とCIP。各種車載装備が追加されている。
▼1/1 陸上自衛隊 89式5.56mm小銃 ■C ■価格4万9140円 ■自衛隊の小銃を細かなフィギングに基くまで忠実に再現。パッケージも雰囲気十分。



▲1/24 陸上自衛隊 90式戦車 ■C ■価格未定 ■RCバトルタンクシリーズに、ついに陸上自衛隊の90式が仲間入りする。
▼1/1 89式用 海外派遣仕様カスタムセレクター ■M ■価格未定

■シーラインシリーズ ○シーラインシリーズ



▲1/700 海上自衛隊 掃海母艦 うらが型 ■R ■価格8400円 ■25年ぶりに建造された掃海母艦。安芸製作所のレジン部品は高水準のキット内容。

■タスカ ○ブラッツ



▲1/35 キューベルワゴン アンビュランスバージョン ■I ■価格未定 ■キューベルワゴンのキットにドラゴンのフィギュアパーツを合わせたセット。
▶1/72 悪役1号「隊員革命」 ■I ■価格6720円 ■人気の宮崎メカに新規模フィギュアを追加。希望に込めフィギュアを計20名に贈る。



■ブラッツ ○ブラッツ



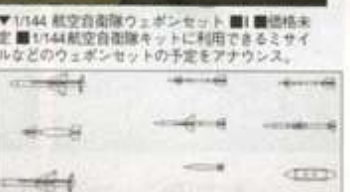
▼1/144 UH-60J 航空自衛隊50周年記念塗装機 2機セット ■I ■価格1470円 ■好評の「よみがえり」に続き50周年記念塗装機を再現したセットが登場。



▼1/144 紫電改 (2機セット) ■I ■価格1260円 ■期待の「紫電改」は金型マスター状態で展示。デカールはカルトグラフ。



▼1/144 F6Fヘルキャット ■I ■価格未定 ■静岡ホビショーで発表。紫電改のキットとあわせて松山上空の空戦を再現が？！



▼1/144 航空自衛隊ウェポンセット ■I ■価格未定 ■1/144航空自衛隊キットに利用できるミサイルなどのウェポンセットの予定をアナウンス。

■エフトイズ ○エフトイズコンフェクト



▲1/144 Twin Engine Collection 2 双発夜戦 二式複戦艦 ■C ■価格未定 ■モスキート、百式司令機などで人気のシリーズ。第2弾はまず陸軍戦艦夜戦艦を発売。



▲1/2000 戦艦大和シリーズ 戦艦大和 竣工時、機一号作戦時、天一号作戦時、戦艦武蔵 レイテ沖海戦時 (全4種類、ケース付) ■C ■予価1575円 ■大和ミュージアムのオフィシャルモデルを改修し4種類の時期設定でリリース。8月予定。

■マイクロエース ○マイクロエース



▲1/48 航空自衛隊 バトリットシリーズ ミサイルシステム、レーダーシステム、コントロールシステム、アンテナマストシステム ■I ■予価1570円 (ミサイルシステム)、1260円 (他3種)



▲1/144 HG ジェットファイター カルトグラフィック仕様 T-2F-4EJF-15JF-1 ■I ■予価1575円

■ホビーボス ○童友社



▲1/48 ロシア T-34/85 (1944年) ■I ■価格未定 ■1/48シリーズに参入するホビーボス。車体内部も完全再現。詳細なディテールを誇る。
▼1/48 ロシア KV-2 ■I ■価格未定



▲1/48 ロシア T-34/76 (1942年) ■I ■価格未定 ■76mm砲型も同時リリース。この他 LCM-3 上陸用舟艇も予定。なお発売時期は未定。



▲1/72 WW2 戦艦シリーズ (全10種類) ■P ■価格未定 ■1/72キットガー単に10種類。アメリカ、イギリス、ドイツの有名戦艦機をラインナップ。



▲1/48 ミラージュ III C ■I ■価格未定
▼1/48 ロシア KV-1 ■I ■価格未定



■ビットロード ○ビットロード



▲1/700 米海軍空母 CVN-68 ニミッツ 1975 ■I ■価格8190円 ■トラペ1350をスケールダウンし船殻を徹底的にリファイン。フルハル・WL 選択式。
▼1/60 映画「日本沈没」海洋開発機 深海探査艇 わだつみ2000 ■C ■価格8925円



▲1/100 翼コレクション 第8弾 欧州の闇 フォッケウルフ Fw190A-5 (全6種+スペシャル) ■P ■価格399円 ■好評の1/100シリーズの最新キットは空冷フォッケ。シャープなキットと塗装が魅力。



▲1/100 翼コレクション 第9弾 轟の雷鳴 P-47D サンダーボルト (全6種+スペシャル) ■P ■予価399円 ■フォッケに次ぎシリーズはサンダーボルト。こちらも6種+シークレット1種。



▲1/100 翼コレクション 第10弾 太平洋の翼 零戦21型 (全8種+スペシャル) ■P ■予価399円 ■零戦21型のシリーズも予告。誰もが簡単に作れる零戦キット。早く欲しい!



▲1/700 海上保安庁 えりも型 巡視船 PL-05 はかた ■I ■価格1890円 ■機内方面に配置されているえりも型巡視船同型7隻の4番艇。
▼スカイウェブ ジャーナル10号 レイテ沖海戦 その2 マール沖海戦 ■書籍 ■価格1365円



▲1/60 映画「日本沈没」海洋開発機 深海探査艇 わだつみ2000 ■C ■価格8925円



■ガイアノーツ ○ガイアノーツ

■Ex-フラットクリアー ■Ex-フレッシュ ■予価各600円 ■好評のガイアカラーEx-シリーズに、ガイアカラー008フラットクリアーよりも、さらにつや消しのEx-フラットクリアーと、ベージュになるように赤味、黄味の調子をなくし、明度を上げた色調のEx-フレッシュの新品追加。7月中旬の発売予定。



■エアフィックス ○ビーバーコーポレーション



▲0.48 ドラゴンラビッド ■I ■価格1575円 ■イギリスの沿岸哨戒/練習/連絡機。エーテルの金型に新デカールをセット。
▼1/144 BAC 1-11 ■I ■価格1050円 ■イギリスやアメリカの航空会社で使用されたイギリス双発短距離旅客機。限定生産。



▲1/72 ブリストル スーパーフレイター ■I ■価格2100円 ■機首にある輸送ドアが特徴のイギリス輸送機。限定生産。
▼1/144 ボーイング 707 ■I ■価格1575円 ■KC-135空中給油機やE-3早期警戒機の原型機となった4発大型旅客機。限定生産。



▲1/72 ロッキード スーパーコンステレーション ■I ■価格3780円 ■“コニー”の愛称で親しまれた4発高翼旅客機。エーテル金型に新デカール。
▼1/144 ボーイング クリッパー ■I ■価格1575円 ■太平洋横断路線などに使用された大型旅客飛行船。限定生産。



AIRFIELD SETS

▲1/72 イギリス空軍 WWII/ドイツ空軍 WWII/アメリカ陸軍航空隊 WWII/NATO 軍用エアフィールド各セット ■I ■価格各2940円 ■ジオラマベースに各国戦闘機、フィギュア、車両キットを組み合わせたセット。
▼1/72 スピットファイア 初飛行70周年記念セット ■I ■価格3780円 ■Mk.I, Mk.Vc, Mk.IX, Mk.XVieにS68水上機を加えた5機セット。色、説明書付き。



▲1/144 HS トライデント 1C ■I ■価格1050円 ■世界で初めて自動操縦装置を装備したイギリス3発中距離旅客機。限定生産。
▼1/48 スピットファイア 初飛行70周年記念セット ■I ■価格3780円 ■Mk.IX, F22に新金型のMk.I初原型(2枚プロペラ、フラットキャノピー)の3機セット。



■エーテル ○ビーバーコーポレーション



▲1/125 エアバス A380 ■I ■価格5985円 ■2階建ての最新鋭大型旅客機。1/144スケールより大きい夢の大型キット。



■クラシックエアフレーム ○ビーバーコーポレーション



■プラネット ○ビーバーコーポレーション



▲1/72 SNCASE SE-100 ■R ■価格6090円 ■戦時により開発中止となったフランスの試作重戦艦機。
▼1/48 コールフォードベン FK.58 イスバノスエンジン搭載型 ■R ■価格7297円 ■WWII前にフランス空軍の発注で生産されたオランダ戦艦機。



▲1/48 アビア B.35.1 試作1号機 ■R ■価格5512円 ■1938年初飛行の、チェコスロバキア初の低翼単葉機。
▼1/48 レッド S.52b ■R ■価格5775円 ■WWII戦前戦中を通じて広く使用されたチェコスロバキアの練習軽爆撃機。



▲1/72 T-34/76 Mod.1942 第30戦車旅団 “レンゲラート戦線1944” ■C ■価格1680円
▼1/72 シュトルムティーガー “戦線準備” ■C ■価格3045円



▲1/72 パンサー G 初期型 “第19装甲師団” “ワルシャワ1944 (ツェメリットコーティング)” ■C ■価格1890円
▼1/72 エレファント “出撃準備完了” ■C ■価格3045円



▲1/72 Me410 運搬用リフト工場製貨車パート1 ■R ■価格3990円

▲1/48 JF5-6ダック ■I ■価格7192円 ■「みにくいアヒルの子」と親しまれたグラマンの汎用水陸両用機。キットは改修再版。

▲1/48 EE キャンペラ 輸出仕様 ■I ■価格8610円 ■オーストラリア。ニュージーランド。西ドイツ。アルゼンチンへの輸出機塗装を再現。



▲1/72 Me410 運搬用リフト工場製貨車パート2 ■R ■価格4882円

▲1/72 Me410 運搬用リフト工場製貨車パート3 ■R ■価格4882円 ■Me410 双発戦闘機の各パーツを輸送する貨車群をモデル化。Me410はキットに含まれる。

■ドラゴンアーモリー ○ハセガワ



▲1/72 IV号突撃砲 中期型 “イタリア1944” ■C ■価格2415円
▼1/72 ドイツ T-34/76 第2装甲師団 “ダスライヒ” クルス 1944 ■C ■価格1680円



▲1/72 IV号駆逐戦車 L/70後期型 “ドイツ1945” ■C ■価格1890円
▼1/72 Sd.Kfz.181 タイガーI初期型 ドイツ1945 ■C ■価格1890円



▲1/72 パンサー G 初期型 ノルマンディ1944 (ツェメリットコーティング) ■C ■価格1890円
▼1/72 Sd.Kfz.251 Ausf.C 歩兵師団 “グロスドイッチェランド” 東部戦線 1942 ■C ■価格1890円



▼1/72 Sd.Kfz.251 Ausf.C 第4装甲師団 東部戦線 1943 ■C ■価格1890円



▼1/72 M998 ハンビー “ガントラック” 大歩兵師団工兵隊団 イラク 2003 ■C ■価格1260円

■ドラゴンウォーパズ ○ハセガワ



▲1/72 F-14D トムキャット VF-31 “トムキャット” ■C ■価格5670円



▲1/72 F/A-18E スーパーホーネット VFA-14 “USS ニミッツ” ■C ■価格4830円



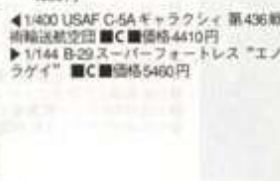
▲1/72 F-14D トムキャット VF-213 “ブラックライオンズ” ■C ■価格5670円



▼1/72 メッサーシュミット Me262A-1a “イエロー-3” 1945年5月 ■C ■価格3570円



▼1/72 F6F-5 ヘルキャット “ホワイト9” VF-27 USS プリンストン 1944 ■I ■価格3675円



▲1/400 USAF C-5A キャラクシ 第346戦術輸送航空団 ■C ■価格4410円
▶1/144 B-29 スーパーフォートレス “エンラギー” ■C ■価格5460円

■タカラトミー ○タカラトミー



▲マイクロワールド「日本沈没」D1作戦編(全9種+シークレット) ■C
■予価500円 ■7月公開の映画「日本沈没」に登場するメカをモデル化。劇中シーンのベースも付属。
▼1/700 飛行船「ツェッペリン」



▲1/144 深海調査船 わだつみ6500 (Aタイプ)
▼1/700 海洋調査船 なつしま



▲1/144 深海調査船 わだつみ6500 (Bタイプ)
▼1/144 陸上自衛隊73式大型と小型トラック (新型)



▲1/144 消防庁救急ヘリ スーパービー
▼1/144 陸上自衛隊輸送ヘリCH-47J (鈴子&バイク付き)



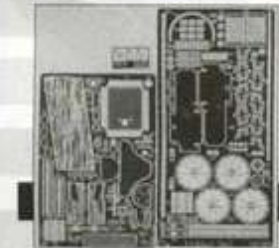
▲1/144 航空自衛隊輸送ヘリCH-47J
▼1/700 タグボート 荒崎丸



■ハーミットモデル ○シェブロン



▲極少マイナスネジヘッド (0.8mm約100本入り) ■M ■価格1050円 ■IV号戦車の砲塔上などの留めネジ表現に便利な直径0.8mmの超精密マイナスネジ。



■ブレイブモデル ○シェブロン



▲極小スプリング A-1 A-2 B-1 B-2 ■M ■価格各504円 ■IV号戦車のフンダーディテールアップに便利なスプリング。長さ8mm/6mm、太さ1.2mm/1.5mmで4種類を用意。

■ウルトラキャスト ○ホビーデポット"G"



▲1/48 ハミルトン 131 ハミルトン イブスピンナー ■R ■価格1365円



▲1/48 P-51 D.K. シート ■R ■価格1260円



▲1/32 WWII 日本海軍 搭乗員 ■R ■価格2310円

■バルト ○ホビーデポット"G"

●1/32 フォッカー D.VI ■E ■価格2310円
●1/32 フォッカー D.VI ■E ■価格2310円
●1/48 PEL P23 ■E ■価格3885円

■ライオンロア ○ビットロード

●1/700 WWII 独海軍 ラッタル ■E ■価格1575円
●1/700 WWII 独海軍 ケーブルリール ■E ■価格1575円
●1/700 湾岸戦争 掃海艇 ■E ■価格1575円
●1/700 水兵 ■E ■価格1575円
●1/700 WWII 米海軍 レーダーセット ■E ■価格1890円
●1/700 WWII 独海軍 MG C30 20mm 対空機銃 ■E ■価格1890円
●1/700 WWII 独海軍 Flak35 20mm 対空機関砲 ■E ■価格1890円
●1/700 WWII 独海軍 SK C30 37mm 対空機関砲 ■E ■価格1890円
●1/700 日本海軍 航空母艦用I ■E ■価格1890円
●1/700 日本海軍 艦船用無線電話 ■E ■価格1890円
●1/700 WWII 米海軍 ドア・ハッチ ■E ■価格1890円
●1/700 日本海軍 カタパルト ■E ■価格1890円
●1/700 日本海軍 空母甲板用ネット ■E ■価格1890円

■トムスモデル ○ホビーデポット"G"

●1/700 WWII 米海軍 空母エセックス用 ■E ■価格4410円
●1/700 海上自衛隊 護衛艦はたけ型 ■E ■価格1365円

■CMK ○ビーバーコーポレーション

●1/48 フォッカーE.V.エンジン(エデュアルド用) ■R ■価格1260円
●1/48 フォッカーE.V.ディテール(エデュアルド用) ■R ■価格1575円
●1/48 IV号戦車シュトゥルム箱(タミヤ用) ■R ■価格1470円
●1/48 IV号対空戦車クワールブリッヂ砲塔(タミヤ用) ■R ■価格1890円
●1/48 IV号対空戦車ベルグバントナー コンバージョン(タミヤ用) ■R ■価格1470円
●1/72 WWII ドイツ陸軍歩兵 休息 ■R ■価格945円
●1/72 WWII ドイツ装甲擲弾兵 バンツァーシュレック ■R ■価格1260円

■クイックブースト ○ビーバーコーポレーション

●1/48 B-17G フライイングフォートレス エンジンP&W R-1820 (レベル/モノグラム用) ■R ■価格1102円
●1/48 A-26B インペーター エンジンカウリング (レベル/モノグラム用) ■R ■価格787円
●1/48 P-40E フォーホーク 排気管 (ハセガワ用) ■R ■価格420円
●1/48 B-17G フライイングフォートレス 機銃銃身 (Cal.50) (レベル/モノグラム用) ■R ■価格420円
●1/48 プリトルボーファイター 消火排気管 (タミヤ用) ■R ■価格420円
●1/48 Me262A シュールペイトー 機銃銃身 ■R ■価格315円
●1/72 He111H-6 機銃銃身 後期型 (MG151/MG301) (ハセガワ用) ■R ■価格420円
●1/72 B-25 ミッチェル エンジンP&W R-2000-13 (ハセガワ用) ■R ■価格787円
●1/72 P-51D ムスタング 排気管パート2 (タミヤ用) ■R ■価格315円
●1/72 B-17G フライイングフォートレス 機銃銃身 (Cal.50) (ハセガワ用) ■R ■価格420円
●1/72 B-26C マローダー 機銃銃身 (Cal.50) (エアマックス用) ■R ■価格420円

■ブラックボックス ○ビーバーコーポレーション

●1/32 F-14D スーパートムキャット コクピット後期型(タミヤ用) ■R ■価格985円
●1/32 F-14B トムキャット コクピット(タミヤ用) ■R ■価格681円

■ヴァーリントン ○アルキミー



●1/35 イギリス軍 歩兵 (2体) ■R ■価格2058円
●1/48 ドイツ軍 歩兵 (2体) ■R ■価格1470円
●1/35 1950年代 モダン家電セット ■R ■価格3675円
●1/35 タイガーI後期型 インテリア (ドラゴン用) ■R ■価格8190円
●1/48 吹き飛ばされたT-34 フロント部 ■R ■価格2940円
●1/48 不ぞろいな石畳 ■R ■価格2205円
●1/35 破壊したアスファルト ■R ■価格2205円
●1/35 WW2 ドイツ軍 走るアメリカ軍兵 (2体) ■R ■価格2058円
●1/35 WW2 アメリカ軍 仲間を救助する G.I. (2体) ■R ■価格2058円

■バブラ ○ビーバーコーポレーション



▲1/72 マーチンベーカー MB Mk.IA イジェクションシート (2個入、エアフィックスTSR2用) ■R ■価格577円



▲1/72 OH-58D カイオウ コクピット (イタレリ用) ■R ■価格2205円
▲1/72 ランカスター 空気吸入口 (4セット、ハセガワ用) ■R ■価格892円

■シリウス ○トライスタージャパン

▲シリウスブラシエイド ■T ■価格420円
■筆を傷めずにクリーニングを行い長持ちさせる。定期的な筆洗いの代わり。



■ヘッカー&ゴロス ○ホビーデポット "G"

●1/72 U-ボートクルー 封空監視 ■M ■価格2310円
●1/72 U-ボートクルー 封空監視 ■M ■価格2415円



■GSI クレオス ○GSI クレオス



▲Mr.ブラシ ■T ■価格578/530円

▼Mr.細針2種(ビッグサイズ)
■T ■価格297円



▲Mr.リアコンプレッサーL5トリガー
エアブラシセット ■T ■価格5万5660円

▼Mr.MIX ■T ■価格336円



▲Mr.ネコの手を追加 ネコの手棒
■T ■価格630円

▼Mr.スボイト ■T ■価格168円

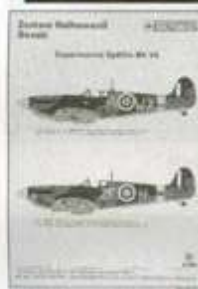


▲Mr.美透明塗料 ■T ■価格399円

▶Mr.マスキングゾル改
■T ■価格420円



■テクモド ○ホビーデポット "G"



●1/24 スピット Mk.Vb ■Dc ■価格1680円
●1/32 ホッカータイプブーン Mk.Ib ■Dc
■価格1680円
●1/72 ゴード G.IV ■Dc ■価格1050円



■スーパースケール ○ビーバーコーポレーション



●1/32 F/A-18A プラス ホーネット VMFA-134 (アカデミー用) ■Dc ■価格1260円
●1/32 F-16C ファイティングファルコン 115th FW 50th Anniversary (ハセガワ用) ■Dc ■価格1260円
●1/48 F-15A/B イーグル 102nd FW & 142nd FW (ハセガワ用) ■Dc ■価格1260円
●1/48 F/A-18B/C ホーネット VMFA-212 & VMFA-321 (ハセガワ用) ■Dc ■価格1260円
●1/48 F/A-18B/C ホーネット VFA-37 & VFA-125 (ハセガワ用) ■Dc ■価格1260円
●1/48 F-15C/D イーグル 40th FTS 40th TW & 66th Agres Sq 57th Wing (ハセガワ用) ■Dc ■価格1260円
●1/48 P-47C/D サンダーボルト レザーバック 61st & 62nd FS 56th FG (タミヤ/ハセガワ用) ■Dc ■価格1260円
●1/48 P-51D/K ムスタング 352nd FS 354th FG & 87th FS 78th FG (タミヤ用) ■Dc ■価格1260円
●1/48 P-51D ムスタング 362nd FS 357th FG & 352nd FS 353rd FG (タミヤ用) ■Dc ■価格1260円
●1/48 P-47D サンダーボルト レザーバック/ハブルトップ 19th FS 31st FG & 366th FS 368th FG (タミヤ用) ■Dc ■価格1260円
●1/72 S-38 ジャイキング VS-29 & VS-36 (ハセガワ用) ■Dc ■価格1260円
●1/72 F-16C ファイティングファルコン 149th FW Cdr. & 144th FW Cdr. (ハセガワ用) ■Dc ■価格1260円
●1/72 F6F-5P SN ヘルキャット VF-84, VF-46 & VF-91 (ハセガワ/アカデミー用) ■Dc ■価格1260円
●1/72 F6F-5 ヘルキャット エース VF-12, VF-29 & Cdr. Air Group 15 (ハセガワ/アカデミー用) ■Dc ■価格1260円

■レビバプリケーションズ ○ビーバーコーポレーション

●WWII 日本軍用機カラーガイド Vol.1 (D付)
■書籍 ■価格3570円



■モデル エアプレーン インターナショナル ○ビーバーコーポレーション

●モデル ミリタリー インターナショナル
■雑誌 ■価格各945円



■トゥーボップ ○ビーバーコーポレーション

●1/48 サープ AJ and JA-37 ビグン (エアフィックス用) ■Dc ■価格1417円
●1/48 F/A-18F ロッキン リンズ パート6 (ハセガワ用) ■Dc ■価格1417円
●1/48 JAS-39A/B/C/D リッペン グリペンズ (イタレリ用) ■Dc ■価格1417円
●1/48 F/A-18C/B SH-1 ホット シャープシューターズ (ハセガワ用) ■Dc ■価格1417円
●1/72 F-14D VF-2 DBF バウンティ ハンターズ (ハセガワ用) ■Dc ■価格1417円
●1/72 F-14B/D レトロ トムキャット パート1 (ハセガワ用) ■Dc ■価格1417円
●1/72 F-14B/D レトロ トムキャット パート2 (ハセガワ用) ■Dc ■価格1417円
●1/72 JAS-39A/B/C/D リッペン グリペンズ (イタレリ/レールエアフィックス用) ■Dc ■価格1417円



■ライフカラー ○取り扱い未定

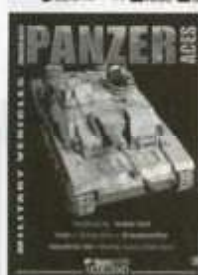
※イタリアからの直送サンプル

●ドイツWWII戦車セット ■塗料 ■価格未定
●NATO M.E.R.D.C.迷彩色セット ■塗料 ■価格未定
●イタリア製のアクリル塗料。WWIIドイツ迷彩色セットとNATO迷彩色セット。各6色入り。
●デンマークアクティブサーフェイスエージェンツセット1 ■塗料 ■価格未定
●デンマークアクティブサーフェイスエージェンツセット2 ■塗料 ■価格未定
●ウェザリング用のアクリル塗料。セット1はサンド、アースなどの陸上車両用。セット2はオイル、スモークなどの航空機用。各6色入り。



■アクションプレス ○ミニチュアパーク

●ユーロフィギュラス ■雑誌 ■価格1575円
●戦車エース ■雑誌 ■価格2100円



■フォーメーションモデルズ ○ミニチュアパーク

●1/35 シャーマンファイアファイ 初期型ロウパissル砲塔
■R ■価格5040円
●1/35 HVSS シャーマン (M4A3E8 イージーエイト) 用
フェンダーセット ■R ■価格3045円



■ホーネット ○ミニチュアパーク

●1/35 無帽ヘッド5個 白人 ■R ■価格1470円
●1/35 アメリカ兵ヘッド WWII戦車兵ヘルメット ■R ■価格1470円



■ウルフ ○ミニチュアパーク

- 1/35 パンツァーファーストを持ったドイツ兵 ■R ■価格2310円



■コンストラクション・パタリオン ○ミニチュアパーク

- 1/35 軍セット #2 (6個入) ■R ■価格1155円



■ウォーリア ○ミニチュアパーク

- 1/35 連合軍 LVT ドライバー (2体入) ■R ■価格3675円
- 1/35 ドイツ軍 高気圧機関車 (BFS2) の運転手 (2体入) WWI ■R ■価格3675円
- 1/35 ドイツ軍 ヘッドセット #65 (6個入) ■R ■価格1470円



■リンカーンカントリーライン ○ミニチュアパーク

- 1/35 負傷したアメリカ歩兵 WWII ■R ■価格1785円
- 1/35 ドイツ空軍 野戦砲隊の兵士 ■R ■価格1785円



■アンドレアミニチュアズ ○ミニチュアパーク

- 54mm トール (北欧神話の雷神) ■M ■価格4095円
- 54mm ストームレーダー ■M ■価格4830円
- 90mm 第一次世界大戦 ロシア軍歩兵 1916年 ■M ■価格1万3020円



■アレス・ミソロジック ○ミニチュアパーク

- 54mm 古代ローマ サマの戦い (没体入) ■M ■価格6615円
- 54mm 古代エジプト トトメス世 ■M ■価格3675円
- 54mm ギリシャ神話 ユリシーズ ■M ■価格3675円
- 54mm 古代エジプト 歩兵 ■M ■価格3675円
- 54mm 古代ローマ 第VII Gemina 軍団 軍団兵 ■M ■価格3675円
- 54mm 古代ペルシアの騎兵 ■M ■価格3675円
- 54mm ケルトの英雄 ウェルキンゲトリクス ■M ■価格3675円
- 54mm 古代トラキアの戦士 ■M ■価格3675円
- 54mm 古代ローマ トラキア戦士 ■M ■価格3675円
- 54mm ギリシャ神話 ヘルキュレス ■M ■価格3675円
- 54mm ギリシャ神話 ミノタウロス (ベース付) ■M ■価格4200円
- 70mm 古代スキタイの王 ■M ■価格5480円
- 70mm 古代エジプト ラムセスII世 ■M ■価格5480円
- 70mm スパルタ王 レオニダス ■M ■価格5480円
- 70mm アレキサンダー大王 ■M ■価格5480円
- 70mm ギリシャ神話 アキレス ■M ■価格5480円
- 70mm 古代ローマ マルクス・アントニウス ■R ■価格5480円

■トップガン/ユニマックス ○トップガン

- 1/72 F-14A トムキャット VF-41 ブラックエイセス ■完成品 ■価格6090円 ■リア空軍スホーイ撃墜のVF-41 ブラックエイセス機をダイキャストモデル化、ギミック多数。



■カスタムディオラミクス ○ミニチュアパーク

- 1/35 アーチ付の建物の一角 魔城 ■石こう ■価格4725円
- 1/35 熱帯の小屋 #2 ■R ■価格4620円



■ストリートオブラレド ○ミニチュアパーク

- 1/32 (54mm) 防火用の井戸 ■R ■価格2100円



■トラック・ズ (TRAKZ) ○ミニチュアパーク



- 1/35 ドイツ スタッフカー WWII ■R ■価格12495円

■プラトーン ○ミニチュアパーク

- 1/35 ドイツ パンツァーを推入した武装親衛隊 擲弾兵 1944-45年 ■R ■価格1890円
- 1/35 ドイツ オートバイ隊員 1942-45年 ■R ■価格1890円



■F.M.ベネイト ○ミニチュアパーク

- 「ドン・キホーテ」写本 ■M ■価格3990円
- 54mm イギリス 第95小銃兵連隊 小銃兵 コーネー 1809年 ■M ■価格3570円
- 54mm アメリカ歩兵 アルデンヌ 1944年 ■M ■価格3885円



■エニゲマ・ミニチュアズ ○ミニチュアパーク

- 54mm セリー ■M ■価格2310円
- 54mm Sumo Hay ■M ■価格4410円

■エルビジョドラゴン ○ミニチュアパーク

- 1/10 バスト フランス軍 近衛衛隊兵 1860年 バスト ■R ■価格7875円
- 54mm カルタゴ軍の兵士 パンニバル ■M ■価格3255円
- 1/43 エジプトの少女I ■M ■価格1050円
- 1/43 エジプトの少女II ■M ■価格1050円

問い合わせ先 (順不同)

ハセガワ	054-628-8241
タミヤ	(静岡) 054-283-0003
	(東京) 03-3899-3765
インターアライド	045-549-3031
アオシマ	054-263-2461
GSIクレオス	03-5211-1844
フジミ	054-286-0346
東京マルイ	03-3605-3312
シーラインシリーズ	sealine@mx6.ttcn.ne.jp
ブラッツ	0543-45-2047
エフトイズ・コンフェクト	06-6626-6060
ファインモールド	0532-23-6810
重友社	03-3803-4747
マイクロエース	048-444-2945
ビートルード	044-865-2460
ビーバーコーポレーション	03-3655-5300
タカラトミー	03-5650-1031
シェプロン	03-5351-0191
ホビーデポット "G"	022-791-4020
アルキミー	03-3310-5174
トライスタージャパン	03-3233-0045
ミニチュアパーク	03-5807-8952
ガイアノーツ	048-263-2030
トップガン	03-5289-9611

カスタムモデルズ 通信販売専門店 駿/輸入キット・パーツ・デカール

★Colours of German Luftwaffe 1935-45 M.ウルフマン カラーデカール付の塗装研究書 ... 7,770円



★スター1/35 レジンフルキット SS-18 SCUD-A ... 21,498円



★ブロンコモデル 1/35 英軍 コメット巡航戦車 ... 4,630円
★エアロマスター 1/48 メーカー絶版 #445F-BJ Pt.3, #450 F-8J Pt.4, #488FA-18D/バイキング, #500F-4B/S VMFA115/321CAG, #526 F-14A/D VF-31/14CAG, #531F-14A VF-21/154CAG, #532 F-14A/D VF-32/143CAG, #588F-14A VF-41/84CAG/ハイビジ
★ニューコネクション 1/35 E-100 突撃砲 改造セット ... 17,850円
★オードナンス 1/35 エッチング 74式・61式・90式、61式エンジンリール
★Panzer Tract 1/35 パンサー II & F型、7.5cm & 8.8cm 自走砲シリーズ
★Nuts & Bolts ナースホルン、Famo、マードラー 76.2mm、35(t)、他
★インタス 1/35 WW I イギリス軍 マークV 戦車 ... 4,536円
★ズベスタ 1/144 可変翼戦闘機 Tu-160 ブラックジャック ... 2,457円
★エコマスターレジンフルキット 1/72 H.S.パッカニアス Mk.2A ... 13,440円

★Gレジェンド 1/12 デカール NSR250 ... 2,100円



★Gレジェンド YZR500 チェコット '79/コロワーズ '79/M.フォンタン '83
★ルネサンス 1/12 NSR500 2001 ナストロアズーロ 改造 予約受付中
★ハセガワ 1/24 カルソニックニッサンR89C、マツダ767B、ジャガーXJR-8LM
★M&Sホビー 1/24 ホルシエ962 IMSA '89 'Miller' 改造 ... 12,600円
★REJI 1/24 ヒュンダイ アクセント WRC '00モンテ カストロール ... 17,640円
★スケールプロダクション アルビニスA110 Gr.4 ライト トランス ... 13,800円
遠隔リスト切手800円・ニュースレター年費1,000円(年6回予定)
ご注文前にTEL・FAX・ハガキ等で在庫確認をお願いします。
郵便振替・現金書留・代引等でお申し込み下さい。
★この広告価格は全て税別です

Kawasaki

Army Type 3 Fighter

川崎 陸軍三式戦闘機

飛燕

格闘性能重視の準と平行して開発が進められた、一撃離脱を前提とする重戦闘機キ-44。そして同コンセプトの液冷発動機搭載の試作機キ-60。前者は鍾馗として量産され、いわばサブのサブ、キ-60はコンペに敗れた。しかし陸軍と川崎はこの機を見捨てずに進化させ、万能戦闘機キ-61 飛燕が誕生する。

■ハセガワ 1/48 川崎キ-61 三式戦闘機 飛燕 "飛行第68戦隊"
■RLai Systems 1/144 B-24J リベレーター 第43爆撃飛行隊
■製作：松本州平
■協力：RLai Systems
■Hasegawa 1/48 Kawasaki Ki-61-I Koh Hien(Tony) "68th Flight Regiment"
■RLai Systems 1/144 B-24J Liberator 43rd BG
■Modeled by SHUHEI MATSUMOTO

Japanese Army Type 3 Fighter Kawasaki Ki-61-I HIEN

ワレ、コンソリゲヲ撃墜セリ

陸軍 三式戦闘機 川崎キ-61 飛燕 1型丙 vs コンソリデーテッド B-24 リベレーター

言わずと知れた WWII 日本軍唯一の制式液冷戦闘機 飛燕。日本の至宝、川崎重工、土井武夫技師の手になる流麗なこの機体と、68戦隊、竹内正吾大尉の B-24 撃墜をモチーフに、またまた州平ちゃんがシズります。天翔ける燕が叩き落とすのは話題の塗装済みキット、ビッグバードのコンソリデーテッド B-24 リベレーター。これがまたよう出来とるんや。





▲まずはいつも通り、モデ吉推奨の仮組み。
でも、ハセガワの飛燕は仮組み不要だった
りもするんですが(笑)。そんなわけで、こ
こではどんな姿勢に仕上げるか、という構
想、って言うか妄想(笑)を練る。
▼あつというまにここまで出来ちゃう。日
の丸、識別帯などを塗ってマスク。で、翼
を吹き付けます。



▲飛行機キットはパイロット日照り。シズ
ル・ジオラマにはパイロットは必須。パイ
ロットのためにキットを買い続けるのもな
い。そしておっちゃんはどうとう、パーツ
請求でパイロットを大量入手。今回はタミ
ヤ100式偵察機のパイロットです。タミヤの
担当者さん、同じランナーばかりパーツ請
求するのは、州平のおっちゃんです(笑)。
▼パイロットを乗せるとは言え、コックピ
ットも手は抜かない。でも、適当に手を抜
く。どっちなんだ!!





▲竹内正吾大尉の愛機の型式、塗装などは写真が残っておらず詳細は不明。一説には58機の赤鷲キルマークが記入されていたという。ドラゴンモデル新製品の1/72飛機にはその機体を再現したデカールが入っている。



請勿轉載至台灣大陸
及用於商業用途



■ドラゴンモデル 1/48
川崎三式戦闘機キ-61-I 飛燕I型
■製作：松本州平／封蝋：今井邦孝
■Dragon Model 1/48 Kawasaki Ki-61 I Hien (Tony)
■Modeled by SHUHEI MATSUMOTO

I J A Type 3 Fighter Ki-61-I Hien (Tony)

ン10年ぶりの外国製 飛燕キット

三式戦闘機 川崎キ-61 飛燕I型

プラモデルの飛行機は、各国メーカーが自分の国の機体びいき、っていう傾向なのは周知の通り。人気機種も各国まちまち。意外な機体が意外な国で人気機種だったりもするし、日本では人気爆発の零戦も、海外ではそうでもなかったりとかね。そんな中で、WWII日本制式戦闘機の中では唯一の液冷エンジン搭載機であり、日本人的には異色の戦闘機である飛燕は、海外モデラーの作品を多く見かけます。ってことは、飛燕は海外で人気なのか!?

今井邦孝（以下、今）：飛行機の場合、モデラーやメーカーって、概して自国機びいき。

松本州平（以下、州）：う〜む、やもしれん。なるほど日本機のキットは、国産キットが大半や。今：だいたいどの国も、誇りにする機体があって、それは真っ先にキット化される。

州：海外モデラーの作品見ても、母国機が多いね。外国人モデラーが日本機のキット作ってるのを見ると、なぜか嬉しくなる。

今：そうそう。あれはなんでだろうね（笑）。

州：まして外国メーカーが日本機のキットを出

してくれるのは、なおさらやね。

今：気にしてくれてありがとう、って感じ。自分のことでもないのに（笑）。

州：わはは、そうそう。イチローはすごい、ってアメリカ人が言うのと、なぜかうれしいで（笑）。今：これがナショナリズムってやつ!?

州：なにを大袈裟な（笑）。

今：ところで飛燕だけど、外国人モデラーが作る日本機の中ではダントツに多いね。

州：そうそう。機体の背景とか戦績なんかには深く入らんで見比べると単純にカッコエエ、っち

ゅうことかいの。

今：それもあるし、ヨーロッパ人から見るとダイムラー・エンジン装備ってところが、親近感が湧くのかもね。

州：外国のメジャーメーカーから日本機が出ることは少ないけど、ドラゴンモデルが飛燕を出したなんて、ちょっぴり意外。

今：以前に出たものの再販らしいけど。日本のモデラーは外国製日本機キットには辛口の評価をしがちだけど……。

州：身近だからイメージがはっきりしてる分、いろいろと気になるんやろね。

今：でも、外国人が見ると日本機ってこう見えるんだろう、とかが面白いよね。

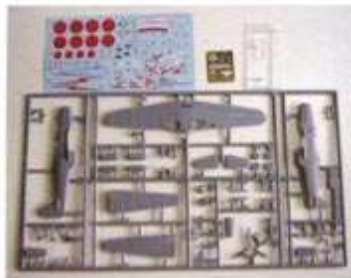
州：面白すぎるのもあるけど（笑）。今：で、ドラゴンモデルの飛燕はどう?

州：まずは、キット化してくれてうれしい（笑）。シャープで繊細なシルエットやね。

今：もしかしたらドラゴンモデル唯一の日本機? パネルラインのモールドが深くてイイ感じ。

州：マッチボックスのトラウマがあって、太い凹モールドを嫌う向きも多いけど。





▲キットには計器パネル、ラジエーター・スリットなどのエッチングパーツが付属。
▼組み立ては、各部若干のパテが必要。また、そのまま組み立てると主翼上半角が付かないので修整が必要。



今：繊細なモールドも太いモールドも一長一短。塗装のやり方次第なんだけだね。

州：そうなんや。すべてはモールドを活かす塗装、作風。どんなモールドでもとりあえず削っちゃって、彫り直すって人もおるで。

今：それがその人の作風なんだろうね。

州：そのドラゴンモデル1/72飛燕やけど、(前ページの)1/48ハセガワのキットと平行して作ると、ニュアンスの違いがおもしろいで。

今：ハセガワ1/48の飛燕はカンベキだからね。1/72でもファインモールドがバリエーション展開してるし。

州：もしかして飛燕ってブーム？(笑)

今：やっぱり。ハセガワさん、次は1/32(笑)。

州：小林戦隊長はじめ、パイロットも猛者揃い。

今：塗装も派手な機体が多い。

ってやっぱり、モデラーは飛燕が好きにならざるを得ない。

州：そんな通りや(笑)。カラフルな機体から無塗装まで、全部ある。作り甲斐があるで。

今：今回はシンプルなマーキングを選んだね。

州：ハセガワ1/48の迷彩塗装と平行したけんね。ちなみにわし、この防空隊識別の白帯に描かれた日の丸、っていう塗装が好き。

今：まるっきり国旗だもんね。もしかしておっちゃん、ナショナルリスト？

州：なんでやねん、わはは。





Kawasaki Ki-61-I Kai Hien "Tony"

クールビューティー飛燕

フルゼン製製の二式単戦機に続き今月は日本陸軍3式戦「飛燕」がお題。
1/32では唯一無二の絶版キット、グンゼレベル製お宝キットをK2氏が
料理。優美なラインが魅力の液冷戦闘機、めざすはクールビューティー!?



■グンゼレベル 1/32 川崎3式戦闘機「飛燕」(型改)

■製作・文: K2

■Revell 1/32 Kawasaki Ki-61-I Kai Hien "Tony"

■Modeled & Text by K2



グンゼレベル1/32スケール飛燕は、紫電、雷電とともに「グンゼレベル日本機3羽ガラス」の1機ですが、ご存知の通り絶版となっているため、当然コレクターズアイテムとなっており、中古市場でも「エッ!」と驚くほどのプライスで見かけることがあります。筆者も以前はグンゼレベルの同シリーズを集めたことがあり、高価なレアキットを買い漁っていましたが、いつの間にか熱も冷めすべて放出したので、今回は知人のキットを拝借しての製作です。

数年前に作ったことがあり、繊細なモールドとフォルムに感動したので覚えていますが、パーツの精度が今ひとつで完成させるのに根気が必要です。また省略されている部分や間違っているところも多いので「一昔前のキットを現代風にアレンジ」を今回のレシピにしたいと思います。

■before making

いつも通り、Open the boxでパーツを眺めながら具体的なレシピを考えます。液冷戦闘機独特の優美なラインを崩したくないので、とりあえず今回は十八番の

カットモデルはパスします。「どうしょかな〜」と数日間悩みましたが、良い考えがじゅんじゅん浮かんできません。

仕方がないのでボーッとテレビなんぞを見ていたら、突然ヒントが現れました。あるニュース番組でインタビューを受けていたスケートの荒川静香選手です。「えっ、なんで?」と思っていらっしやるでしょうが、荒川選手といえどクールビューティー。この言葉、飛燕にピッタリやんか〜! ということで、今回は飛燕をクールビューティーに製作! というわけのわからないレシピで攻めてみたいと思います。

■the first week

まず最初は、モールドを深くする作業から始めます。前述したように全面に繊細な凹モールドとリベットがビッシリと打たれているのですが、大部分が浅過ぎるので塗装時に埋まってしまうのは明白です。Pカッターとカルコを使いチマチマと彫り直します。

模型製作上一番地味な作業であり、途中で嫌になるのですが、今回は筆者が所属するサークルの展示会があり、会場で机を並べてサークル仲間と一緒に作業を進めたので、バカ話をしながらの楽しい楽しい模型製作になりました。

来場された方にもよく声をかけていただき、「気の遠くなるような作業ですね」「そのままじゃ駄目なんですか?」「懐かしいですね」「もっと、もったいない!」などさまざまなご意見を頂戴しました。戦時中に墜落した飛燕のハ40エンジンが大阪府交野市の市民会館に展示してあ

るという貴重な情報を下さった方もいて、やはり飛燕は人気がある機体なんだな〜と実感しました。

さて作業の方は、去年と全く同じでサークル仲間との麻雀や夜遊び三昧で全然進みませんでした。

■the second week

ちょっと焦りつつ先週の続きでモールドの彫り直しです。展示会中のダラダラ作業に慣れてしまっただけで10日間! ギヤを入れ替えて作業を進めます。

エンジンパネルはグンゼレベルの定番で別パーツになっており、内蔵のエンジンを見ることができのですが、パネルラインが実機とは異なり、パーツの精度も悪いので、閉状態で埋めてしまいました。機首の機関砲口は位置が? なのとモールドも貧弱なので、金属パイプを使用して新造しました。プロペラ本体もダメダメなので、キットパーツをベースに整形し直しました。

その他クールビューティーにするために以下の作業を施しています。

- (1) エンジン排気管の開口と整形。
- (2) 胴体下部ラジエーター内部および外部の整形。
- (3) 機関砲発射ガス抜き口の開口。
- (4) 手掛、足掛の新造。
- (5) ビトー管および機関砲の金属パイプにてのコンバージョン。
- (6) 主翼および尾翼後縁部、主脚庫扉の





▲キャノピーはバキュームフォームで作直し。
▼落下タンク正面の文字も自作デカール。



▲マーキングはパソコンの自作デカール。



▲100式射撃照準機を自作。



▼脚まわりはディテールアップ。落下タンクの色はグレー。



▼搭乗員の足掛けも再現。



極薄化。

(7) 補助翼の可動状態の再現。

■ the third week

細かい作業が終わったので、胴体を組んで

いきます。チマチマ作業に飽きてきたので、コックピット内部にはあまり手を入れていません。メインコンソールだけはあまりにもモールドが？だったのでピンバイスにて開口し、計器のフィルムを裏から貼り付けています。あとはシートベルトだけを追加。

胴体を組みますが、経年変形で“焼いたシシ

ャモ”状態になってしまった胴体左右パーツを銅着十硬化剤十テープでぐるぐる巻きにして圧着します。当然、胴体と主翼の接合部にも“この世のものとは思えないすき間”が発生したので、熟考した後、胴体下部をプラ材にて押し広げて、これまた銅着十硬化剤にて押さえ込み作戦です。





▲胴体、主翼の各接合部は瞬間硬化剤にて押さえ込み作戦。



▲コックピット内部は計器盤とシートベルトをディテールアップ。



▲お馴染みの迷彩再現にはシルバー部分をマスキングゾルでマスキング。



▲マスキングを剥がしてカンシェーイ！



なんとか形になってきたので、避けていたキャンピーです。3分割のキャンピーなのですが、全て胴体側と段差が生じるので、前部と後部は先付けにてのサンディング調整。可動部はあまりにも厚みがあり過ぎるので、0.5mm厚塩ビシートにてパキユムしました。

3週目が終わる頃には、あまりにも膨大なデマデマ作業のせいで「クールビューティー」なんて言葉はすっかり消し飛んでしまいました。

■ the fourth week

さあ、最終週です。気合を入れ直して行きましょう。パデで埋まってしまったモールドを再現してサーフェイスを吹き、下地を整えて塗装に突入します。

デカールですが使えるはずもなく、オール手書きにしようと思っていましたが、時間的に余裕がなさそうなので知人に頼んでパソコンにてデカールを作ってもらいました。マーキングは飛燕といえばこの人！ 陸軍飛行第244戦隊の小林照彦戦隊長機を選びました。本誌や他誌でも作り尽くされているマーキングですが、主翼前縁の赤と落下タンク正面の“必”“勝”がクールビューティーなのでチョイスしました。

まず機首上部の黒。主翼前縁部および尾翼部分、日の丸の赤を塗装してしっかりとマスキングしておきます。次に銀、GSIクレオスのスーパーステンレスを吹きクリアーを掛けておきます。迷彩塗装は通常なら0.2mmビースコンでの低圧吹きにて処理するのですが、今回はスッカリと仕上げたかったので割がせるタイプのマスキングゾルにてマスキングし、一気に暗緑色を吹き付けました。ゾルを剥がしてエナメル塗料にてのスミ入れ。でき上がってきたデカールを貼って完成です。今回だけはウェザリングも銀チョコも全てパスです。

途中で忘れかけていましたが目標である「クールビューティー」な機体になっていますでしょうか？ うーん微妙な。





■ハセガワ 1/48
川崎キ-61 三式戦闘機 飛燕I型丁 "244戦隊"
■制作・文：前島敏彦
■Hasegawa 1/48
Kawasaki Ki-61-I Hien "244th Fighter Group"
■Modeled & Text by
TOSHIHIKO MAEJIMA

Kawasaki Ki-61-I Hien 17th Fighter Group

オトナモケイのススメ

ハセガワ 1/48 川崎キ-61 三式戦闘機 飛燕I型丁

プラモデルの醍醐味は、同じキットでありながら仕上がりが十人十色であること。どう作るか、が意図できること。そしてそれが自由に選べること。さらに、人に見せる表現手段であり得ること。また、その時々によって作り方にトレンドが生まれること。だから楽しい趣味なのです。リアリティを追求するのも、美しい仕上げを目指すのも、どちらも飛行機模型の王道、オトナモケイなのです。

■現地迷彩機を模型的きれいで仕上げてみたい

今回の作例ではウェザリングは極力避け、実機より模型としてのきれいに重点をおきました。私的好みですが、クネクネ迷彩表現に過度なウェザリングは作者の「力み」が見えてノーサンキュー。どんな世界でもプロの仕事は7~8割の力でこなしている感じが、余裕が見られなんとスマート。力み、根性、努力、1人ヨガリなどという泥くさい

汗は見せません。それを念頭に今回は制作に入りました。

■大人のモデラーなら気にしません、主翼の上反角不足

実機をこの1/48サイズに見える距離から見て、指摘されている上半角度(5°30')なんて見えるワケがありません。「間違い探しだけモデラー」の言に左右され、キット製作を躊躇するのはナンセンス。どんな世界でも重箱の隅を突つくヤツはいるもの。だいたい「嫌われ松子の一生」

になりますが、自分が気になれば修正すればいいんです。今回の作例ではせっかくの手間ですから上反角は大盛り大サービスしました(笑)。他誌でも何回か取り上げられていますが、以下を参考にしてください。

主翼の下面パーツの中央部分に胴体幅の筋影があるので、そこにカッターの刃を入れ、上に曲げます。すると曲げたぶんだけ上翼パーツの胴体接着面がフィレットと干渉しますので、フィレット側が上翼の胴体接着面側のどちらかを軽くサンディングして調整します。サンディ





ングの際はペーパーに当て木をして平滑面に注意しましょう。胴体への接着は下翼から、次に上翼パーツを翼と胴体に接着します。最後に主脚柱が正面から見て「ハの字」にならないよう注意。

■「飛燕」のディテールアップは意外とお手軽

今回の作例では脚カバーはブラバンで薄く見

せ、一部エッチングを使用。ブレーキパイプをモデラーズのプラグコード(0.45mm)で追加。胴体前方左側にある過給器の整流板をブラバンで追加。第3風防内のロールバーから見える、高圧作動油タンクのパイプ状コードを追加。主翼上面の脚出し確認スティックの取り付け。その他シートベルトをエッチングで。これらはめんどくさい作業は多く、それでいて見栄えが違ってきます。中の上クラスを目指すなら、が

んばってみるのもいいかも。

■きれいにさせるクネクネ塗装

グンゼのMr.カラーNo.8シルバーと半ツヤクリアーを1:0.8くらいの割合でベースカラーに。通常よりかなり多めのクリアーは、細い迷彩吹き周辺がグリーンに汚れることを想定。「綿棒」+「エナメルシンナー」での拭き取り時に、ベースのシルバーまで変化してしまうのを防ぐためのコーティングなのです。

No.8シルバーは乾燥後ティッシュでこすると平滑感が出てグッドです。またリユーターだと、





こする強さ加減で黒光までしてきます。

濃緑色はNo.303の「グリーンFS34102」にNo.116「RLMブラックグレー」を若干垂らして明度、彩度をDOWNさせます。中島系濃緑色や三菱系濃緑色などをピン生のまま希釈してブラシすると、彩度が高くなり過ぎて遊園地のヒコキになってしまいます。ピン生派はご注意ください。但し今回のイメージはソリッド模型的なきれいさをイメージしているので、いつもスタイルほど色味アンダーにはせず、やや彩度DOWNとしています。このような迷彩吹きつけ作業では2本のエアブラシがあるとなにかと便利。濃緑色の細吹きにトラブったら、もう一方のブラシでベース色を吹いてリカバー。時間の短縮にもなります。

複数色の迷彩表現では、ほとんど片サイドの写真資料しかありません。しかも上翼部のわかる資料などまず出会え

ません。そこで私は機種違いでも迷彩ニュアンスがちかいものの写真を集め、流用見本とします。つまりデッチアゲです。何も見ないでの想像吹きはホラ吹きになり、どうもイマイチな結果になりやすいです。

■生赤の「日の丸デカール」は卒業しませんか

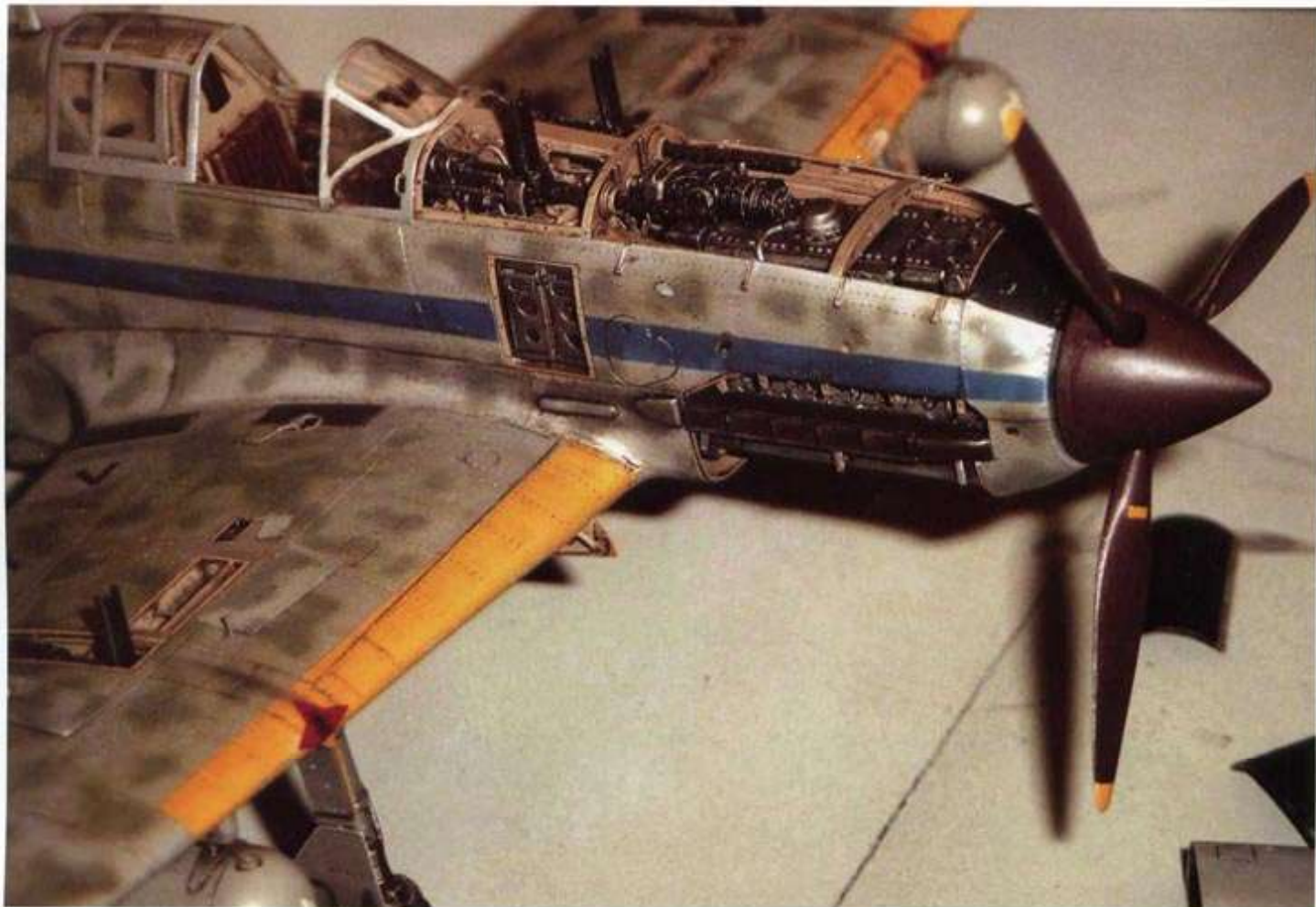
第17戦隊のマークは別売りデカール。他は全てエアブラシ。日の丸や主翼の識別帯、胴帯などはとても簡単で初心者向き。マスキングの段取りを頭の中で計算し、吹く→マスク→吹く→マスク剥がし→……。ぜひみなさんも始めてみては。微妙な退色感の赤などが表現できて、磨になります。



■参考資料

「モデルアート」No.619、652、697（モデルアート社）
「スケールアビエーション」Vol.10（大日本絵画）
「世界の傑作機No.17 陸軍三式戦闘機「飛燕」」（文林堂）
「陸軍航空隊の記録 蘭地捜査全撮影」（文林堂）

櫻井隆氏のHP「陸軍飛行244戦隊・雲布の空の勇士たち」<http://www.5b.biglobe.ne.jp/~s244/>



Japanese Army Type 3 Fighter Kawasaki Ki-61-I HIEN

チェコ・モデラーの、スーパーディテール飛燕

川崎キ-61 三式戦闘機「飛燕」I型丁 “244戦隊”

Vol.33のポーランド人モデラー、グルチウォツ氏に続いて登場のチェコ人モデラー、ズデネク・セベスタ。ブラハではちょっと名の知れた“猛者”である彼もまた日本機、特にキ-61の大ファン。春の訪れとともに、東欧でにわかに勃発したスーパーディテール合戦、作るはもちろん小林照彦戦隊長の飛燕I型丁！



- ハセガワ 1/48 川崎キ-61 三式戦闘機 飛燕I型丁 “244戦隊”
- 製作：ズデネク・セベスタ
- 文：ブルツェミスラウ・スクルスキ
- Hasegawa 1/48 Kawasaki Ki-61-I Hien “244th Fighter Group”
- Modeled by Zdenek Sebesta
- Text by Przemyslaw Skulski

■はじめに

ブラハ在住のズデネク・セベスタ氏は有名なチェコ人モデラーで、1/48 川崎キ-61 飛燕の精巧な作品を作り上げている。彼はこの作品で、内部ディテールを正確に作りこむだけでなく、魅力的な迷彩塗装で仕上げることに成功している。作品のベースはハセガワのキットである。

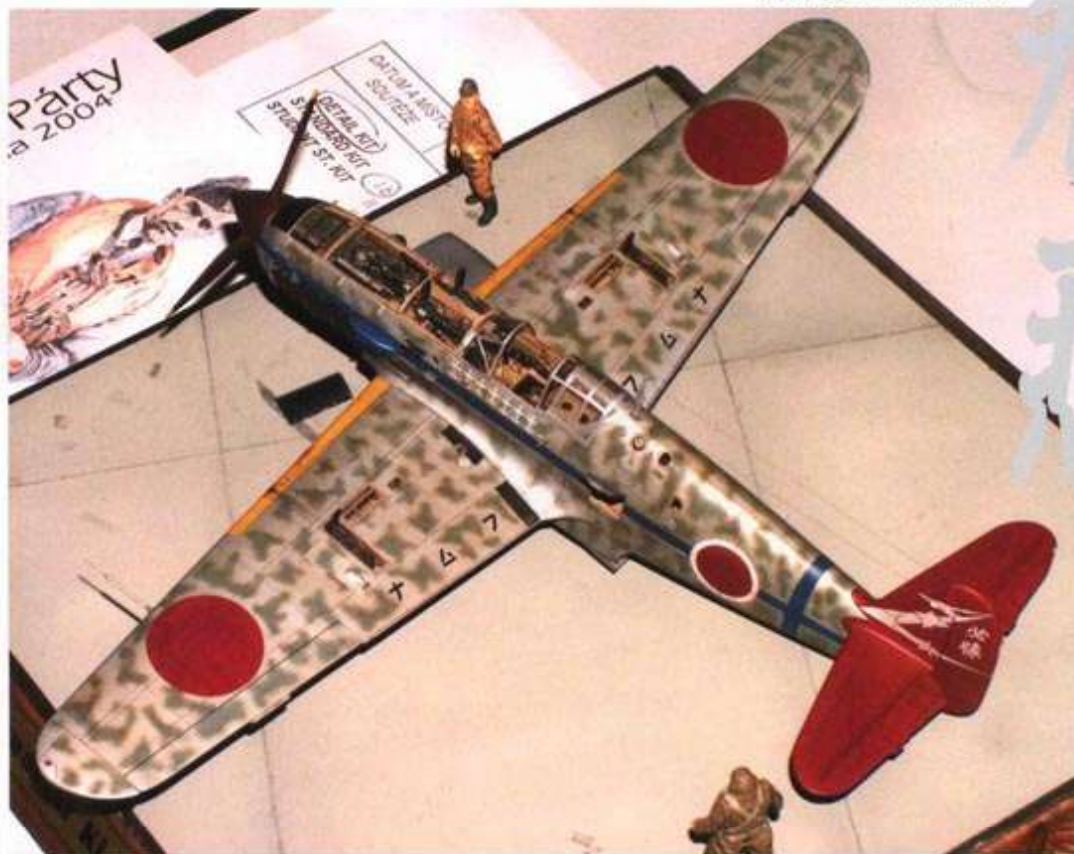
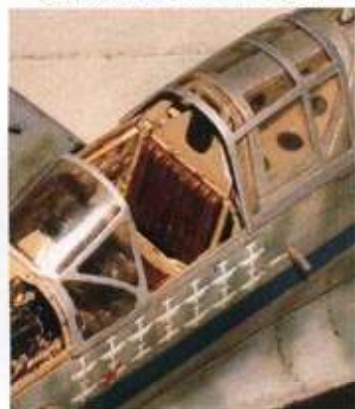


▲エンジンルームおよび胴体砲ベイのディテール





▲胴体中央部のディテール。各点検口は内部までスクラッチ。リベットにも注目。



製作

最初にセベスタ氏は“リベッター”を使ってモデルの表面にリベットを打つ作業から始めた。またリベットによる外板継ぎ目の波打ち表現のため、先の丸いホビーナイフでリベット線をなぞっている。この作業は非常に正確に行わねばならないため、多くの時間が費やされることになるが、仕上がりは素晴らしいものだ。ただしこの効果を最大限に生かすには、ナチュラル・メタルあるいはツヤ消しや半ツヤの迷彩塗装の場合は目立たなくなってしまうのだ。

キットをよりディテールアップするため、セベスタ氏はアイリスのディテールセット（品番4162）を使用した。セット内容はコクピットと胴体内機関砲、ハ-40エンジンと補機類、そのマウントとカウリング、そして翼内機関砲ベイとなっている。さらに彼は、コクピット細部、オイルクーラーのグリル、さまざまな外部ディテール、精密なフラップを再現するため、エデュアルドのエッチングパーツ（品番48148および48374）も用意した。

製作においては、エンジンまわりの細部ディテールを追加し、後部胴体の無線機室や点検パネルを新規にスクラッチした。主翼の弾倉もス

クラッチである。

キ-61の兵装に関して注意すべきことは、型式によって胴体と主翼の機銃がいろいろと変化しているところだ。セベスタ氏のアドバイスは「できるだけ実機写真を参照することが望ましい」とのこと。製作した機体はホ-103機関砲（ブローニング.50口径機銃を日本陸軍がコピーしたもの）を胴体および主翼に装備したものとして搭載している。実機写真をもとに、アイリスのブローニング機銃をホ-103に見えるように改造した（編注：実際には丁型の胴体にはホ-5 20mm機関砲を装備）。また主脚庫は浅過ぎるので修正した。



▲開状態にしたフラップは、エデュアルドのエッチングを組み立てたもの。
▼降着装置。ブレーキパイプを追加し、タイヤは自重による変形を表現。



▲上から見た胴体前部のディテール。エンジンはもとよりカバーの留め金までしっかりと作り込み。

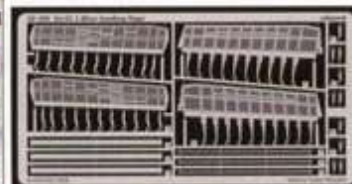
▶アイリスのレジンパーツセット（品番4162）。

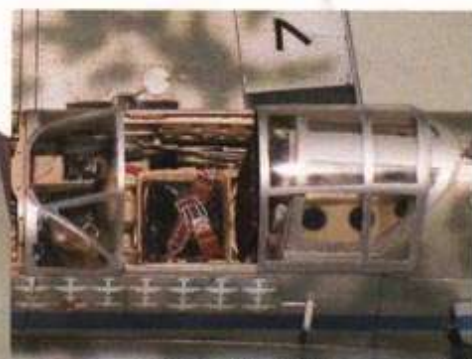


▲胴体砲周辺のディテール。ホ-103は前方蓋板を上げた状態にしている。



▲エデュアルドの精密エッチングパーツ（品番49296、品番48148は店頭在庫のみ）
▼エデュアルドのフラップエッチングパーツ（品番48496、品番48374は店頭在庫のみ）





▲アイリスのレジンパーツとエデュアルドのエッチングでディテールアップしたコックピット。
▼主翼の兵装ベイ。ホ-103はアイリスのレジンパーツ。空の弾倉はスクラッチ。



風防はキットの風防を原型にして、バキュームフォームで作直した。

各舵は切り離してから動作位置に付け直し。フラップはエデュアルドのエッチングで作直し、開状態にしている。

■塗装とマーキング

川崎製の機体のコックピット内部色はドイツ機のRLM 79に近い色で塗装されていた。セベスタ氏はGSIクレオスのMr.カラーを調色して塗装した。

迷彩塗装だが、まずMr.カラーのシルバーを機体全体に塗装した。日本機の無塗装仕上げはツヤがなく、あまり平滑に見えないことから、セベスタ氏は表面を磨く必要はないと考えている。

マーキングは、太平洋戦争末期の日本人エース、飛行第244戦隊の小林戦隊長機を選択した。この機体は上面がダークグリーンのモットルパターンで塗装されている。

風防のマスキングはエデュアルドのエクस्प्रेस・マスクを使用した。日の丸と赤の帯もマ

スキングしてエアブラシで同じ色調で塗装し、胴体の青いストライプも同様にエアブラシで塗装した。落下タンクは灰緑色。残りのマーキングはデカールで、キットのものとエアロマスター(品番48116)を使用した。貼る時にはGSIクレオスのMr.マークソフターが非常に役に立った。

最後に、油彩によるウォッシングとチッピングのウェザリングを加えて完成だ。





■マイクロエース 1/48 川崎キ-61-I 三式戦闘機 飛燕 I 型乙
 ■製作：大野周作
 ■Microace 1/48 Kawasaki Ki-61-I Hien
 ■Modeled & Text by SHUSAKU OHNO

Kawasaki Ki-61-I Hien

リベットだらけのふる里キット

川崎キ-61 三式戦闘機 飛燕 I 型乙

前号の一式戦、二式単戦に続き、マイクロエース（旧アリイ、元はオオタキ）1/48の三式戦を、またまた一気に作ります。細部のキレはイマイチだけど、基本形はまずまずのこのキット、他社製飛燕に対するアドバンテージはその価格、高いコストパフォーマンスです。でもそれ以上に、旧トレンドのリベットだらけキットであることが、今や貴重です。時間をかけて丁寧に作れば、現行キット以上のポテンシャルを持っているかも!?とは言え、まずはデフォルトのマイクロエース飛燕を都合2日でサクッと製作。「お姉さんのスネ毛剃がし式」塗装で仕上げました。

■ふる里キット

前号に続きマイクロエース1/48です。近年のすばらしいキットが、トレンドで洗練されたトラットリアのディナーだとすれば、このシリーズは母ちゃんの具だくさんけんちん汁みたいなもので、しかもバリバリ現役、ふる里キット

なのです。

さて飛燕ですが、全面コテコテ凹リベット日本機シリーズ中期、二式単戦などと同時期の作です。プロペラや脚などの細部パーツがややしょぼりで、胴体断面が丸いなどの難もありますが、概ねイイ形です。ただ金型の傷みは進行中で、特にキャノピーは痛いです。

■ガーっと作る

とは言え、基本的にはいい感じなので、腰を据えて作り込めば、近年のキットとはひと味違う、濃厚な飛燕ができあがりそうです。でも今回はガーっと2日で作ります。

この時代のキットとしては標準的なバテの使用量が組み立ては簡単です。また、基本ブロックだけですがエンジンが付いています。見せちゃいましょう。

■ディテールに負けない塗装

濃厚なディテールなので、コテコテ塗装にします。1日目で銀塗装まで済ませ、一晩かけて定着させます。剥がし処理をする場合、銀の上にクリアを吹く方法もありますが、早く完成させたいのではしよります。

また、銀の上に通常濃緑色のボカシ吹き付けをする場合、ボケ足が鮮やかなグリーンになってしまうので茶、ブルーなどを加えて、暗く、濁った色にします。こうすると厚吹きせずに済み、剥がし処理が容易になります。

一通り吹き付けたら塗料が完全に食いついてしまう前に、楽しい剥がし＆スクラッチ＆汚しです。生乾きの状態だと楊枝などで軽く引っ掻いただけで簡単に剥がれます。またテープでの処理は、弱粘着性のマスキングテープからはじめ、様子を見ながら行います。銀まで剥がれたら、筆でリタッチします。



請勿轉載至貪婪大陸



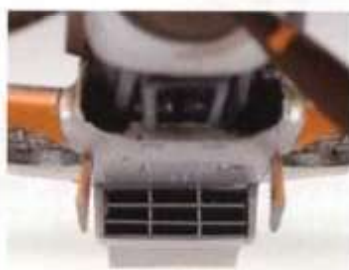
▲整備兵はエデュアルドの新作、1/48日本陸軍航空隊フィギュア。エッチングパーツなどで構成された自転車がいじ感じ。



▲キットのラジエターインテイクスリットはしょっぱいので、0.3mmブラパンで。
▼なんとキットにはエンジンが付属。ただし基本形のみで、パーツ数2。



▲ついでにアウトレットフラップも作り直しましょう。
▼基本形はイイので、ちょっと手を加えて見えるように作りたくなるわけです。



▼キャノピーは全型の傷みが劇辛で傷だらけなのですが、磨く根性も無いのでパーツを原型にし、0.3mm塩ビシートをバキュームマシンでヒートプレス、スッポン。



▲胴体パネル穴のフチは、裏から平彫刻刀で薄く削り、ペーパーで修整。
▼コックピットはまあまあだけど、シートは作り直した方がいいでしょう。



▼形はキットのまま、イジってません。あらためて見ると、なかなかいじ感じのシルエットです。作り込めば、他社の近作に負けない仕上がりになるポテンシャルを秘めたキットです。





◀ 気合いと横性で、って言うより日頃の慣れ（しょんぼり）で一気にここまで。勇気を追求する投ポルシェさんもデカールは使わないでしょう。この後Mr.カラーの8番（銀）をガーッと吹いて、1日目終了。



▲ さて、一晩かけて8番がしっかり食いついたら、ヘロヘロ迷彩の吹きつけ。後で割がため、しっかり塗らないので、ボケ足が派手なピリジャンにならないよう、濃緑色はかなり茶系に調色。

▲ このままスミ入れなどで仕上げてもいいのですが、モールドがグドすぎます。モールドを落ち着かせる処理をするか、モールドに負けないグッドい塗装をするかの選択です。

▲ クッドい塗装を選択。応急塗装と強い紫外線で、南方の機体はどれもガビガビ。これをお手軽に表現できるのがスクラッチとストリップ。文字通り、引っ掻いて割がすわけです。まずは横枝などで引っ掻いてみます。

▼ マスキングテープ、セロテープなど、塗料の乗り具合によって適宜使い分けます。なんだかサディスティックな気分になり、やりすぎると銀まで割れてしまいます。筆でリタッチしつつ、最後はエナメルで仕上げます。



ニューギニア戦線最高のエース

強大な敵、不安定な機材、劣悪な環境のニューギニアの戦場で、最高の撃墜スコアを挙げた竹内正吾大尉。任務に対する責任感など「加藤隼戦闘隊」の魂を受け継いだエースは、不屈の闘志で最期の日まで戦い続けた。

■解説：竹内規矩夫
■Text: KIKUO TAKEUCHI

竹内正吾大尉

●ニューギニア戦線最高のエース

竹内正吾（たけうち・しょうご、最終階級は大尉、戦死後少佐）は、30機以上を撃墜したといわれる陸軍戦闘機エースです。これは陸軍で13位にランクされるスコアですが、彼の主戦場となったニューギニア戦線での作戦出撃は90回、16機を撃墜し10機を不確実撃墜した戦果は、「ニューギニアは南郷で待つ」と称えられた南郷茂男中佐（15機撃墜、Vol.9参照）と並び、この戦線の最高のエースの1人でした。

正吾は「加藤隼戦闘隊」で有名な飛行第64戦隊の出身でしたが、飛行技術だけではなく任務に対する責任感などの精神的な部分も受け継ぎ、その信念に従って全力で戦いました。太平洋戦争での実質的な活動期間は2年ほどだったにもかかわらず、30機以上の撃墜数を記録したことがそれを証明しています。

●加藤隼戦闘隊での成長

竹内正吾は大正7（1918）年、京都に生まれ、昭和14（1939）年9月、航空士官学校を第52期生として卒業し、戦闘機パイロットとしての道を歩み始めます。

少尉となった正吾は日中戦争での数々の戦果に輝く飛行第64戦隊に配属されます。昭和16（1941）年4月、戦隊長に加藤建夫少佐（撃墜18機、Vol.17、18参照）が復帰すると、正吾は加藤戦隊長の片腕となって働いていた第3中隊長の安間克巳大尉（撃墜32機）とともに厳しい指導を受け、戦技を磨いていきます。

12月8日、64戦隊はマレー攻略作戦の中軸として太平洋戦争緒戦の勝利に大いに貢献、正吾もその一員として活躍します。昭和17（1942）年1月31日、シンガポール上空で10機以上のハリケーン戦闘機と遭遇した空戦では、正吾は短時間で3機を撃墜し、加藤戦隊長も驚く活躍を見せます。

その後64戦隊はビルマ方面で作戦を行います。4月になると正吾は飛行第68戦隊への転属命令が出されます。加藤戦隊長は、自分の部隊には痛手となっても、つねに優秀者を他隊に転出させる方針をとっており、転出命令の筆頭に選ばれた正吾は、すなわち部隊の中核を担う重要な士官パイロットに成長していたということになります。

●飛燕への期待と不安

飛行第68戦隊は昭和17（1942）年3月末に編成を開始した新しい部隊で、同時期に新編された78戦隊とともに第14飛行師団の戦闘機部隊でした。満州のハルビンに移動した正吾は第2中隊長に任命されます。

12月末、68戦隊は内地の明野飛行場に移動、翌昭和18（1943）年1月から整備機を九七式戦闘機から最新鋭の三式戦闘機「飛燕」へ変更します。当時はまだ制式採用前だったため「キ61」と呼ばれていた「飛燕」は、ドイツの操縦エンジンDB601Aをライセンスしたハ40エンジンを搭載し、速力と運動性のバランスがとれた高性能戦闘機として陸軍から期待されていました。

しかし部隊配備を急いだことから初期不良が多発します。特にハ40エンジン関連の故障が多く、燃料ポンプの不調、ペーパーロックなどが発生、整備員も水冷エンジンには不慣れで、部隊の訓練はなかなか進みませんでした。

陸軍は3月末に68戦隊のニューギニア戦線への投入を決定します。68戦隊ではようやく中隊での編隊飛行が可能などところまでこぎつけていましたが、戦闘訓練は1〜2回しか行えず、部隊としての練度は低いまでした。

68戦隊の下山登戦隊長は、部隊がこのまま実戦に投入されることを危険視し、移動を数ヶ月待ててくれるよう参謀本部に陳情するも、全く聞き入れられませんでした。

第2中隊長の正吾も、部隊リーダーとして現状には不満を覚えていました。参謀総長による明野での激励会では、正吾は「加藤隼戦闘隊歌」を高らかに歌い、「南方決戦キミ61での戦果を期待する」と飛燕の性能を過大評価する参謀らに対し、「なにを言っていますか！ 計算通りに作戦はできません」と反論したといわれます。

数々の不安を抱えながら、68戦隊の隊員と機材は予定通り横須賀から航空母艦「大鷹」に搭載されて出発、トラック諸島に移動後、ラバウルへ空中移動します。4月24日の移動では不調機が出たため全機が引き返しますが、1機が行方不明となってしまいます。27日に再度出発しますが、ここで部隊の進出を急いだツケがまわってきます。海上飛行訓練を行っておらず、落下タンクを装備しての長距離飛行も初めてだったことが重なり、部隊の27機のうち9機が不時着、2機が引き返し、2機が行方不明となってしまいます。正吾の第2中隊長14機は無事にラバウルに到着しましたが、移動だけで戦力が半減してしまう結果となります。

●ニューギニアでの奮戦

ラバウルに到着した68戦隊は、5月15日、九七式重爆撃機のワウ攻撃掩護を初陣に、爆撃隊や輸送船団の掩護任務に従事します。

6月下旬、68戦隊はようやく本来の任地であるニューギニア島のウエワク飛行場に進出し、すぐに戦闘任務につきます。7月中旬、同じく飛燕に機種変更した78戦隊22機もウエワクに進出し、合同して作戦を行うようになります。

7月20日、68戦隊は正吾の手で最初の戦果を挙げます。208戦隊の九九式双発軽爆撃機、24戦隊の一式戦闘機「隼」とともにベナベナ進攻作戦に向かう途中、マダン上空でB-24リベレーター爆撃機と遭遇、正吾ら68戦隊第2中隊の5機で協同撃墜を果たしたのです。これを契機にP-38E ライトニング戦闘機やP-40戦闘機などとも戦い、戦果を増やしていきます。

しかし8月中旬からは連合軍の大規模な反攻作戦が始まり、ウエワク飛行場が空襲を受け可動機は6機まで落ち込みます。9月には下山戦隊長に代わり飛行審査部で飛燕の審査担当だった木村清少佐が着任、同時に飛燕の補充機15機が到着し戦力を回復します。しかし連合軍も戦力を強化、ニューギニア方面の第5航空軍はヨーロッパの第8航空軍に次ぐ補給の優先順位を

与えられ、P-38に代わり新型機P-47Dサンダーボルト戦闘機を装備した部隊を投入してきました。

これに対し、部隊の置かれた状況は深刻でした。毎日の戦闘に加え、熱帯の不衛生な環境でマラリア、デング熱、アメーバ赤痢に冒されるパイロットや整備員が続出し、下痢をしても1日5回程度では患者扱いされないような状況でした。機材は、陸軍の整備員のほか現地に派遣された川崎からの技術団も尽力した結果、トラブルはかなり解消されましたが、クランクシャフト材質の悪さに起因する問題は解決できませんでした。

このような劣勢にあっても、正吾は決して諦めることはありませんでした。爆撃機掩護でも、自分の機体が不調となっても絶対に引き返さず、戦闘機が編隊で自分ただ1機となっても、最後まで護衛任務を完遂しました。これは64戦隊時代の加藤戦隊長が、同様に単機でも護衛任務から離れなかった姿に重なります。

10月、正吾は戦闘で負傷し15日間入院しますが、傷が完治する前に、包帯を巻いたまま58機の赤鷲を描いた飛燕を駆って戦闘に復帰、部隊の士気を高揚させます。

●エースの死

11月、機材を失った68戦隊はマニラに派遣、新たに飛燕26機を受領しふたたびニューギニアへ戻ります。

12月15日、ニューブリテン島マーカス岬に米軍が上陸すると、250kg爆弾を片翼に吊るし、艦船攻撃を行います。このときF4Fワイルドキャット戦闘機と空戦し、3機を撃墜します。

12月21日、ここまで奮戦してきた正吾に最期の時が訪れます。軽爆撃機の掩護中、P-47戦闘機の大群に攻撃され、正吾はその1機を撃墜しますが、P-47に追尾されていた木村戦隊長を援護中に被弾してしまいます。正吾は傷ついた愛機で飛行を続け、帰路途中のハンサ飛行場に不時着しますが、着陸時にエンジンが停止し滑走路脇の樹木に衝突、数時間後に絶命します。

エースの死に呼応するかのようにニューギニアの戦況も劣勢の一途をたどり、翌日には64戦隊の同僚だった第3中隊長の本山中尉も基地防空戦で戦死、翌年昭和19（1944）年1月にはブドウ嶺注射で出撃を繰り返していた木村戦隊長も戦死してしまいます。8月には68戦隊は78戦隊とともに解隊、ニューギニア方面での活動を終えました。

■参考文献

『日本陸軍航空隊のエース 1937-1945』ヘンリー・サイクス著（大日本図書）
『あゝ飛燕戦闘機 少年飛行兵ニューギニア空戦記』小山直著（光人社NF文庫）
『戦闘機「飛燕」技術開発の戦い』佐藤清著（光人社NF文庫）
『海軍戦闘機「飛燕」』渡辺洋二著（朝日ソノラマ）
『飛行第64戦隊史 栄光の戦線部隊』（飛行第64戦隊 六四会）



飛燕の原型となった幻の試作重戦を、1/48でスクラッチビルド！ Kawasaki Ki-60 Experimental Fighter

最近マイナーなアイテムもどしどしキット化されマニアの夢は満たされつつあります。とはいえまだまだキット化されていないアイテムはあるじゃありませんか。飛燕の兄貴分で性能的には優秀ながら試作に終わったキ-60重戦闘機をスクラッチビルド。

川崎キ-60重戦闘機

■川崎キ-60について

昭和15（1940）年2月、陸軍航空本部は昭和

15年度の「陸軍航空兵器開発方針」に示された“重単座戦闘機”（重戦）および“軽単座戦闘機”（軽戦）のスペックに基づき、川崎重工業に対し

重戦キ-60、軽戦キ-61の試作を命じた。川崎ではまずキ-60の設計と製作に着手し、エンジンは高速機には有利な水冷としドイツのメッサーシ



■ハセガワ 1/48 川崎キ-61 三式戦闘機 飛燕1型丁 “244戦隊” 改造スクラッチビルド
■製作・文：竹内規矩夫
■Based on Model Hasegawa 1/48 Kawasaki Ki-61-I Hien “244th Fighter Group”
■Modeled & Text: KIKUO TAKEUCHI

ユミットBf109Eに搭載されていたDB601Aを国産化したハ-40を採用、武装は20mm砲および12.7mm砲をそれぞれ2門装備する高速・重武装の戦闘機を狙った。昭和16（1941）年3月に試作1号機が完成、合計3機を製作。エンジンはハ-40が間に合わずDB601Aを装備したが、最大速度560km/hとほぼ計画値を達成。7月に行われたBf109E-7と中島キ-44重戦闘機（のちの二式重戦闘機）との模擬空戦では両機とほぼ互角の性能を発揮し操縦性も良好だったが、キ-44に対して速度がやや遅く、格闘能力も空戦フラップがない点で劣ったため、航空本部は総合的にキ-44

し形状を修正。プロペラもハミルトンではなくVDMのようなので、ハセガワのBf109E-4/7からパーツ取り。ちなみに2号機、3号機は飛燕と同じスピナーとプロペラです。

胴体後部は胴体と尾翼の結合部あたりで切断し、胴体側を3.8mmカット。中央にあるスジ彫りを基準に胴体と尾翼を再接着し、タミヤのエポキシ造形パテ（速硬化タイプ）で段差を整形します。尾輪は格納式に修正。

胴体高さはキ-60の方が120～70mm高い（資料によって記述が違ってます）ので、とりあえず1.0mm厚プラバンで1.5mmかさ上げします。



が優位と判定。キ-60は不採用となった。

しかしキ-60をベースとし半年遅れで設計が始まったキ-61は技術的に洗練された機体となり、最大速度590km/hと予想外の高性能を発揮。昭和18（1943）年に三式戦闘機「飛燕」として制式採用された。

■事前調査

1/48でキ-60を作るにあたっては、もちろんキットは出てない（と思う）のでスクラッチビルドするしかないわけですが、やっぱりゼロからフルスクラッチで作るのはさすがにキビしい。なにかベースキットを探して、それを改造するほうがラクなことは確か。そもそも飛燕がキ-60をベースにした機体なので、飛燕のキットを改造すれば簡単にできるんじゃないか？と思いつき、資料と手元にあったハセガワ1/48川崎キ-61三式戦闘機 飛燕1型丁のパーツを見比べていろいろ調査してみたところ、機首の形やパネルラインはかなり似ていて、これならセミスクラッチ程度で十分いけそう！ ということで、ベースキットをできるだけ生かす形ですることにしました。

■製作

まずは胴体から。まず排気管の直後から主翼

前縁までを4mmカット。これで飛燕1型甲～丙の機首になります。

キ-60 1号機と飛燕の機首の長さはスピナー長以外は同じと思われます。1号機のスピナーは丸く短いもので、キットの先端を1.9mm短縮

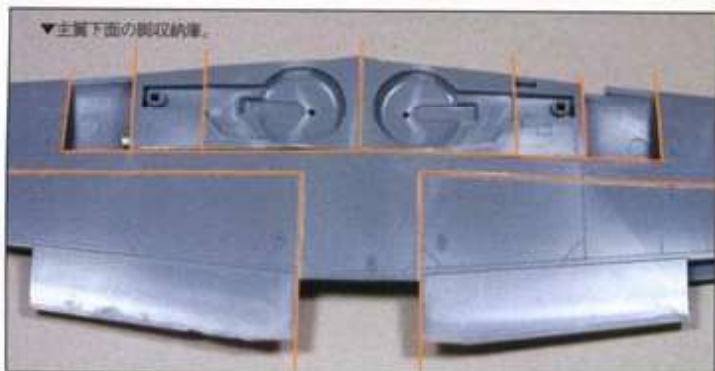
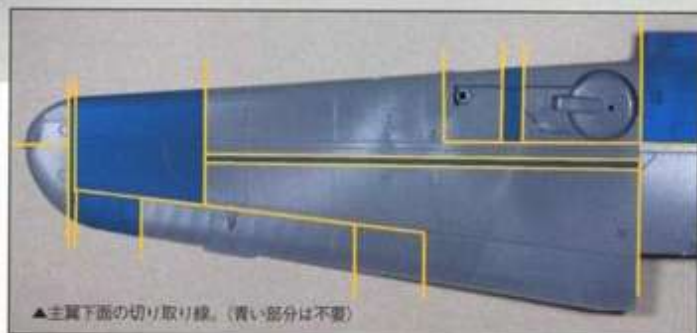
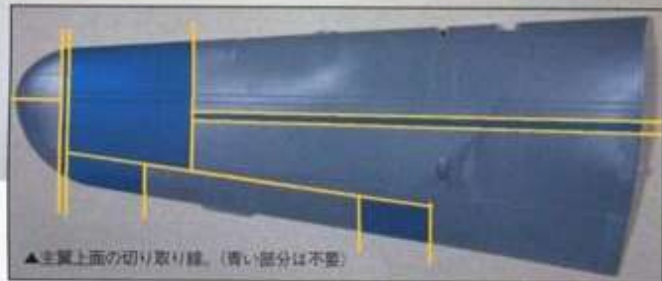
なお大型の点検口のスジ彫りを生かしたかったので、位置合わせのためコクピット後部を詰め伸ばしています。

コクピットはキットのまま。キ-60や飛燕の試作機の場合、計器盤前方に窓があるので、キャノピー前端から6mm前方をカットし、機関砲マウント部など内部をそれらしく作っておきます。内部塗装は、昭和18年前期までの標準的な塗色といわれる青竹色としてみました。機体内部のラジエーターパーツは中央部で3mm高さを詰め、エアアウトレットのパーツもこれに合わせて取り付け。

胴体左右を接着したら、機首上部カウリングパーツの後部を4mm切って合わせ、すき間をエポキシパテで修正。胴体下部の不連続なラインもパテでスムーズにしておきます。

長い後部キャノピーの再現のため、胴体後上部を切り取り、0.3mmプラバンでふさぎます。切り取った部分はキットのキャノピーに接着。前後を分割してヒートプレス原型に使用します。上から強い圧力をかけるので、変形防止に内側に木工用エポキシパテを詰めておきます。土台は高さを稼ぐため、GSIクレオスのM4型取







▲とりあえず仮組み。なんだか主翼のコードが長すぎるなー。1.5mm 詰めよう。



▲細部まではば完成した右主翼上面。フィレットはエポキシバテで合わせる。



▲機首右側。ラッチは細切りプラバンを貼り付け。



▲機首左側。吸気口はキットパーツを修正して使用。



▲尾翼部。サイズは一回り小さいが形状は飛燕を踏襲。



▲左主翼。翼端は飛燕パーツを流用して丸くしてみた。



▲機首下部のオイルクーラーは雷電のパーツ。



▲下面のラジエーター部。前部は0.3mm プラバンで延長、後部はやや内側に折り曲げ。



▲修整中の主翼下面。主翼格納庫は形状を変更。



▶主脚を2.5mm短縮。右が短縮前、左が短縮後。



▲プロペラはBH109Eのものを短縮して使用。
▼キットパーツを原型にしたヒートプレス用の型。



▲塗装が終わった状態。



▼コクピット上面。前後は0.3mm プラバンなどでそれらしく工作。▼下面。翼カバー内部は青竹色で塗装。



Japan Air Self Defence Force

富士T-1B "飛行開発実験団 50 周年記念"



今回の航空自衛隊機は、富士T-1B ジェット練習機。戦前の名門メーカー、中島飛行機の流れをくむ富士重工が戦後初の国産ジェット機として開発。1958年に初飛行、以後40数年にわたって航空自衛隊で活動しましたが、今年ついに引退。おなじみ紅白のノーマル塗装機と、飛行開発実験団50周年メモリアル塗装機のダブルで製作！

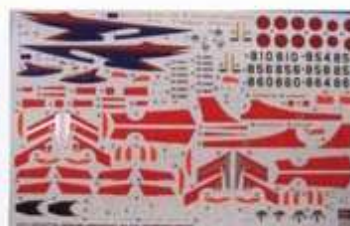


- ハセガワ 1/72 富士T-1B
"飛行開発実験団50周年記念" (2機セット)
- 製作・文：松永富夫
- Hasegawa 1/72 Fuji T-1B "ADTW 50th Anniversary"
- Modelled & Text by TOMIO MATSUNAGA

今月の航空自衛隊機はT-1練習機。まず実機ですが、航空自衛隊のパイロット候補生がT-3プロペラ練習機の課程を終了し、次に搭乗するのがこのT-1です。鯉のぼりみたいな形状をしています。飛行安定性が良く、ジェット機訓練には最適な機体です。戦後初の国内開発機として生産され、イギリス製プリストル・オルフェウス Mk.805エンジンを搭載したタイプがT-1A、国産のIHI-J3エンジンを搭載したタイプがT-1Bで、日本初の純国産ジェット機第1号です。月日が

たつのは早いもので、今年3月9日、浜松基地においてT-1Bの整備完了式典が行われました。半世紀近く活躍したT-1Bもついに引退です。

キットですが、こちらも古いハセガワの1/72キットです。プラモデル全盛期の古き良き時代の作品で、全面凸モー



ルドですがアウトライン形状は良く、このへんは「さすがハセガワ」ですね。

今回製作したのは「飛行開発実験団50周年記念」2機セット、カルトグラフィック入りです。ランナー枠は1機あたり透明ランナーを含めてたったの4枚。1/72だし古いキットだし、細かく凝ったパーツなどありません。ここは気合を入れてガンガン作っていきます。

■製作は簡単！

簡素なコクピットは割り箸に両面テープを貼り、パーツをひっつけてエアブラシでシュバッシュバ吹きつけ。計器盤にデカールを貼って、あっという間にコクピット完成。

機首に釣り用オモリを入れて機体を接着。流し込み系で跡を気にせずぱっちり接着します。合いもいので楽勝です。





主翼は接着してからしばらくは洗濯バサミで固定。乾燥するまでの間、尾翼や脚などの1パーツ物のパーティングラインをサクサク削って処理します。キャノピーはマスキング。エアブレイキは穴を開けて各パーツの準備を整えておきます。

接着面が乾燥したところで、思い切って表面の凸ラインを全てペーパーで削り落としました。ブラ質がいいので320番ペーパーくらいで削り、800番ペーパーで整え、1000番のホワイトサー



んかは焼鉄色をベースにクリアオレンジとスモークを少しだけ吹いてアクセントをつけます。

さて今回はカルトグラフのデカ

フェイスを吹けば、一部の凹ラインを残してツルツルになります。

■塗装とデカール

表面の傷をチェックして、問題がなければホワイトを2回、エアブラシで吹きます。エンジンノズルな

ルを最大限使用したかったので、機体塗装はホワイトのみ、あとはデカールをべたべたと貼っていきました。熱湯につけるとわずか3秒で台紙からはずれますから、25秒くらいで湯から上げ、クレオスのマークセッターを点付けた位置に貼り付けます。大きなデカールは台紙からずらしながら、小さなデカールは先端が非常に





鋭利なドイツ製ピンセットで台紙から取って貼り付けます。

機体の凸凹や曲線などはデカールがうまく回りませんから、マークソフターをデカールの上から塗ってしばらく放置、ある程度軟化してなじんだら濡れた綿棒で押し付けて形にはめます。

デカールを貼り終わったら、すかさずGSIクレオスのドライブースへ。塗装時もそうですが、乾燥は皆ここに放りこみます。本当に助かります。クレオスさんありがとう！

なにかと多い乾燥中はベースを製作。木台に塗料を馴染ませニス塗り、プラバンに草をまぶして、ハイ、駐機場の出来上がり。ベースの塗装は特にマスキングするわけでもなく、エアブラシを使ってフリーハンドで吹いていきます。

エナメルのツヤ消しブラックを全体にウォッシングして、適度に汚せば完成です。

さて、デカールをドライブースで丸1日充分乾燥させたら、今度はクリアー吹きです。ここはちまちまエアブラシするよりも、缶スプレーでいっきに吹きつけちゃいます。吹いてはドライブース、吹いてはドライブースを5回繰り返し、全体を800~2000番ペーパーでデカールの段差をなくすまで磨き、最後にタミヤ、GSIクレオス、ハセガワのコンパウンドでツヤツヤに仕上げます。カルトグラフのデカールはもともと薄手なので研磨作業は楽勝です。

■最後のツメは慎重に！
最後に各パーツを慎重に接着します。クリアー吹きで全体的にむくんでいるので、パーツのすり合わせを接着前にならずチェックして行います。機体が完成したらベースに乗せ、車輪止めを置いて完成です。

なんかごちゃごちゃ書いてしまいましたが、1~2週間、毎夜3時間くらいの工程なので大して苦にならず、充分模型製作を楽しめると思います。細かいことを考えず、ババッと作ってしまうのもいいもんですね。製作中は何かかも忘れ無心で没頭する、これですね！





富士T-1ジェット練習機は、T-6テキサン練習機の後継機として開発された戦後日本初の国産ジェット機である。1958年に初飛行。1960年からプリストル・オルフェースエンジンを搭載したT-1A 46機、国産ジェットエンジンであるIHJ J3を搭載したT-1B 20機、合計66機が生産された。以後航空自衛隊で中間練習機として各基地に配備、良好な飛行特性と高い信頼性で長く使用されたが、1988年に登場した川崎T-4練習機が後継となり、2006年3月末に全機が退役した。■協力：所沢航空発祥記念館

富士 T-1B ジェット練習機
Fuji T-1B Jet Trainer



■所沢航空発祥記念館のご案内

埼玉県所沢の所沢航空発祥記念館は、明治44（1911）年、所沢飛行場で徳川頼義陸軍大尉の操縦するアンリ・ファルマン機がわが国最初の飛行場での初飛行を行ったことから「航空発祥の地」として永く後世に伝えるため、航空をテーマとした博物館として平成5（1993）年に開館しました。会式一号飛行機、富士T-1B、シコルスキーT-19、パトールV-84などの実機のほか、航空の歴史や構造が展示される展示館、IMAX映写設備を備えた大型映像館などがあります。

■開館日時 9:30～17:00、入館は30分まで
休館日 月曜日（月曜日が祝日に当たる場合はその翌日）

■入館料 個人：大人520円、小人260円

団体：大人410円、小人200円（団体は20名以上、小人は小学生および中

学生）

小学校未満は児童、65歳以上、障害者は無料。

■交通 電車：西武新所沢駅（航空公園）駅東口より徒歩8分

バス：所沢市営バス 所沢ICから

国道463号を所沢市街方面へ約6km

■問い合わせ 所沢航空発祥記念館（埼玉県所沢市記念公園内）

〒359-0042 埼玉県所沢市本1丁目13番地

Tel：04-2996-2223 FAX：04-2996-2531

ホームページ：http://am-web.jp/or.jp/



1、2：所沢航空発祥記念館のT-1B 856号機はT-1Bの6号機にあたり、愛知県小牧基地の第5術科学校を2005年に退役、2006年より記念館に展示されている。

3、4：胴体の正面面積を減少させるために採用された、特徴的なスプリット型機首エアーテイク。2分されたダクトはコクピットの左右を通りエンジンに導かれる。

5：英国機に似たラインの垂直尾翼。後退角は35°。第5術科学校のマーキングは名古屋城のシャチホコにローマ数字のVを重ねたもの。

6：左主翼。後退角25°のテーパー翼で境界層吸い取りを持つ。グレーで塗装された主翼上面歩行帯の境界線は黒ではなくダークグリーン。





7~9: 左主翼下の主脚。タイヤサイズは26×6.6 (インチ)。主脚側のカバーは平面形状で内側は複雑な形状だが表面は平ら。
10: 右主翼下の主脚ベイ。内部油圧シリンダーと前方のアームによる単純な引き込み方式。



11, 12: 前翼収納庫内部。機首スペースが限られているためドア前部にはタイヤを避けるくぼみがある。左右ドア前部には各々ランディングライトが取り付けられている。
13, 14: シンプルな前脚。油圧ダウンでも脚出しが可能のように前方に向かって引き込み形式。タイヤサイズは18×5.5 (インチ)。
15: 展示組立工程中に撮影されたコックピット。現用機を見慣れた目には大戦機のようにシンプル。(写真提供: 所沢航空発祥記念館)
16~18: 胴体下のエアブレイク。基部両端が増積されたため複雑な形状だが、格納スペースは設計当初の単純な長方形のまま。



19: 左主翼付け根前縁のエアインテイクはコックピット空調用で、胴体下部左のアウトレットから排気する。
20: 主翼は翼端に向かって3.5°のねじり下げが付く。F-86Fと共用の120ガロンのドロップタンクは当初A型のみの装備だったが、後にB型も搭載できるようになった。
21: エンジンのジェット排気口。展示機はエンジンが装備されていないため、機首のインテイクから排気口まで素通し。機体の各種注意書きはすべて日本語表記。

モブ吉のぼのぼの模型日記

●初級編(機体組み立て前にやっておくこと) by 松本 州平

●今回は機体を本組みする前にやらなければならぬ所(コックピット計器盤、キャノピー、脚部等)を少しだけ手を加えるだけで"7"とモリアルになる。おはなします。

●最近のキットのコックピット部は、何もいふてもなかなかの組みあがりです。

◎これでも充分ですが...。少し手を加えるともっとよくなるはず。パイロットを乗せる時は、見えてるところだけでいいよ。

まずはコックピットの資料を参考にしてみる。

●コックピット

モールドとすれないようデカールをはる。

●マークソフター(又はデカールシート等のデカール硬化剤)を使った後、ぬれたデカールペーパーを圧着して、凹凸にフィットさせていく。

ぴったりフィットするまで、何度もやってネ。

★細いパーツはランナにつける時に塗ると楽。

モールドがくさり出してもリアルです。

◎ぼくは、レーザ類は昆虫採集用の虫ピンを使っています。

◎3D塗装はモールドを削り取ってから、焼きなました真鍮線を、エナメル線などで、作り直します。

◎照準ガラス部分を削り取って、うすいアクリル板にするといい感じになります。

◎言い忘れてました! 市販のシートベルト(エナメル線等)をつけるとよりgoodです。

●キャノピー

●キャノピーを南状態にしたい時、この部分の厚みが気になる場合は、カッターで削ります。

○アルミシールでマスキング

○ここをカット

アルミシールを圧着

内側はマスキングテープでマスキング。

※アルミシールを切る場合、さる極細カッターの刃を、まめに新しいものと交換しましょう。

●脚部も接地している実機の写真を参考に、手を加えてみよう。

●脚部

●ブレーキパイプは焼きなました真鍮線を使用。

◎次回はエンジン部と塗装についておはなします。

●機体内部色を吹をつけてから、機体色を吹つけてください。

○オカ部はプラ板と伸縮ランナーで作ってみてもいいかも。

この部分をカット

●ダンパー部分もカットしましょう。

●脚部を作り込むだけで、かなり精密度がUP!

タイヤの底は少しサンドペーパーで削って機体の重量がかかる状態を演出。

★もちろん、脚カバーも同様に伸縮部をカット。又は、今回の集のように外側に広げたりして表現します。

●まとめ

- まず、接地状態からシモにするか、フィギュアを乗せるか、乗せないか決める。
- 組み立てた時コックピットのよく見える部分を確認。そして、よく見えるところは、特にデカールを上げよう。
- 脚部は完成した時、以外と目立つ場所です。手を加えてみる価値があります。

●デザインカッター、電動リールがあると作業が楽です。

ドイツ軍が
改造したKV-2



L=203mm
W=94.8mm
H=94.6mm
348parts

¥2,940-(税込)

00367 1/35 German
Pz.Kpfw KV- II
754(r) Tank



6月のトラベは
陸・海・空と、
勢ぞろい

07210 1/72
Sf.L/61 (Pz.Sf. V)
STURER EMIL

¥1,680-(税込)

1/35に続いて1/72で再登場



L=135.6mm
W=44.1mm
H=56.8mm
110parts

02808 1/48 WELLINTON Mk. I C

¥10,290-(税込)

1938年から1953年の間。9000機以上が生産され、イギリス空軍の爆撃機として活躍した、ウィッカース・ウェリントン・Mk1Cが1/48のビッグスケールに。



L=387.3mm
W=54.7mm
644parts

ノーマルのフッドもこざいます。¥12,600-(税込)

05302 1/350
HMS HOOD



L=749.4mm
W=59.5mm
533Parts

05302S 1/350
HMS HOOD
Special Edition

日本国内だけの
限定発売キット
真鍮製の大炮と機関
砲、さらにはクレーンと
いったアップグレードパ
ーツがセットになっています。



¥14,490-(税込)



★この帯が目印です。

¥5,040-(税込)
ガトー級1番艦が
開戦当時の仕様で登場



05905 1/144
U.S.S. GATO
SS-212
1941

L=659.9mm W=57.7mm
121parts

05305 1/350
USS ENGLAND
DE-635

護衛駆逐艦イングランドが
1/350スケールに仲間入り



¥3,150-(税込)

L=266.4mm
W=32mm
177parts



Hobby Master Ltd.

1/56 M1A1HA
ABRAMS

各¥3,675-(税込)

HG0104



デザートイエロー

HG0105



NATO迷彩

↑第1海兵師団
第2海兵戦車大隊
C中隊 第2小隊
指揮官車両

←タスクフォース
タラワ所屬
D中隊
第1小隊車両



ダイキャスト製完成モデルの常識を覆した繊細な仕上がりに大注目です。



最新情報は、弊社ホームページでご覧になれます。

www.interallied.co.jp



トランペッター輸入元: 激ウェブ モノクローム取り扱い: 激ランキーズ・サン
発売元/問合せ先: (株)インターアライド
〒223-0057 横浜市港北区新羽町543
phone: 045-549-3031 fax: 045-549-3032
mail: info@interallied.co.jp



お近くのホビーショップでお求めにならない場合、
☆スターショッピング☆にアクセスすれば、通信販
売でお買い求めできます。また、ご注文はお電話
でもファックスでもお受けいたしております。詳しくは
土日・祝日も受付しています。通信販売専用ダイヤル
045-549-3033(11:00~19:00)へご連絡下さい。

www.interallied.co.jp/starshoppingtop.html

■ ポーランドで最も大きな模型展示イベント! OSTROW WIELKOPOLSKI 2006

2006年3月11～12日にポーランドのオストロウで開催された「OSTROW WIELKOPOLSKI」は、今年でまだ7回目の新しい模型コンペティションだが、模型関連のイベントとしてはポーランドで最大のものである。今年は、44部門でおよそ500点もの参加作品が集まった。今号ではAFV作品を、次号で飛行機部門の優秀作品を紹介する。

■ リポート・写真：プルツェミスラウ・スクルスキ
■ Photos & Text by Przemyslaw Skulski



■ アキュリーズ駆逐戦車 アカデミー 1/35
Krzysztof Pawlik氏製作

砲塔内はもとより操縦室や戦術室内部などもかなり作り込んでいます。



■ III号戦車G型 ドラゴンモデル 1/35
Stanislaw Jablonski氏製作

ウェザリングの効果を上手くいかけた塗装で、車体になりがちなジャーマングレー車色車体もご覧の仕上がり。





■ IV号戦車E型 ドラゴンモデル1/35
Krzysztof Opilka氏製作

話題のドラゴンモデルIV号戦車を北アフリカ戦線仕様で製作。



■ Sd.Kfz. 8 FAMO
12tハーフトラック 8.8cm Flak18 搭載型
プラネットモデル1/72
Robert Porada氏製作

1/72スケールにもかかわらず、かなり細かく作り込まれている。



■ M8 グレイハウンド イタリアリ1/72
Marek Zietek氏製作

車体内部、砲塔内部共に細かく再現。一見1/72スケールとは思えない。





■ティーガーII ドラゴンモデル1/35 Marcin Kita氏製作

戦時中の撃破されたティーガーIIの実車写真を1/35スケールのキットを使ってジオラマに再現したもの。



■ティーガーI極初期型 & KV-1『Ost Front 1942』
ドラゴンモデル1/35 & トランベッター1/35 Mariusz Filipiuk氏製作

ティーガーIとKV-1を使用して1942年東部戦線の1シーンを再現。



■ホイベット スクラッチビルド1/16 Jacek Szafranski氏製作

第一次大戦に登場したイギリス軍のホイベット快速戦車をなんと1/16というビッグスケールでフルスクラッチ!



Chester Swee Pea

ベガソ 1/48 チェスター スウィーピー

1947年、第二次世界大戦直後のアメリカで新設された廉価かつ簡易なホームビルド機によるエアレース「グッドイヤー・トロフィー」。元パイロットで航空機メーカー勤務のアート・チェスターはV型尾翼を持つ独創的な機体「スウィーピー」を製作、オハイオ州クリーブランドでの国際エアレースにエントリーし2位に入賞した……なんてエゴタクは置いといて、現代に失われたかわいさ、ぬくもりを求め、ペーパークラフトジオラマも堪能できるメキシカンキットで今月もオッチャンは楽しく Legend!



■ベガソ 1/48 チェスター スウィーピー
■製作・文：樋口眞三郎
■Pegasso 1/48 Chester Swee Pea
■Modeled & Text by SHINZABURO HIGUCHI

■こんな出ましたけど

私のストックの中でまたまた変な奴が出てまいったのでございます。永い永い間押し入れの肥やしになっておったのですが、ヒョンなことから今回の登場と相成りました。昔なつかしいフレーズで言うと「こんな出ましたけど……」（関西ではおなじみの泉の占いおばさんの決り文句）というキットです。

昔々、通販でアメリカのスコードロンから購入いたしました。プライスは確か1ドルちょっと、送料込みで1.30ドルといったところだったと記憶しています。日本円で150円くらいとはお買い得なキット

です。レベルの1/72ファイターシリーズとほぼ同じ大きさのBOXで、イタレリのようなキャラメル箱です。「お前は一体なんやのん？」とキットを手にとり、シゲシゲ眺めておりましたが、国籍不明です。BOXのサイドエンドに小さく小さく「Made in Mexico」の表示を発見しやっとなった次第です。BOXアートはきわめて発色のよくない印刷で完成機が真ん中にあり、その上には各国の国旗がズラリと並んでおります。

■かわいい、ぬくもりのあるキット

ここまではどうってことないのですが私の目に入ったのは右下のジオラマ風写真です。でその説明文字がまた小さく（直径1mmぐらいの文字で）＜EXHIBITION

DIORAMA INCLUDED＞とあるではござらぬが……。ということで、BOX OPENするとなんとペーパークラフトが3枚出てまいったのでございます。で、いつものように「作っちゃおう！」となったのでございます。

パーツはスタンド込みで、全部で12点です！ バリだらけです。ヒドイです。作る前から合いの悪さはバレバレです。パーツのエッジが溶けてなくなつとります。デカールはエッジのところがピンぼけです。しゃ～ないです。でもでも何となく魅力のあるキットなのです。チープです。かわいいです。オシャレです。小さいです。今のキットにはかけらもない「ぬくもり」のあるキットです。オッチャン、大いに気に入っちゃいました。

■というわけでいざスタート

大昔のキットらしく、パーツにはデカールのロゴがくっきりはっきり凸モールドされております。Legend博士の私としてはきっと1950～60年代のキットだと見てとれます。レーザー風のフォルムがなかなかかわいいです。この「かわいさ」は今のキットにはないのが、最近私は気になっております。

プラモデルはBOX OPENしたとき「おっ、なかなかいいじゃん。さっそく作るぞ」という気をおこさせることがとても重要です。読者のみな



さま、ご自分たちのストックの多さに気がつきませんか？ その原因の一つが“作る気”を起こさせるキットの少なさにあるのではないかな？ドウトンボリと思ったりします。

■まず飛行機からやっつけます

パーツを1つ1つていねいに整形してやります。尾翼および脚のセット穴は全く合いませんので、自分で何とかいたしましょう。キットにセットされているデカールは全く使う気はないのではっとけハム太郎しときます。キットパーツの凸モールドを全てヤスリ落とし、意味不明のエグレ、穴ボコ、タワミ、エッジ欠けなどをていねい、かつ入念に処置します。何てったってこれはレーサーなので、ピカピカ仕様にせねばなりません。1/48といえど、レベルのファイターシリーズの大戦機くらいの大きさなので手のひらサイズです。クリアパーツは全くありません。キャノピーは白の胴体パーツと一体で、透明ではありませんが、そのまま行っちゃいます。今回はキットBOXにセットされているパーツ以外、一切使用しませんと私はLegendの神様にお誓い申し上げました。

一応吹ける形になったところで1200番のサフで1回。その上にグレーを1回吹き重ね、表面を整えます。その上に白に限りなく近いグレーを吹いて、準備OKです。キャノピーを黒鉄色でそれらしく、胴体の赤のラインもどきを吹いて、デカールをセットします。デカールは、他のキットと今まで使ったデカールから、お好みとお気に入りでごチョイスし



▲音がつかしいペーパークラフト。
▼パーツ全12点でおしまい。
▼デカール。

▶全部合いません。すき間を瞬間接着剤で埋めまくり。
▶サフ吹いて化粧持ち状態。
▼インストは英語にスペイン語を併記。

ます。これがアナタ、なかなか楽しい作業なのです。機体中央に赤星を、フラップと尾翼のところにも小さな赤星を、脚タイヤ収納部のところには黄星を。とどめに、胴体には真っ赤なハートマークでレーサー気分を盛り上げてやります。飛行機の方は一応これで完成といたしやす、お代官さま。

■で、今回のウリ

ペーパークラフト・ジオラマです。遠い遠い昔の少年少女向け月刊誌には、付録としてこのようなものがよくセットされておりました。「ばくら」「日の丸」「少年画報」「冒険王」「少年クラブ」etc、ガキだったオッチャンたちは、その付録で1日中タップリ楽しめたもんです。といわけで今回も楽しんできました。ただ、紙質があまりよくないので「谷折り」「山折り」がうまくいかず、カッターで切れ目を入れまくってやっと完成です。フニキとてもグッドです。メキシカンタッチがあふれております。適当なベースに人工芝を貼り、BOXアートにあった通りにレイアウトして完成です。うーん、カワイイ！ ではまた。



Accurate Miniatures 1/48 Grumman TBF-1C Avenger

大和をはじめ、数々の日本
キモカッコイこのアベン

艦艇を沈めた雷撃機アベンジャーは、戦後日本でも運用された万能機。
ジャーを、雷撃機ファンのシニアモデラーが作ります。



■アキュレイトミニチュア 1/48 TBF-1C アベンジャー

■制作・文：前島敏彦

■Accurate Miniatures 1/48 Grumman TBF-1C Avenger

■Modeled & Text by TOSHIHIKO MAEJIMA



アキュレイトミニチュア 1/48

グラマンTBF-1C アベンジャー ■制作日数：約1.5ヶ月

■キット発売後、もう10年が

モノグラムのキットしかなかった時、このキットの登場は艦爆、雷撃機ファンとして大いに興奮し、高価格にもかかわらずモチベーションが高まったことを記憶しています。

今回の作例は約9年前に制作したもの。最近作とはやや制作スタイルが異なり90%ストレート組みといったところですが、この方が健康的かなと思います。

■キャンピーマスクは永遠のテーマか

キャンピー枠のマスキングに早道、近道、抜け道はありません。

自分にとって1番確実な方法をとりました。私はセロテープの細切りスタイルです。枠にそって貼っていき、カーブ枠にはカーブ定規や円定規をテープに置いて、ゆっくり丁寧にカッターで切っていく、それを貼りつけます。最近では目の衰えとボケから「色付きセロテープ」を使っています。これは貼り忘れや曲がりなどが楽にチェックでき、シニアモデラーにはお薦めです。

■米軍機の機体塗装を、 スケールに見合った模型塗装に

今ではGSIクレオスMr.カラーの飛行機特色セット(3)「US NAVY COLOR」にシーブルーもインターミディエイトブルーもあり、ソリッドカラーが入手できなくても

全く問題はないでしょう。

・まずはコックピット内。グンゼのMr.カラーNo.303(グリーンFS34102)に微量のNo.11ガルグレーを加えてスケールに見合った明度UP、彩度DOWN。

・機体上面のNS(ツヤ消し)シーブルー(FS35042)。ソリッドカラーA3にイメージでやや青味を加えたNo.322(フタロシアニンブルー)を若干プラス。そしてホワイトをはんの微量(2、3滴)加えてスケール的な明度にUP。

・機体側面のNSインターミディエイトブルー(FS35164)。ソリッドカラーA4にやはり微量のホワイトで明度UP。

・機体下面のNSインシグニアホワイト(FS35164)。ホ



■参考資料
 『世界の傑作機 No.82 TBF/TBM アベンジャー』(文林堂)
 『モデルアート』No.483 (モデルアート社)
 『REPLIC』No.51 (Editions DTU)
 『in action TBM/TBF AVENGER』
 (Squadron/Signal)
 『空母雄鷹』神野正美著
 (朝日ソノラマ)



ホワイトにNo.44タンとNo.11ガルグレーを加えて明度を若干ダウン。イメージとしてその混色されたホワイトに白線を入れて、白線が見えるくらいの明度に下げます。

・翼上面のセミグロスシール (前縁のみNS)。前記を参照。

・国籍マークはエアブラシで。主翼下面のみデカールで手抜き。

デカールの星型をコピー、スプレーのリ (接着面には残らず、何回も貼りなおすことができます) を吹き付けて、そのコピーをカット、まんまマスクに代用します。私は今でもこの方法をよく使います。

コードレターは特注インレタ。デカールやインレタを貼る場合、必ず地肌はグロス状態に磨いておくこと。もしくはグロスカラーで塗装を。これはシルバリング防止の必テクです。

■ほんの少しのディテールアップで、充分OK効果が

・コクピット前方の照準器リフレクターガラスを透明エンビに置き換える。

・排気管のエッジを薄く加工。リューターがあると便利です。

・シートベルトは1.5mm巾のMAXONのグラフィックテープに着色 (No.44タン+No.22ダークアース+No.122ライトグリーン)。ベルトの止め金具はエッチング。

今ではカラーエッチングのシートベルトが手に入りますが、このテープのほうがベルトの質感をだしやすく捨てがたいと思います。

・主翼下面の八木アンテナは洋白線に置き換えてシャープ化。接着はゼリー状接着剤で。

・主脚柱にブレーキコードを付ける。



フィギュアを自作しよう! ミリタリー・フィギュアのスカulpting

ドイツ・ヴァッフェンSS トートンコープフ師団の兵士 冬

今回は趣向を変えて、韓国の新興フィギュアメーカー、インフィニティシャープ社の Hyun Jae Hyuk 氏によるミリタリーフィギュアのスカulpting について紹介。同社は、まだ新興のメーカーながらもその造形センスは海外でも高い支持を集めている。Hyuk 氏の造形テクニックは、フィギュアのスカulpting に興味のない方もフィギュアのポーズ変更や改造などのヒントになるはずだ。

■インフィニティシャープ 1/35
ドイツ軍SS トートンコープフ師団兵士 冬パート2 (ホワイトメタル製)
■製作・文: ヒュン・ジェ・ヒュック (インフィニティシャープ)
■翻訳: 木内一夫
■協力: ミニチュアパーク
Tel 03-5807-8952 <http://www.miniature-park.com>
■Infinity Sharp 1/35 Totenkopf Winter #2
■Modeled & Text by Hyun Jae Hyuk

■作業環境と工具、材料について

私はフィギュアをスカulpting する際には主にA+Bパテとリョーター、爪楊枝、鉄筆、デザインナイフ、サンドペーパーなどを使っています。

当然、他の原型師は、ほかにも色々な種類の道具を使っていると思います。しかし、私はこれらのツールで原型を作るのに慣れており、爪楊枝は写真のように先端の尖ったものや丸いものなど2~3種類を用意して使っています。

■フィギュアのスカulpting

私は、通常1/35のフィギュア1体作るのに平均5日を要しています。フィギュアを作る作業は見た目には簡単に映るかもしれませんが、手が作業を覚えるまで練習しなければいけませんから、上達するまでは退屈な作業を繰り返さなければならないと覚悟してください(笑)。しか



▲製作者の Hyun Jae Hyuk 氏。
▼Hyuk 氏を使用している爪楊枝、鉄筆、デザインナイフ、サンドペーパーなど。この他にリョーターを使用しているくらいで、意外と使用ツールは少なめ。



▼フィギュアの製作に使用した「A+Bパテ」(エポキシパテ)。500g入りで3780円で購入可能。取り扱い: ミニチュアパーク。

し自分の手の中で一つ一つの部分が出来上がる様子を見ていけば、スカulpting (原型製作) の作業はとても面白い作業だときっと思うはずです。

今回の製作方法は、フィギュアの自作のみならず、市販キットのポーズの変更や改造などの際にも参考になるはずです。フィギュアの製作は、部分ごとに行って行きます。製作過程を写真を交えて解説します。

なお、今回製作したフィギュアはインフィニティシャープ社の製品、ホワイトメタル製1/35の「ドイツ軍SS トートンコープフ師団兵士 冬パート2」(取り扱い: ミニチュアパーク 品番ISWU-019 価格: ¥2520) の原型となったものです。



●ブーツの製作

写真1：まず最初に身体の基本部分を作ります。

写真2：ブーツ（作例はドイツ軍の冬防寒ブーツ）を造形。

写真3：靴底の部分はあらかじめ自作したものを型どりして使用。

写真4：基本的な形が出来上がった状態。

写真5：鉄筆を使い、実物の写真を参考にしながら、縫い合わせを一つ一つ彫刻で表現していく。ほぼ完成したブーツ。

●ズボンの製作

写真6：次にズボンを製作。まず腰の部分にベルトのモールドを入れる。これは、上半身と下半身のバランスを見るのにとっても重要。

写真7：右脚部分から作っていく。その理由は男性のズボンは中央部分でズボンの右側に左側が重なるようになっているからである。

写真8：今回のフィギュアは冬期装備なので、ズボンの上部は上着で見えなくなってしまうので、その部分の彫刻は不要。シワの表現は一気に行ったほうがよい。作業を中断すると、それ以前と以後で表現が微妙に変化してしまうことがある。

写真9：ズボンのシワを付けた後に前後の縫い合わせを再現。防寒服の形態に合わせてパテを長くひも状に延ばして、縫い合わせの位置を作製。

写真10：次に爪楊枝を使って、シワの凹凸に合わせて、回すように撫でていけばシワと縫い合わせ部分が自然な感じに仕上がる。

写真11：縫い目の彫刻はデザインナイフを使用。デザインナイフで彫刻した部分（縫い目）と裁縫線の間隔が一定になるように注意しながら、爪楊枝でアタリ線を取り、その上を鉄筆などを使って裁縫線を彫刻していく。この部分は、スカルプティングの中でも忍耐を要する部分。

●上衣の製作

写真12：ベルトの部分基準に、まずベルトより下の部分を作製。多くの資料写真から、冬期服のシワの付き方の特徴を読み取り、それを再現していく。

写真13：この服の場合は下のズボンのシワが、上衣に浮き出るような感じになっている。ベルトによって生じたシワも再現。

写真14：服の縫い目の縫い目はデザインナイフできれいに整え、ズボンと同様に裁縫線を再現していく。

●防寒服の製作

写真15：冬期装備なので、下に着用した戦服はほとんど見えない。よって、戦服は襟部分のみ再現すればよいのだが、襟部分だけ作ってもバランスが違って変に見えるため、戦服全体のおおまかな形態も作った後、襟部分を細かく作っていく。上衣もズボンと同じく右側から作製。女性ものなら反対に左側から。

写真16：襟を作製。この部分は防寒服から見える部分。

写真17：さらに前身頃部分を作る。

●腕の製作

写真18：黄銅線で腕の芯を取り付け

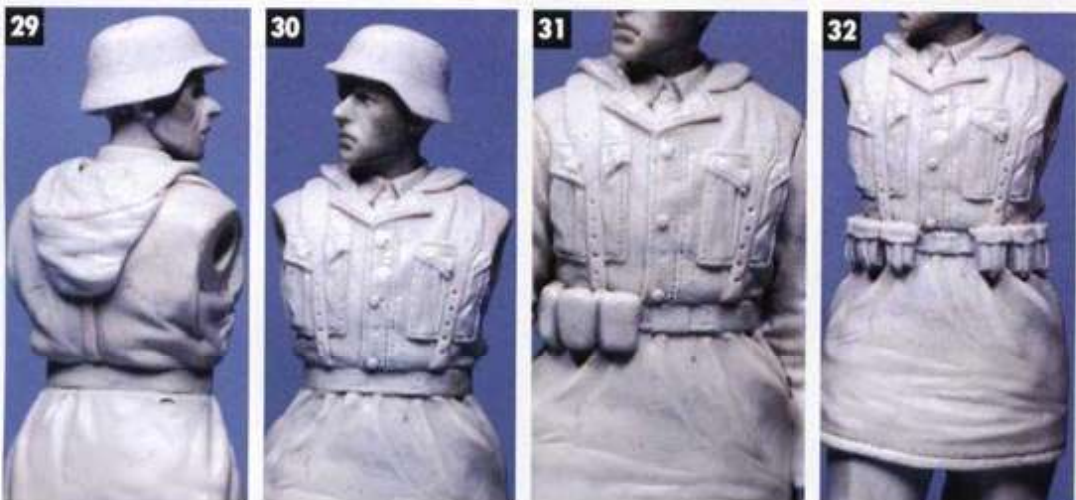




る。作例は0.8mmの黄銅線を使用。
写真19：黄銅線の上にエポキシパテを使用して腕の筋肉を盛っていく。
写真20：エポキシパテが固まったら、デザインナイフで手にモールドを施していく。
写真21：腕の上に袖を盛りつけ、さらにシワを再現していく。
写真22：腕は左右どちらから先に作っても構わない。反対側も同様に作製。

●ヘルメットの製作

写真23：頭のエポキシパテを盛り付け、大まかにヘルメットを形作る。
写真24：エポキシパテが完全に固まったら、デザインナイフを使って正確にヘルメットを形作っていく。



●Y型サスペンダーの製作

写真25：裁縫線を作った時と同様のやり方でエポキシパテをひも状に伸ばしてY型サスペンダーの位置決めをした後、爪楊枝を使ってモールドを付ける。ベルトの穴は爪楊枝で裁縫線を表現する時のようにして製作。腕が付いていないのは、商品化のため別パーツとしているため。

写真26：サスペンダーの後部分も同様に作製。上部は冬防寒服のフードで隠れるので、モールドの位置だけは正確になるように注意。

●防寒服の製作

写真27：防寒服の襟を右側から作っていく。

写真28：反対側の襟も作りながら前身頃の部分を製作。

写真29：フードも再現。この時、裁縫線の位置を爪楊枝で一度アタリを付け、その上をなぞるようにして彫刻すれば良い。

写真30：ボタンを製作。ボタンはそれぞれの大きさを同一にするため、同じ大きさに丸めたエポキシパテをボタン位置に付け、軽く押せば再現できる。ポケットも左右の大きさが同じになるように注意しながら作る。

●マガジンポーチの製作

写真31：エポキシパテでマガジンポーチを大まかに形作る。

写真32：パテが完全に固まった後、ポーチのディテールをデザインナイフを使って入れる。

●仕上げ

写真33・34・35：最後に、ポケットやヘルメットのストラップ、ベルトなどに細かなモールドを入れれば完成。



Diorama Life
Focke-wulf Fw190A-6

ハセガワ 1/32 フォッケウルフ Fw190A-6

このところ車両に歩調を合わせるように進化が著しいAFVフィギュアセット。スケールこそ1/35なれど、傑作フィギュアは飛行機モデラーとしても放ってはおけない。マスターボックスの整備兵フィギュアにインスパイアされたジオラマ野郎、今回はハセガワの新版 1/32 フォッケウルフ Fw190Aを組み合わせる西部戦線ジオラマやろう！

■ハセガワ 1/32 フォッケウルフ Fw190A-6 “チェッカーノーズ”

■マスターボックス 1/35 ドイツ戦車整備兵 1940-44

■製作・文：佐藤太一

■Hasegawa 1/32 Focke-Wulf Fw190A-6 “Checker Nose”

■Master Box 1/35 German Tank Repairmen (1940-1944)

■Modeled & Text by TAICHI SATO



■はじめにフィギュアあり

今回のジオラマの構想のきっかけは、あるフィギュアセットでした。マスターボックス社の「ドイツ戦車整備兵 1940-44」。何の変哲もない2体のフィギュア、テーブルとはしごのセット。しかし過去にこれほどボサ〜と突っ立てるだけのフィギュアがあったろうか。過去にこれほど困ってるフィギュアがあったろうか？ しかもレジンではなく普通のインジェクションキットなのだ。私はこれほどの傑作にめぐり合ったことはない。このようにすばらしいフィギュアを戦車マニアに独占させるわけにはいかない。

こいつで何かジオラマを作らねばならないと思ったのです（わはは、また書き出しが洋書の翻訳文みたいになってる）。

組み合わせる機体はハセガワ 1/32「Fw190A-6」。なぜA-6なのか？ F-8だってD-9だっていいじゃないかという方もいるでしょうが、私の心情としては、戦争末期の状態の中で整備兵が困ってる余裕があるのかどうか、そこらへんが引っかかるのです。A-6で西部戦線ならドイツ軍にもまだ余裕があり、フィギュアを持つ雰囲気「どないでっか？」「あっかんわ〜。クランクケース割れとるで〜」という声が聞こえてきそうな気がするのです。

■機体の製作

それでは製作に入りましょう。今回はエンジンパネルを開けた状態にしたいので、バーリンデン#1675「Fw190ディテールセット」（旧版キット用）を用意。ハセガワの新キットにはエンジン本体は入っていないので、旧版フォッケからエンジンをコンバートしてきました。新版フォッケのカウリング内の突起を削ってやればエンジン自体はピッタリ収まりますので、あとはエンジン架のパネルの位置を決め、すり



請勿轉載至貪婪大陸

只限於個人使用



合わせをして胴体に取り付け。干渉する部分を削り取りながら収めるとちゃんと入っていました。

排気管はキットのものでは貧弱なので2.1mmの真ちゅうパイプで自作しました。形は正確じゃないですよ。現物合わせでエッチングブライヤーとかでグシャグシャ曲げたんで、後ろから見ると口の形なんか不揃いでしょうがないです。カウリングのパネルはエッチングソウで慎重に切り取りエッチングパーツに置き換えたのですが、たまにはこういう作業も楽しいですよ。

フラップはキットのままで最大下げ位置60°を越えているように見え、デロリンとしてカッコ悪いので、差込みのガイドに切れ目を入れ角度を浅くして固定しました。

さてさてコックピットとエンジン周りの塗装と組み付けが終わったら、機体の基本塗装。クリアーがけとデカール貼り。乾燥を待つ間に脚関係とか小物を塗装して取り付けてしまいます。以前はブロックごとに組立、塗装してウェザリ

ングを済ませてから組み付けていましたが、忘れ物に気付いてからはほとんど組み付けてから仕上げるようにしています。

基本塗装はMr.カラーで、パネルラインにシャドーを付け、下地+シャドーの段階から各迷彩色毎にフリーハンドで吹き付けています。RLM74、75、76のように濃い色から塗り、色の境目には明るい色が暗い色の上に軽くなるようにして、古い白黒写真に色を付けたとこんな感じになりそう、という風に仕上げています。パネルラインのシャドーは下地を残すだけではなく、クリアーがけ後にデカールの上からもアクリルのスモークやクリアーオレンジで軽く補強し、最後の油彩でもスミ入れしながらはみ出た色を乾いた筆で馴染まして、単調にならないように仕上げています。黄色はレッドブラウンとオレンジで下塗りした後、ベースホワイト+イエローで塗り、最後にクリアーイエローを軽く吹いています。

傷ハゲは控えめに、日本機のような銀のハゲチョロではなく、グレーや暗いシルバーでドライブラシや細かいキズを書いたりして、ヘッド

ルーベをかけないと見えないぐらいに細かく。西部戦線のドイツ機に大きな剥げ、泥は似合わないですね。しかも中隊長機だし。一番調子いい機体を整備兵が毎日整備しているのだから





スクラップのように汚れるわけがない。といっても実戦で使ってるのだからツルピカでもない。そこら辺のサジ加減が塗装の見せ所になるわけです。

マーキングはキット付属のエーザウ少佐機。でも他の資料によると、どうやらエーザウ少佐の同僚の、他の中隊長の乗機のような？

■ジオラマにする

今回は簡単ジオラマでも、見せたいものを絞ればこんなになるというところをやってみよう。って言うてみるが、いつも見せたい要素しか入れてないので、基本的にはいつもとおなじ。

ベースはお気楽にデコパージュの板に、文房具屋で見つけたコンクリートのような紙をスプレー糊で貼り付け。パステルの粉をちょいと撒い

てティッシュでフキフキして自然な感じにする。

フィギュアと机をセットし、エンジンの下にオイル染みを付けてちょいと考える。ポタポタ油漏れしてたら何かで受けるよな。整備場で油がこぼれたら、洋の東西を問わず砂を撒いて吸い取らせるように掃除するよな……などと考えるながらバケツを2つ用意して、1つには廃油、もう1つには砂を入れる。庭先から砂を取ってきて、茶漉しで濾した砂を入れて瞬間で固定。砂だけ用意しても掃除道具が無ければだめじゃん。ドイツ的なホウキとチリトリを想像してプラバンと真ちゅう線ででっち上げて完成です。でも“ドイツ的なホウキとチリトリ”ってどんな形でしょ。出来上がったのを見ると、サザエさんのホウキと普学校で使ってたチリトリみたい。やっぱり日本人のDNAなのかなー。



請勿轉載至盒裝大陸
及用於商業用途



パネルラインの補強前▲補強後▼。違いわかるかな？。



川崎 キ-61 三式戦闘機 飛燕I型 カラー図解説

太平洋戦争開戦後、連合国の高性能機に対抗できる戦闘機に飢えていた陸軍の大きな期待を背負って制式化されたキ-61飛燕。もともと陸軍機は比較的派手なマーキングだが、飛燕はスマートなフォルムもあって特にセンスのよいものが多いように思える。今号は飛燕I型のマーキングを中心に概説する。なお写真の状態によっては判別が難しいものも多く、マーキング、色、塗装パターン等は、一部推定部分を含む。

■解説：竹内規矩夫
■イラスト：今井邦孝
■Text: KIKUO TAKEUCHI
■Illustration: KUNITAKA IMAI



■川崎 キ-61-I 三式戦闘機I型甲
飛行第68戦隊第2中隊長
昭和19(1944)年
ニューギニア島ウエワク飛行場
昭和18(1943)年中期からニューギニア戦線で78戦隊とともに戦った68戦隊の機体。胴体の太い白帯が第2中隊長機を示す。迷彩は部隊で行われるため、68戦隊の場合は比較的太い縞状の迷彩が特長となっている。



■川崎 キ-61-I 三式戦闘機I型乙
73号機 飛行第244戦隊
震天制空隊 板垣政雄軍曹
昭和20(1945)年初め 調布飛行場
板垣政雄軍曹は帝都防空部隊244戦隊で空中特攻を行う震天制空隊に所属し、2度のB-29体当たり攻撃を行いいずれも生還し、武功章を2度受章した。方向舵の文字はパイロットの姓の頭文字を記入している。



■川崎 キ-61-I 三式戦闘機I型丁
57号機 飛行第244戦隊
震天制空隊 四宮徹中尉
昭和19(1944)年12月 調布飛行場
四宮徹中尉も前述の244戦隊震天制空隊所属。B-29への体当たりでは左翼端を失いながらも生還。その後第19振武隊の隊長となり沖繩戦で戦死。方向舵に姓の頭文字を記入したうえ、Sを意味すると思われる電光を描く。



■川崎 キ-61-I 三式戦闘機I型丁
飛行第17戦隊
昭和19(1944)年10月
レイテ島ドラッグ飛行場
17戦隊は昭和19(1944)年10月のフィリピン決戦に19戦隊とともに参加。その後も沖縄戦や本土防空に従事し、終戦時は五式戦を装備した。中隊の区分は他隊とは違いスピナー前半部の色分けて判別していたといわれる。



■川崎 キ-61-I 三式戦闘機I型乙 製造番号776 第149振武隊
昭和20(1945)年夏 兵庫県芦屋飛行場
第149振武隊は56戦隊から抽出した隊員で編成された特攻部隊。特攻機としては珍しくベタ塗りに近い迷彩がなされている。終戦後の芦屋基地で撮影された写真のためか、迷彩などの傷みが激しい。



■川崎 キ-61-I 三式戦闘機I型丁
独立飛行第23中隊
昭和20(1945)年4月 沖縄
昭和19(1944)年2月以降、台湾、沖縄の
石垣島などを中心に活動した部隊。マーキン
グは23の図案化。背部の帯は中隊長標識とい
われている。



■川崎 キ-61-I 三式戦闘機I型乙
飛行第19戦隊第2中隊
昭和19(1944)年3月 三重県亀山飛行場
昭和19(1944)年10月のフィリピン決戦に備
え、国内で練成中の状態のため迷彩はされてお
らず、工場を出た状態の無塗装のまま。



■川崎 キ-61-I 三式戦闘機I型丙
第39教育飛行隊
昭和20(1945)年3月 横芝飛行場
千葉県九十九里浜に接する横芝飛行場に展
開していた教育部隊だが、教官を中心に防空
戦闘も行った。マーキングは39を図案化した
もの。



■川崎 キ-61-I 三式戦闘機I型乙
飛行第78戦隊 昭和19(1944)年4月
ハルマヘラ島、ワシレ飛行場
78戦隊は68戦隊とともに昭和18(1943)年
にニューギニア戦線に進出。戦地での78戦隊マ
ーキングはさまざまで統一したものが見受けら
れず、この機体は方向舵に7と記入されている
のみ。

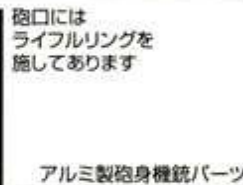


■川崎 キ-61-I 三式戦闘機I型丙
83号機 飛行第18戦隊 第6震天制空隊
小宅光男中尉
昭和20(1944)年1月 柏飛行場
第6震天制空隊は千葉県柏の18戦隊から抽
出された空中特攻部隊。小宅光男中尉は終戦
までに4機のB-29を撃墜。この当時の機体
には3機のキルマークが記入されている。



■川崎 キ-61-I 三式戦闘機I型丙 43号機
飛行第244戦隊 そよかせ隊 石岡幸夫伍長
昭和20(1945)年3月 調布飛行場
以前は小林戦隊長機といわれたが、現在では
そよかせ隊の石岡幸夫伍長機と判明している。
方向舵の迷彩パターンが異なり、別機から取り
付けたと思われる。終戦直後には尾翼は赤。戦
隊マークは白となっている。

請勿轉載至貪婪大陸



CENTURION

Royal Australian Armoured Corps
MK5/1 1:35 (VIETNAM VERSION)
センチュリオンMK5/1 (ベトナム版)

AFV CLUB AF35100

1/35スケール
センチュリオン戦車 MK5/1 オーストラリア陸軍
ベトナムバージョン
¥3,600/¥3,780 (税込) 好評発売中

M40 BIG SHOT

1/35 155mm GUN MOTOR CARRIAGE

5031 1/35スケール

M40自走榴弾砲ビッグショット
価格未定 近日発売予定



ACADEMY

MODEL KITS

AFTER EFFECT

AM13206 1/35スケール
M3 リー中戦車
¥3,400/¥3,570 (税込)
好評発売中

- 特徴的なリベット打ち車体を巧みに表現!!
- 車内の主要部分も精密再現!!





1:35

2006
NEW
[6~7月発売予定]

**Sd.Kfz.251/16 Ausf.D
Flammpanzerwagen**

新金型追加

火焰放射器新規。操作手×2。防護マスク頭部×2。プロジェクターシールド新金型。メタル製レールガード。エッチング製レールガードマウント。前後MGマウント回転可。e2トラック。エッチングパーツ入。真鍮製車幅表示棒。ドライバー入。カルトグラフィックデカール入。他。

6247 Sd.Kfz.251/16 Ausf.D 火焰放射装甲車

¥3,990 (本体価格¥3,800)

2006
NEW
[6~7月発売予定]

1:72 1:72



新金型追加

スライド成型砲身。アルミ製砲身。エッチング製スターアンテナ。他多数。

7238 IV号駆逐戦車 L/70 コマンドバージョン

¥1,365 (本体価格¥1,300)

2006
NEW
[6~7月発売予定]

砲塔新金型(スライド)。後期型用コマンドーズキューポラ新金型。スライド成型砲身。DS素材キャタピラ。エッチングパーツ入。他多数。

7270 T-34/85 Mod.1944 後期型

¥1,365 (本体価格¥1,300)

新金型追加

2006
NEW
[6~7月発売予定]



1:72

60108 Sd.Kfz.181 タイガーI 初期型 ドイツ1945

¥1,890 (本体価格¥1,800)

2006
NEW
[6~7月発売予定]



1:72 1:72

塗装済み完成品。ウェザリング塗装済み。プラ製展示ケース入。

60230 Sd.Kfz.251 Ausf.C 第4装甲師団 東部戦線1943

¥1,890 (本体価格¥1,800)

2006
NEW
[6~7月発売予定]



F/A-18E

塗装済み完成品。駐機・飛行状態選択可能。展示スタンド付。

50194 F/A-18E スーパーホーネット VFA-14

"USS ニミッツ" ¥4,830 (本体価格¥4,600)

2006
NEW
[6~7月発売予定]



F-14D

塗装済み完成品。駐機・飛行状態選択可能。展示スタンド付。

50214 F-14D トムキャット VF-213

"ブラックライオンズ" ¥5,670 (本体価格¥5,400)

● 価格は、標準小売価格です。
● ドラゴンの製品は、輸入品のため発売時期が変更となる場合がございます。

(輸入販売元) 株式会社 ハセガワ 〒425-8711 静岡県 焼津市 八幡 3-1-2 TEL(054)628-8241 FAX(054)627-8046

雑誌 07784-08
L-2006/8/20



4910077840866
01267

定価: 1,330円 本体1,267円+税

scan: 月刊の火